

小千谷市真人町 住民アンケート分析レポート

～ 結果から何かが見えてくるか～
真人町バージョン(全体版)

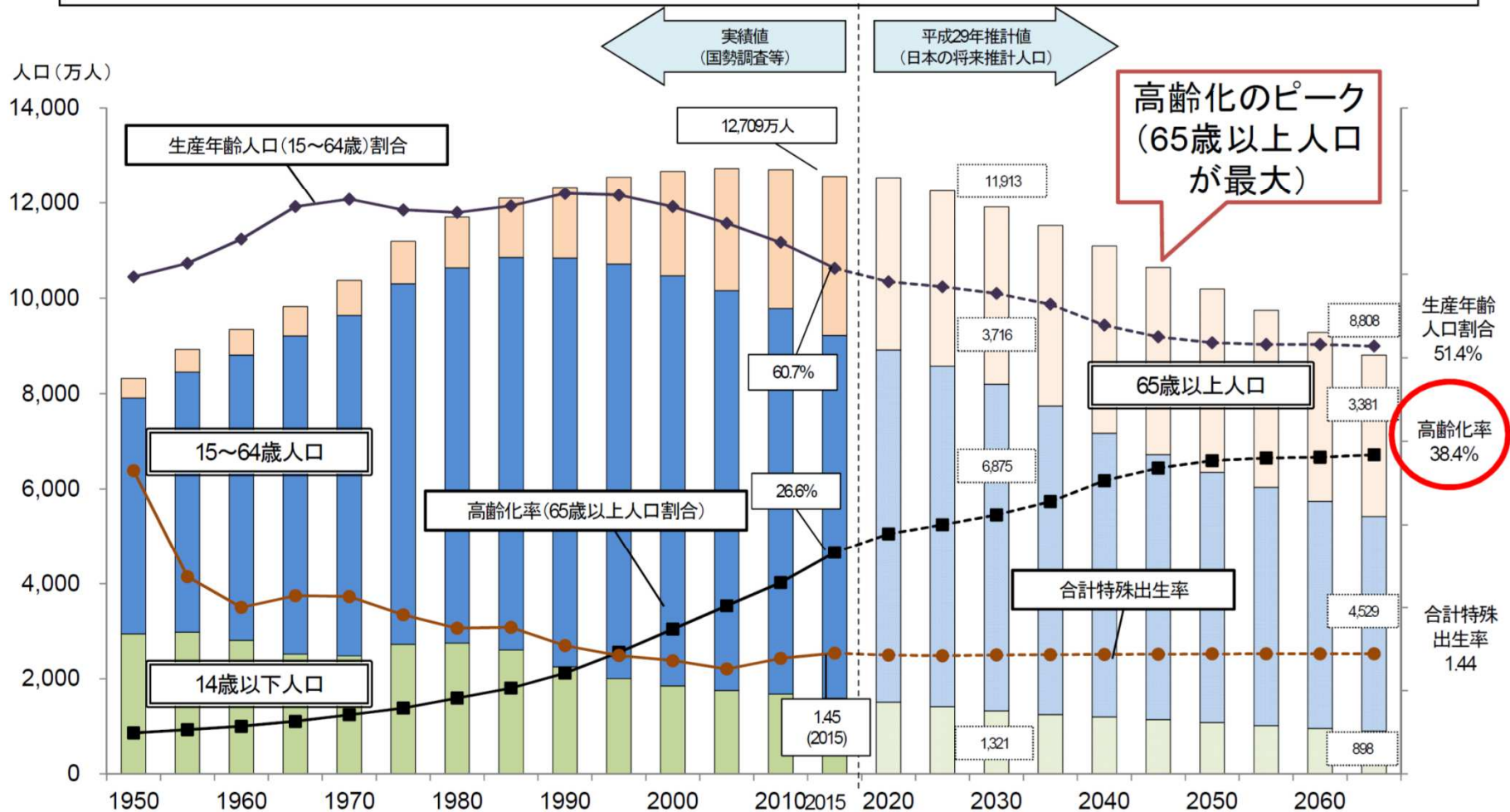
2019年 7月

真人地区町内会長協議会
(真人町担当地域づくり支援員)

日本の将来人口推計

人口の年次推移

○ 日本の人口は近年減少局面を迎えている。2065年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は38%台の水準になると推計されている。

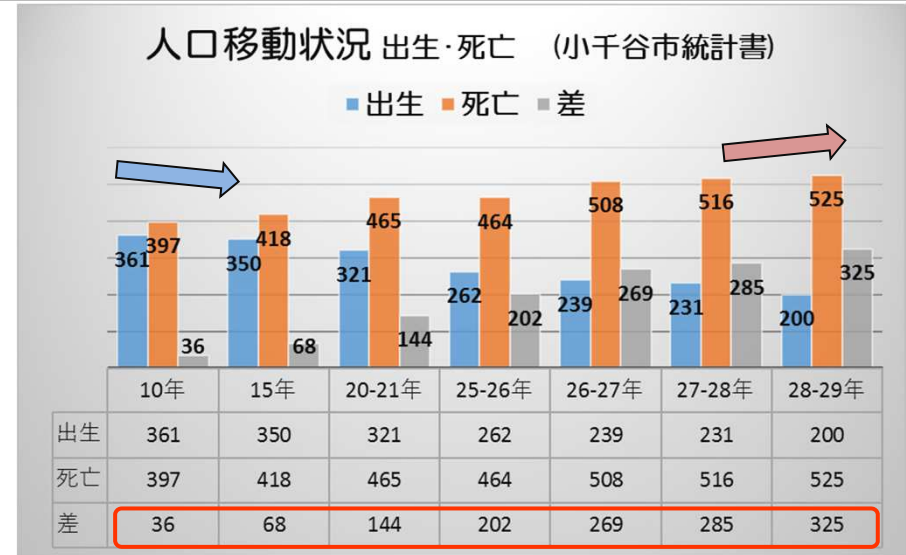
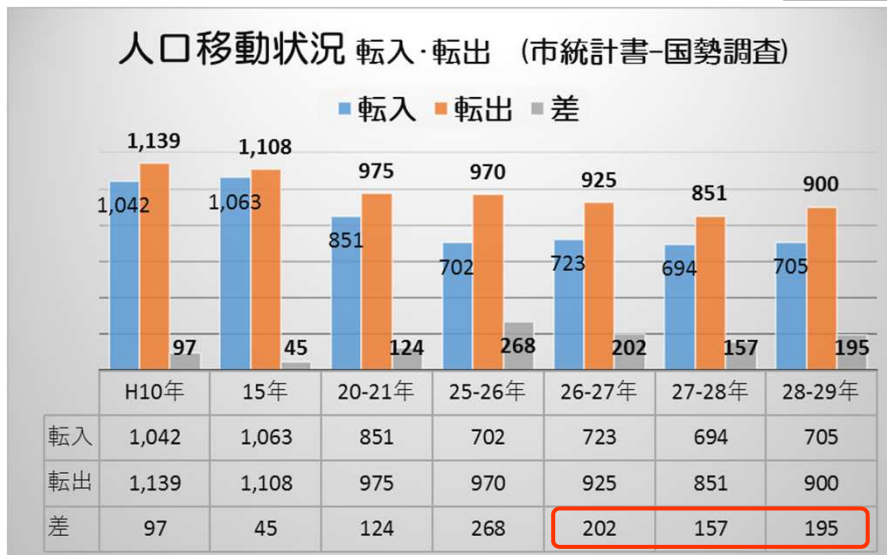
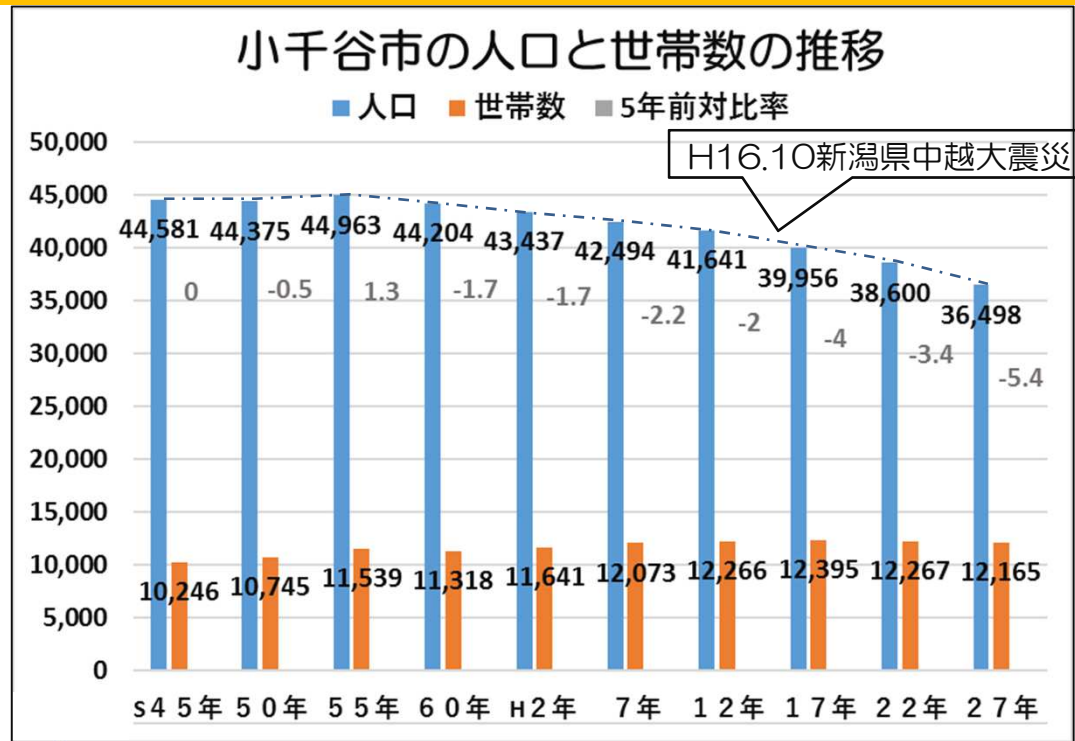


(出所) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29推計):出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口) 厚生労働省「人口動態統計」

小千谷市の人口推移 (小千谷市統計書から)

・人口の推移は新潟県中越大震災以降減少が加速しています。また、核家族化等による世帯数の増加は平成17年をピークに減少に転じました。

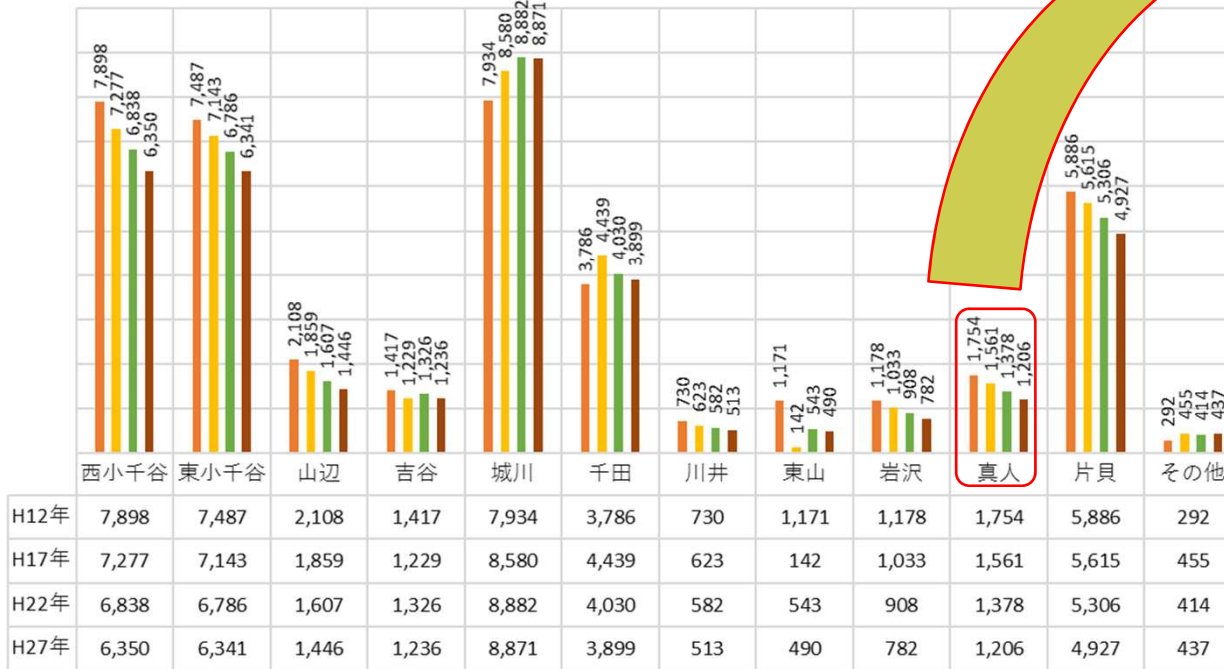
・現象別に人口移動で見ると、「転入と転出」の差は近年横ばい傾向になってきていますが、人口の一定の社会減は継続しています。「出生・死亡」との差は増加傾向となり、少子高齢化による高齢者の増加と少子化による人口の自然減の差は広がっています。



小千谷市の地区別人口の推移

地区別人口 (小千谷市統計書)

■ H12年 ■ H17年 ■ H22年 ■ H27年



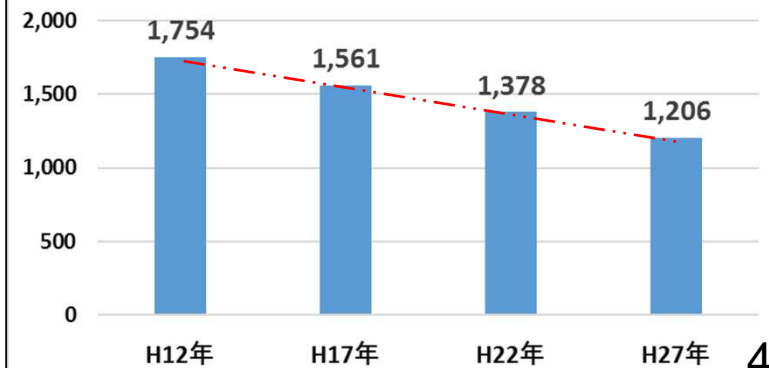
・真人地区の集落においては人口減少に影響のあった平成16年10月の新潟県中越大地震ですが、真人町全体では一定の人口減少が続いています。平成12年を100とした平成27年の人口割合は69%で、東山地区を除く他の中山間地域と同程度でした。

・人口の増減は小千谷市全体で減少傾向です。西小千谷地区に近い城川・千田地区では人口の増加も見られましたが、近年では減少に転じ、すべての地区で減少傾向となりました。

平成16年10月に発生した新潟県中越大地震で全村非難した東山地区の人口は震災前の半以下になりました。千田地区では震災による公営住宅や震災対応住宅地の分譲等による増加がありました。

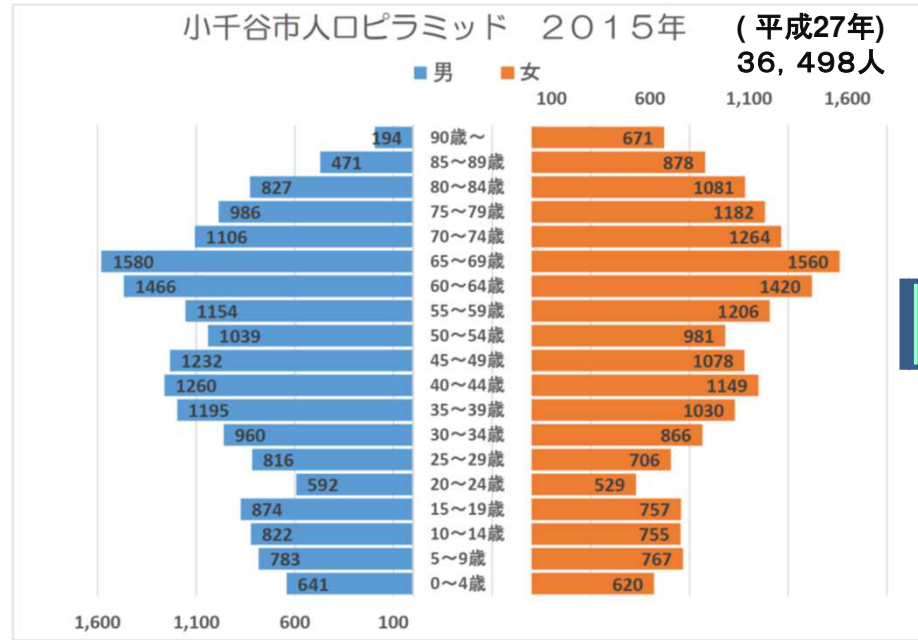
- ・地区別人口で見ると、人口減少以外にも中山間地域から市内のDID地区への市内移動による転入、転出が見られます。
- ・その他は住所移動をした「病院や施設」への入居者です。

真人地区人口推移

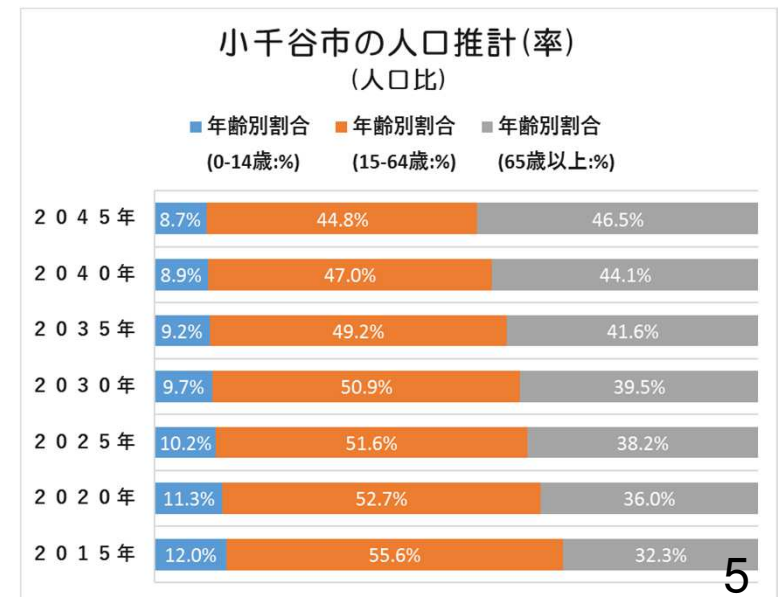
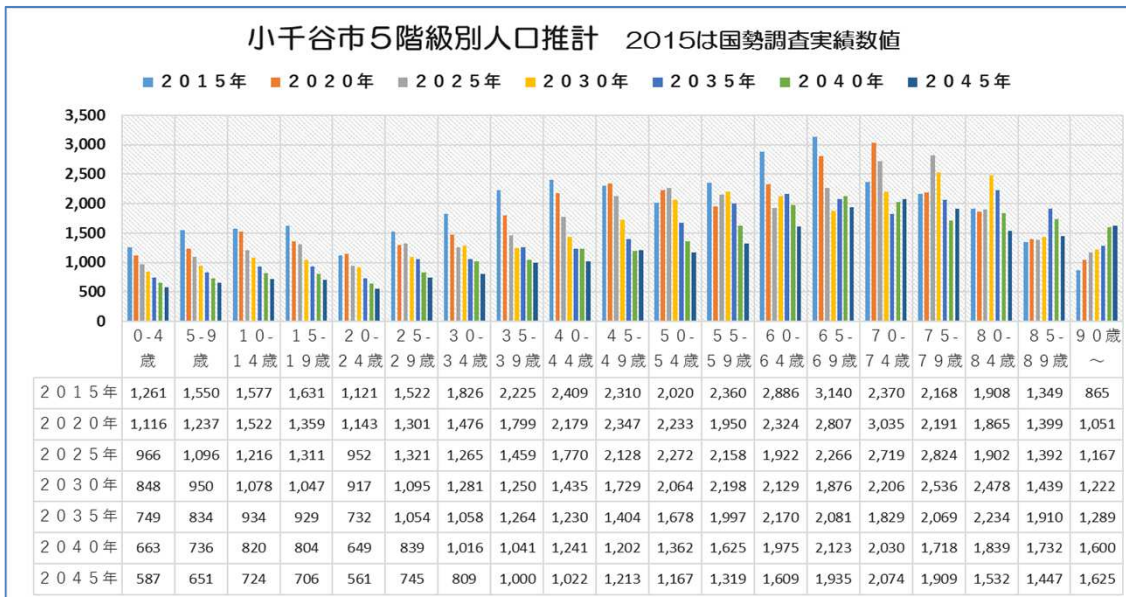
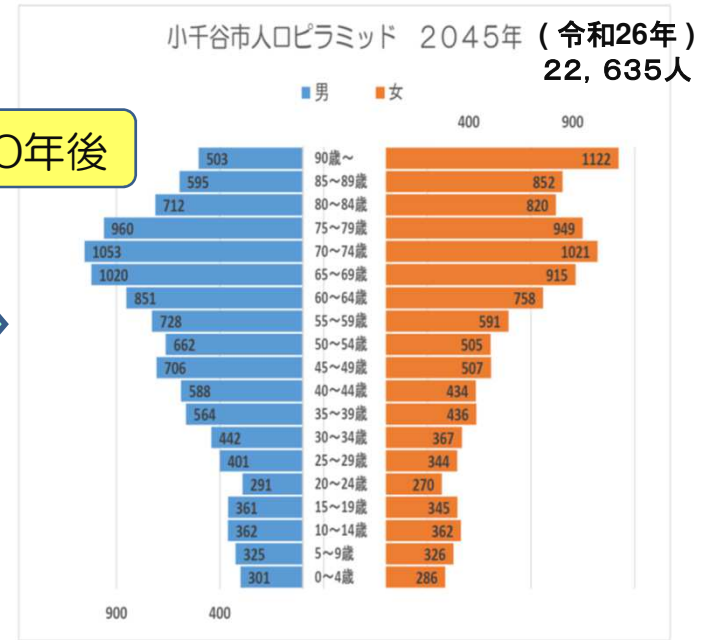
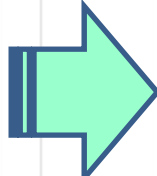


小千谷市の将来人口推計

資料データ 日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)
国立社会保障人口問題研究所



30年後

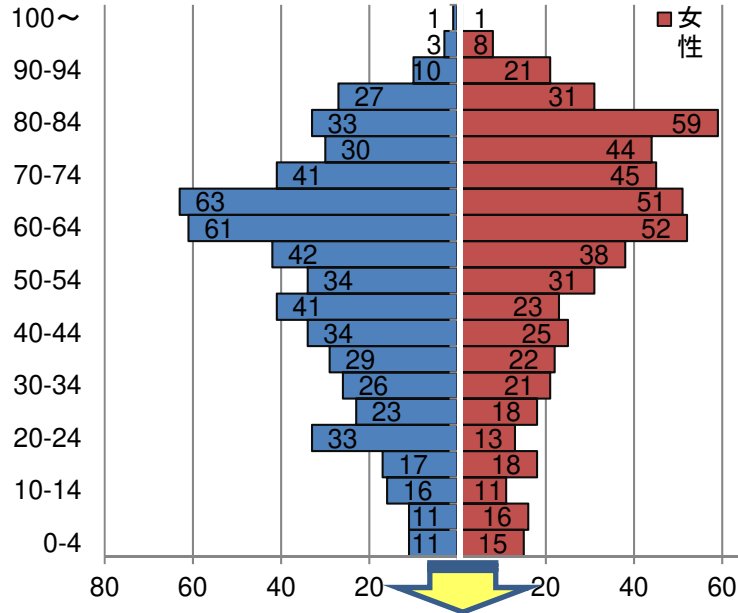


真人町の将来人口推計

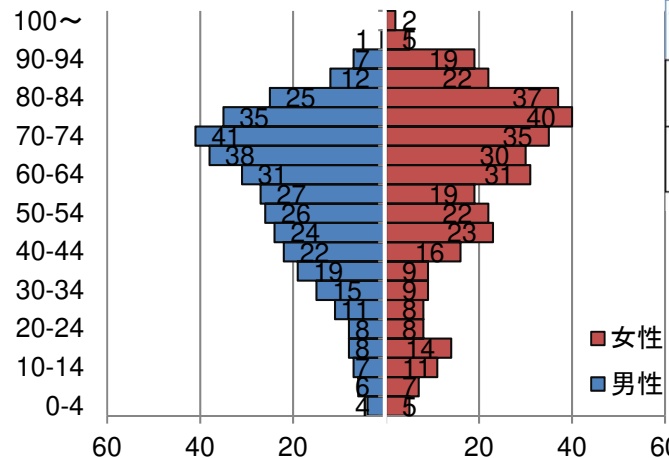
※国勢調査データ、国立社会保障人口問題研究所の予測を基に推計した数値

比較	世帯数	男計	女計	合計
H30.3末	389	586	563	1,149
H23.3末	423	707	699	1,406
増減	-34	-121	-136	-257

真人町地区人口ピラミッド 30.3.31



真人町地区人口ピラミッド R12



☆国勢調査データから見える30年間の人口推移

- ・真人町の将来人口を国勢調査の数値を使用して推計をしました。
- ・少子高齢化が進み人口は減少し、令和12年における総人口は750人を推計、14歳以下の人数は51人で人口比は6.8%となりました。また、高齢者は349人で高齢化率は46.6%の見込みとなりました。

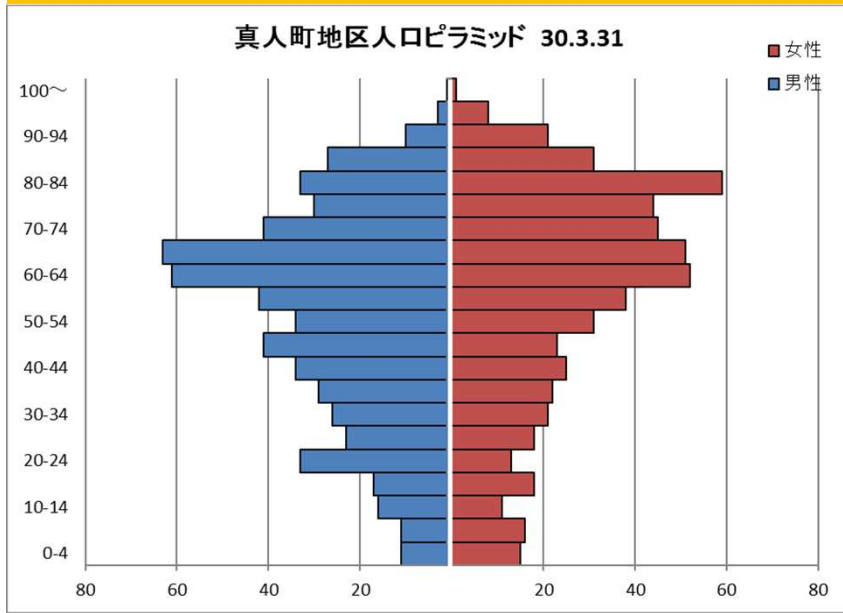
真人町人口推計

合計	2000年(A) 平成12年	2010年(B) 平成22年	2015年(C) 平成27年	2025年(D) 令和7年	2030年(F) 令和12年	C/A H12から15年後	F/A H12から30年後	F/C H27から15年後
合計	1,754	1,378	1,206	887	750	68.76%	42.75%	62.18%
0~14歳	226	114	97	64	51	42.92%	22.61%	52.67%
15~64歳(A)	987	761	639	427	350	64.74%	35.42%	54.71%
65~74歳	316	192	186	179	144	58.86%	45.69%	77.62%
75歳~	225	311	284	217	205	126.22%	91.02%	72.11%
85歳~(B)	47	96	100	89	68	212.77%	144.18%	67.76%
高齢者率	30.8%	36.5%	39.0%	44.6%	46.6%			
A÷B	21.0	7.9	6.4	4.8	5.2			
65歳以上(C)	541	503	470	396	349			
A÷C	1.82	1.51	1.36	1.08	1.00			

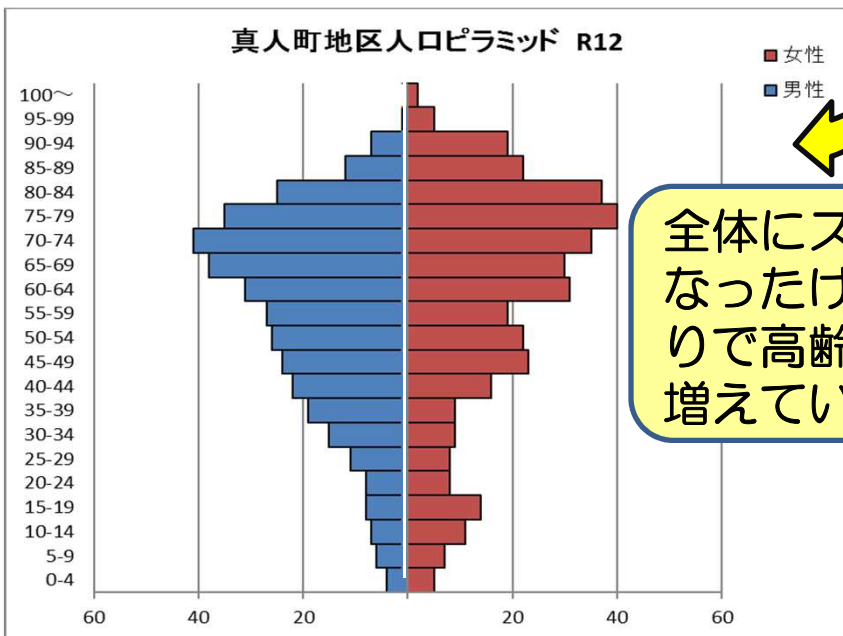
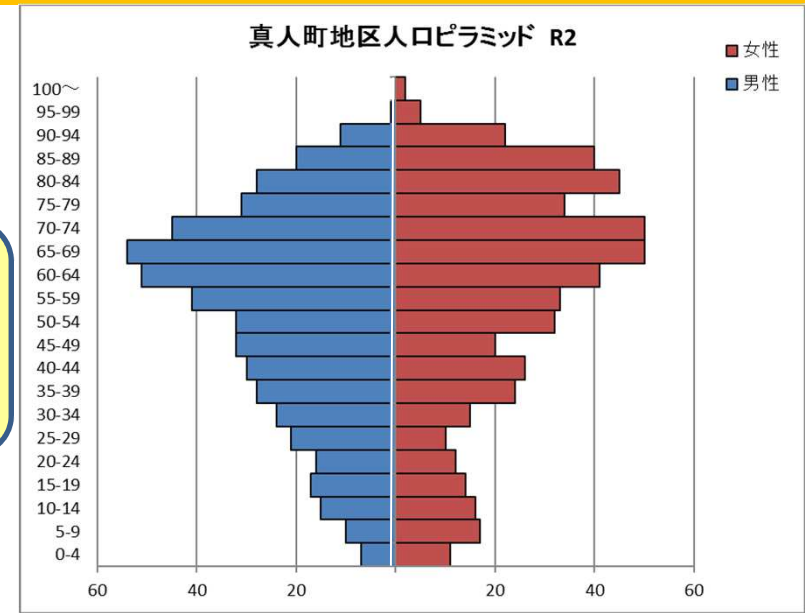
☆人口が減少することによりいろいろな問題や課題が出てきます。

- ・多くの方は、それがどんなに大切なことでも、差し迫った状態にならない限り、必要性を自分自身の問題として突きつけられて痛切に認識できない限り、行われたいようです。

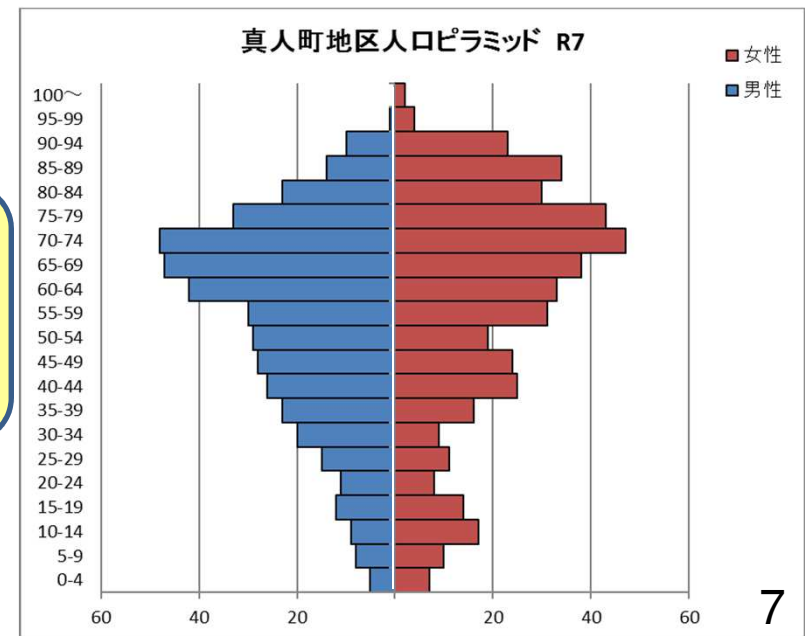
真人町の推計人口ピラミッド



壺型から
ローソク
型に



全体にスリムに
なったけど先細
りが高齢化率は
増えている



人口減少はどこにもやってくる

市内人口に対する地区別人口割合の推移

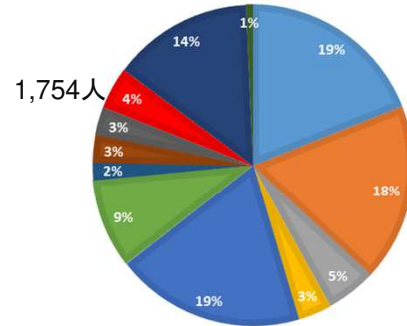
地区別人口 (小千谷市統計書)

■H12年 ■H17年 ■H22年 ■H27年



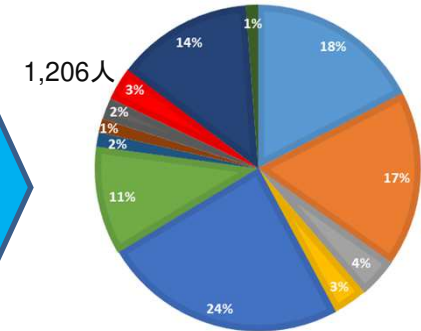
H12年市内地区別人口割合 41,641人

■西小千谷 ■東小千谷 ■山辺 ■吉谷 ■城川 ■千田 ■川井 ■東山 ■岩沢 ■真人 ■片貝 ■その他



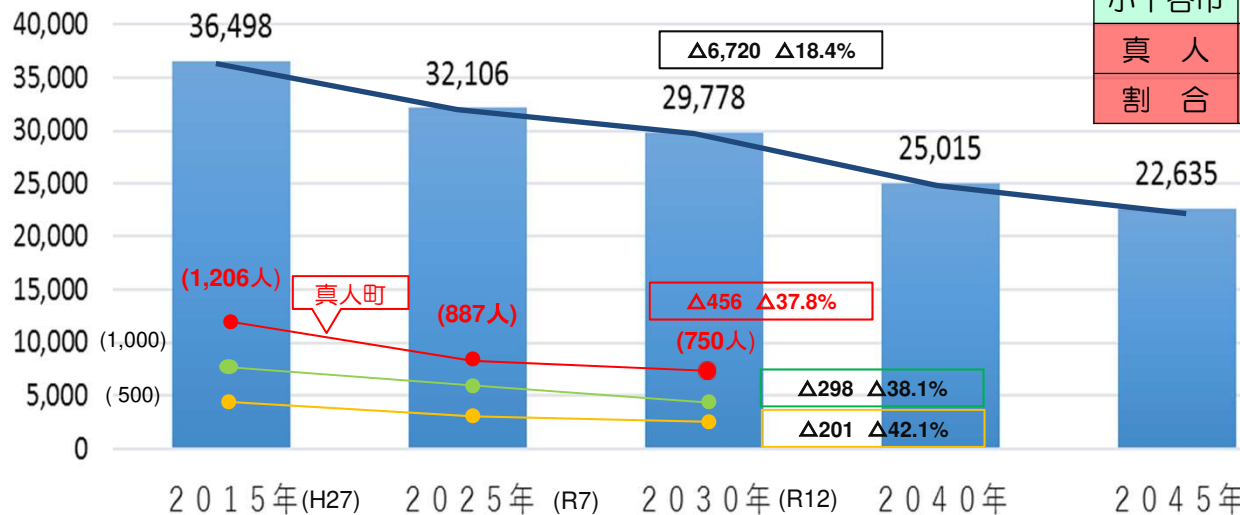
H27年市内地区別人口割合 36,498人

■西小千谷 ■東小千谷 ■山辺 ■吉谷 ■城川 ■千田 ■川井 ■東山 ■岩沢 ■真人 ■片貝 ■その他



人口減少はどこにでも!! ただ、県・市よりも前倒しで!! 減少した数値にとらわれないで、その事によって起こる問題・課題への取り組みが必要です

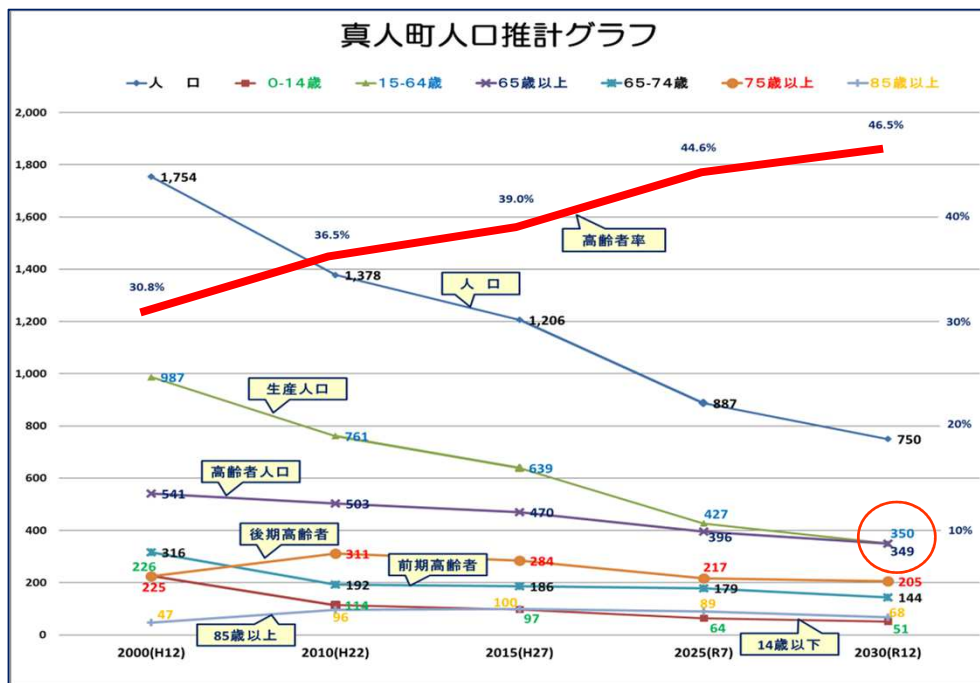
小千谷市人口推計



市内人口に対する真人町の割合				
区分	H12年	H27年	R7年	R12年
小千谷市	41,641人	36,498人	32,106人	29,778人
真人	1,754人	1,206人	887人	750人
割合	4.2%	3.3%	2.8%	2.5%

岩沢・東山地区の市内人口に対する割合				
区分	H12年	H27年	R7年	R12年
岩沢	1,178人	782人	576人	484人
割合	2.8%	2.1%	1.8%	1.6%
東山	1,172人	478人	317人	277人
割合	2.8%	1.3%	1.0%	0.9%

真人町の人口推計



☆真人町の総人口と15-64歳(生産人口)の人口減少は同じような傾向で確実に減少しています。

- ・総人口は平成12年に対して30年後の令和12年には、人数で約千人の減少で、率にして約43%まで減少する見込みです。

- ・65歳以上の高齢者はゆるい減少傾向ですが、令和12年には減少してきた支える側の生産人口と高齢者人口は概ね同数になる見込みです。

- ・次世代を担う14歳以下の人数も減少しており、平成12年に対して30年後の令和12年には約23%となる見込みです。

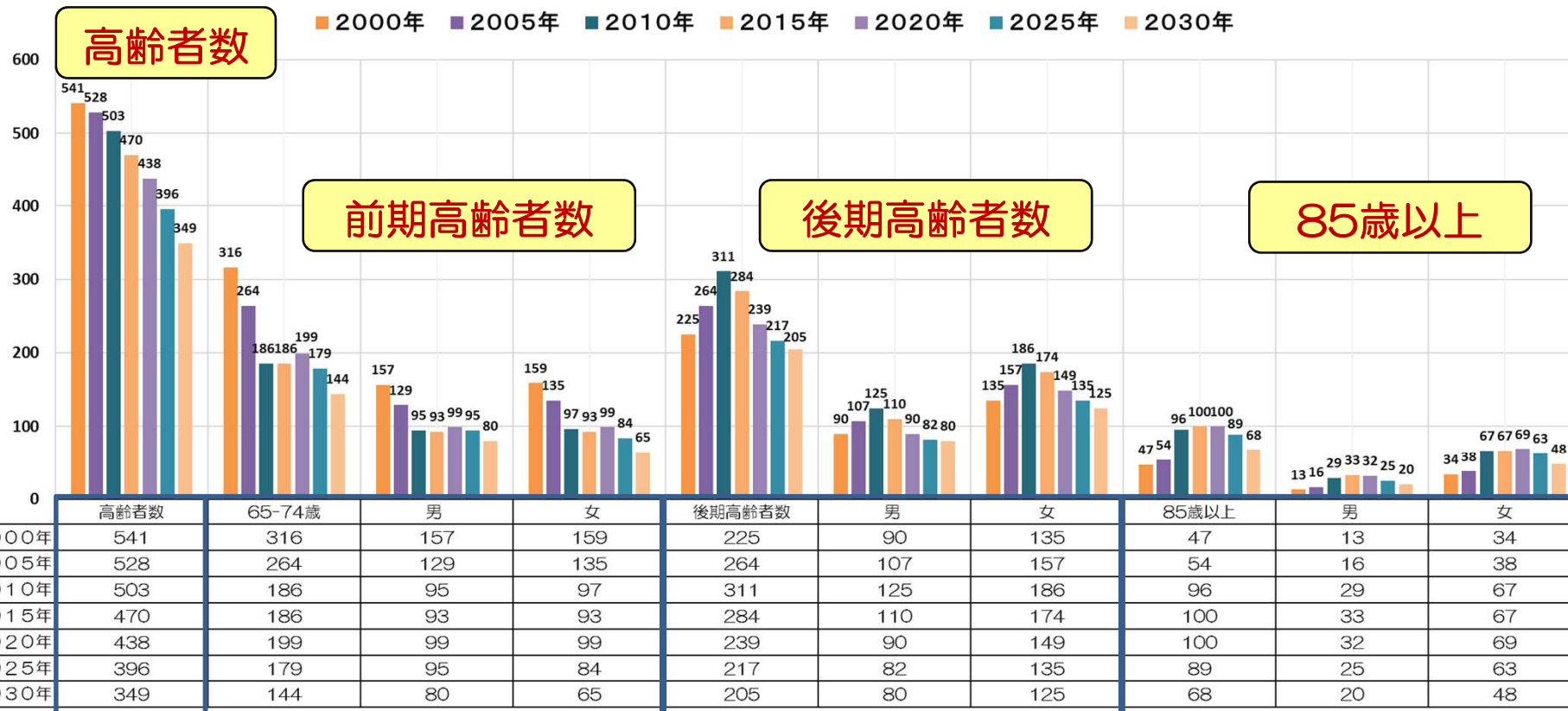
☆人数の推移を数字で見ても、その現象がどのようになっているのかわからないので、次ページで人口に対してどのように変わってきているのかわかりましょう。

人口推計 真人町



高齢者の人口推移(男女別)

高齢者の人口推移(男女別) 真人町



高齢者数 65歳以上

前期高齢者数 65-74歳

後期高齢者数 75歳以上

上記の内 85歳以上

人数は減少(人口比は増) ・高齢者もいろいろ

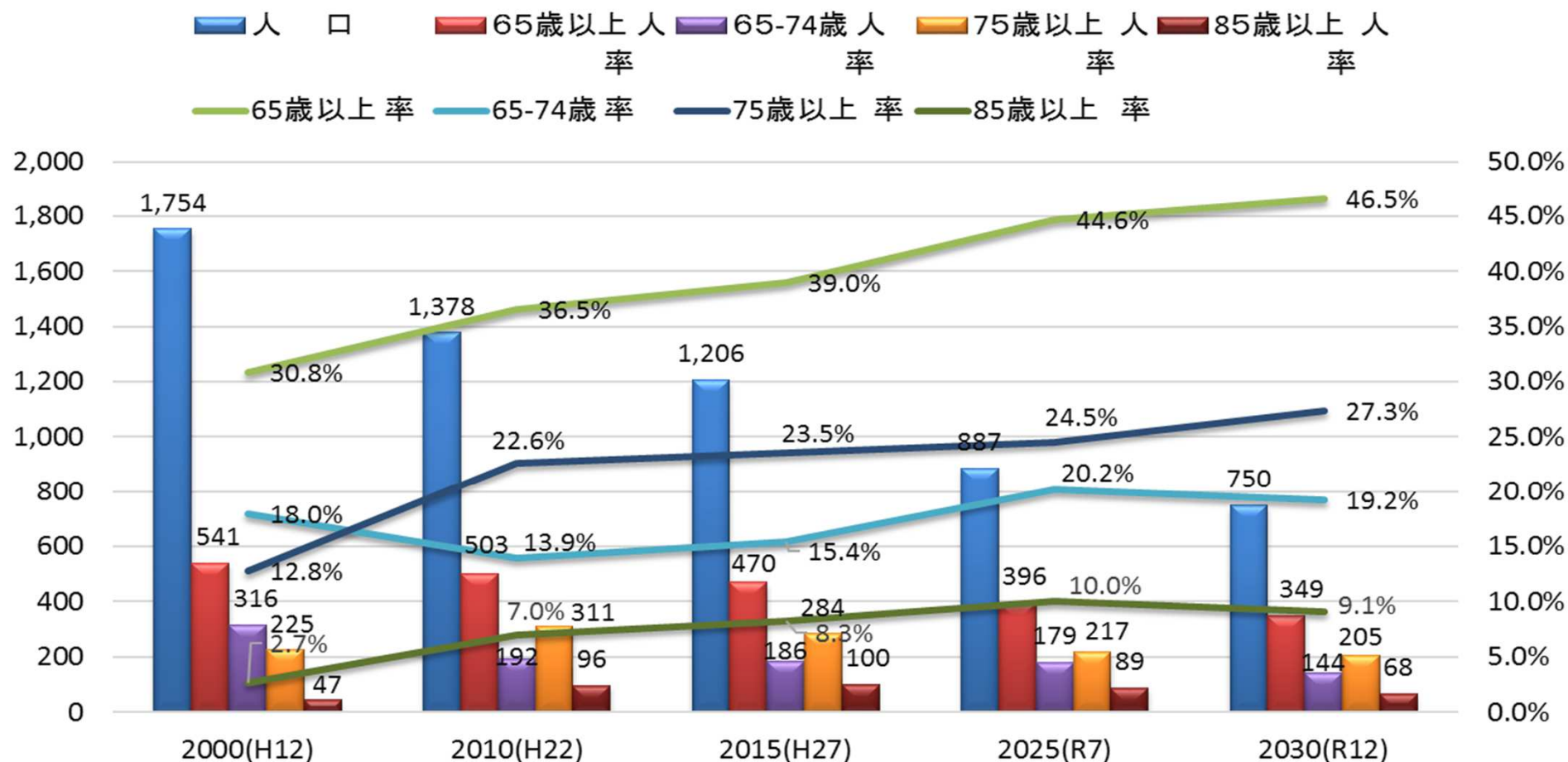
人数は減少傾向 ・まだまだ元気で支える側

2010年ピークに減少 ・今後は支えられる側に

2020年から減少 ・4人に一人が要介護3に

高齢者の人口推移

高齢者の人口推移 真人町



☆人数の推移だけで見ても解らないところも、人口に対する割合で見ると違いが見えてきます。

- ・65歳以上の高齢者の人口は減少ですが、割合(高齢化率)は増加しています。
- ・65-74歳(前期高齢者)も減少していますが、割合で見るとほぼ横ばい状態です。
- ・75歳以上(後期高齢者=介護が始まるころの年齢)と85歳以上(施設等の利用が増える年齢)の方の人口に対する割合は増加しています。

真人の人口推計(項目別)

真人町世帯推計(1)

■ 世帯数 ■ 6歳未満同居 ■ 18歳未満同居 ■ 65歳以上単身 ■ 65歳以上夫婦のみ



	2000(H12)	2005(H17)	2010(H22)	2015(H27)	2020(R2)	2025(R7)	2030(R12)
■ 世帯数	461	426	412	380	366	343	323
■ 6歳未満同居	43	38	26	23	18	15	12
■ 18歳未満同居	148	121	91	70	67	58	50
■ 65歳以上単身	15	24	32	35	35	33	30
■ 65歳以上夫婦のみ	59	43	45	46	37	33	29

世帯数

総世帯数

6歳未満同居

6歳未満の子が同居する世帯数

18歳未満同居

18歳未満の子が同居する世帯数

65歳以上単身

65歳以上で単身の世帯数

65歳以上夫婦のみ

65歳以上で夫婦のみの世帯数

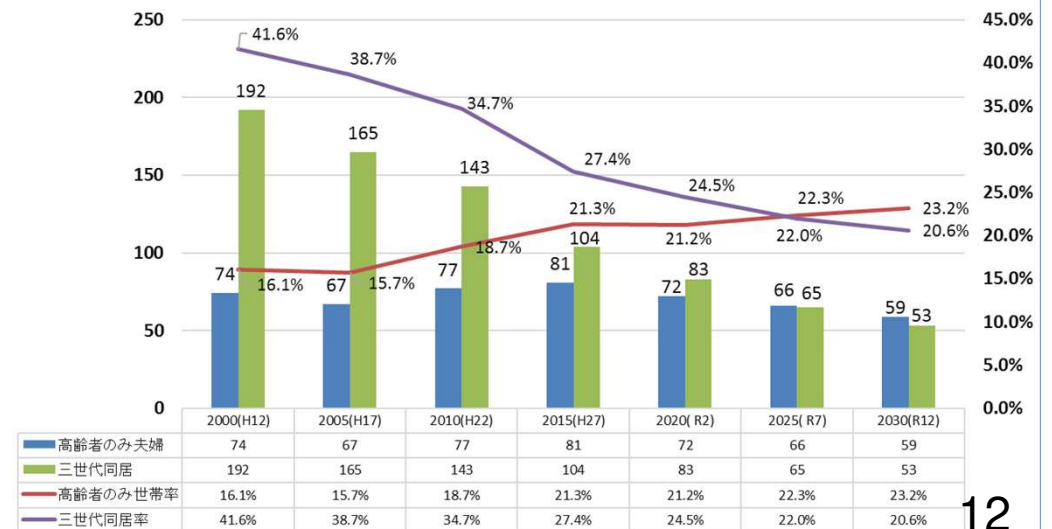
※65歳以上単身と65歳以上夫婦のみの世帯を合計すると高齢者のみの世帯数となる

・ 少子高齢化が進む中で、若者の流失や子供の減少などにより三世帯同居の世帯数は著しく減少し、令和12年には三世帯同居世帯と高齢者のみの世帯数は逆転することと推計されました。

・ 国・県や市よりも前倒しで進んでいる人口減少に対する問題や課題について、現状を把握しながら「この地域の今後について」考える必要があります。

真人地区世帯推計(2)

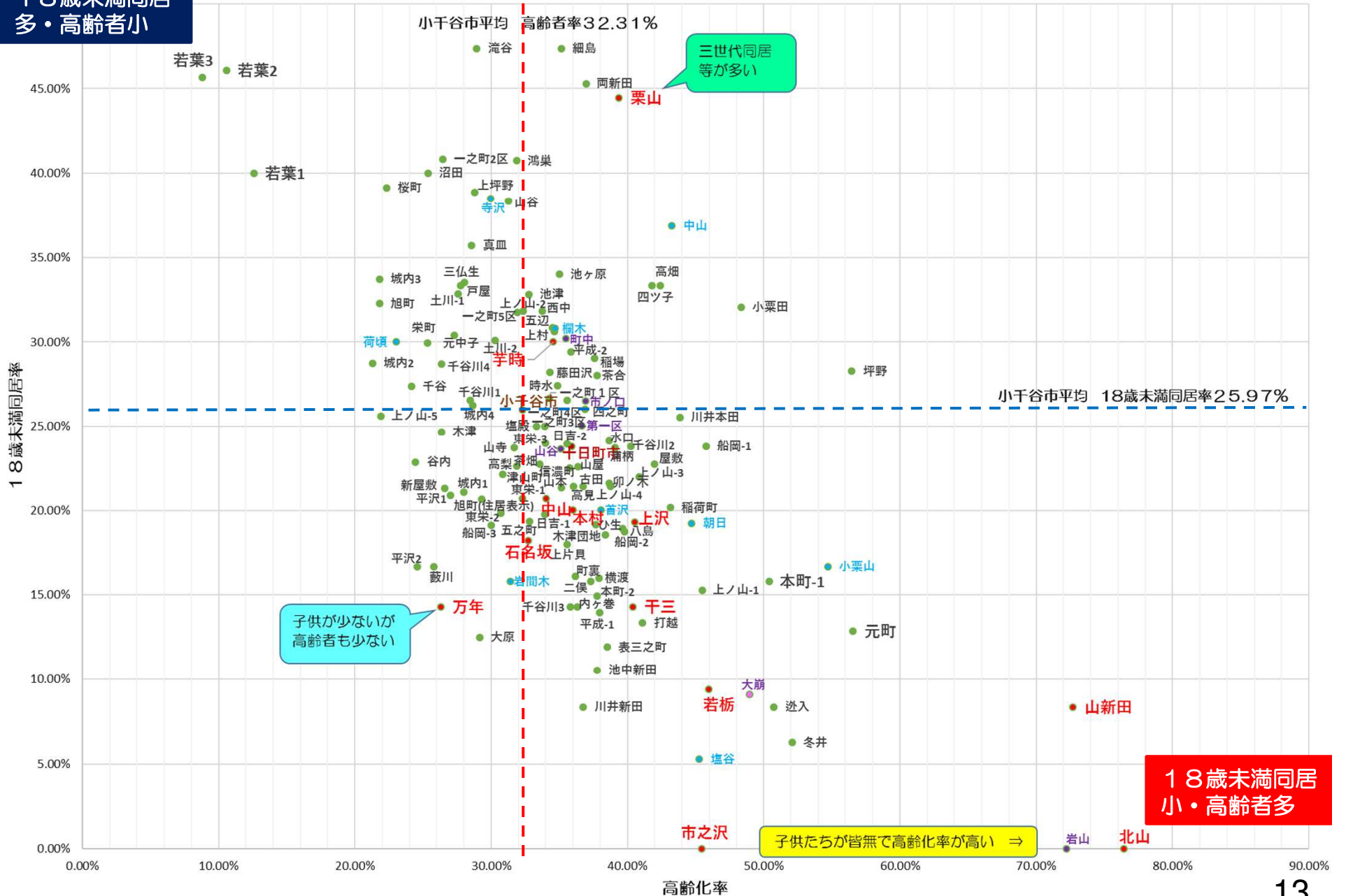
■ 高齢者のみ ■ 三世帯同居 ■ 高齢者のみ世帯率 ■ 三世帯同居率



小千谷市内の集落別構成 (赤色が真人町の集落名)

18歳未満同居多・高齢者小

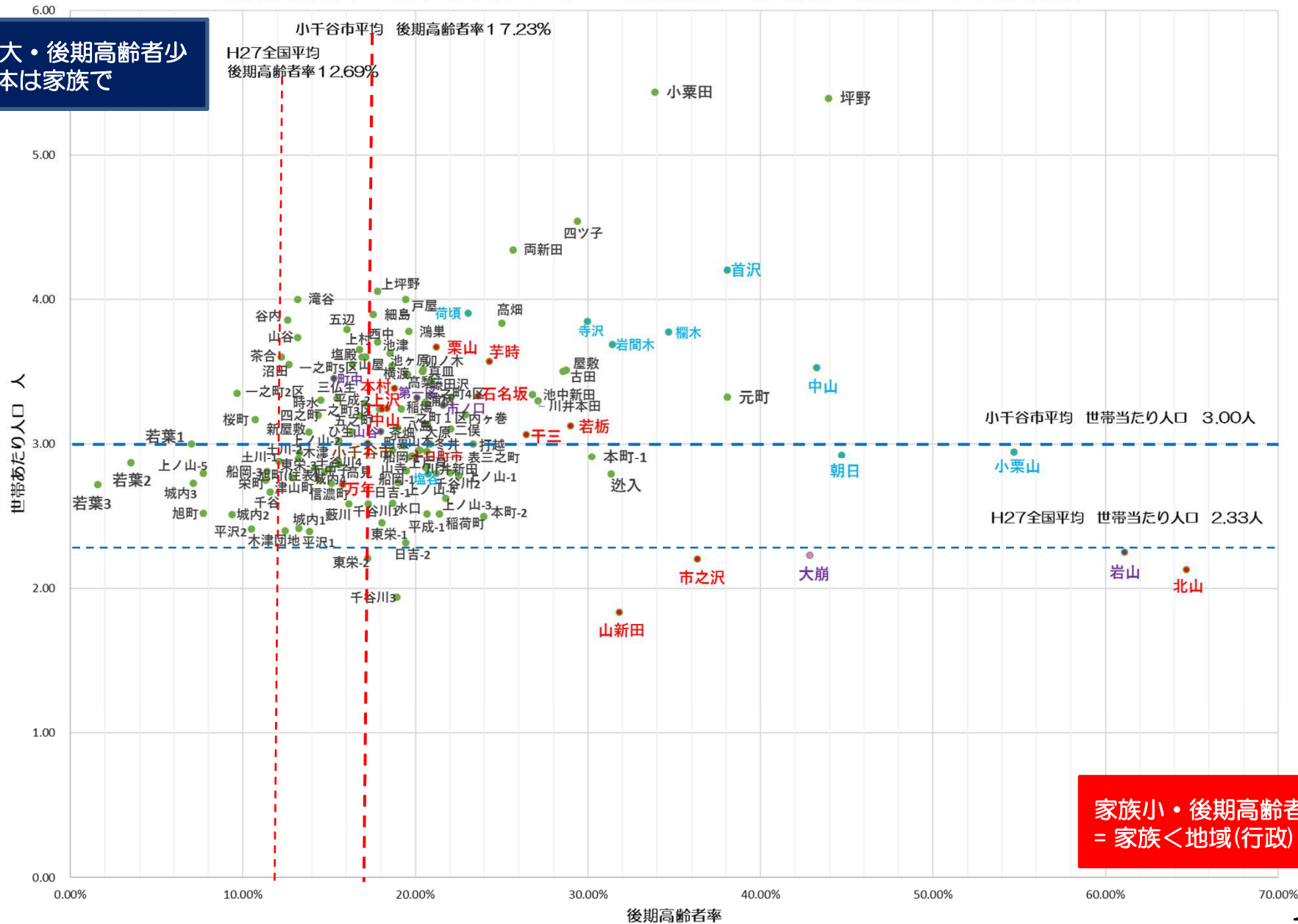
高齢者率・18歳未満同居世帯率 (H27国勢調査小地域集計 町内別) 小千谷市全体



H27小千谷市における集落別構成 (赤色が真人町の集落名)

後期高齢者率×世帯あたり人口 (H27国勢調査小地域集計 町内別) 小千谷市全体

家族大・後期高齢者少
= 基本は家族で



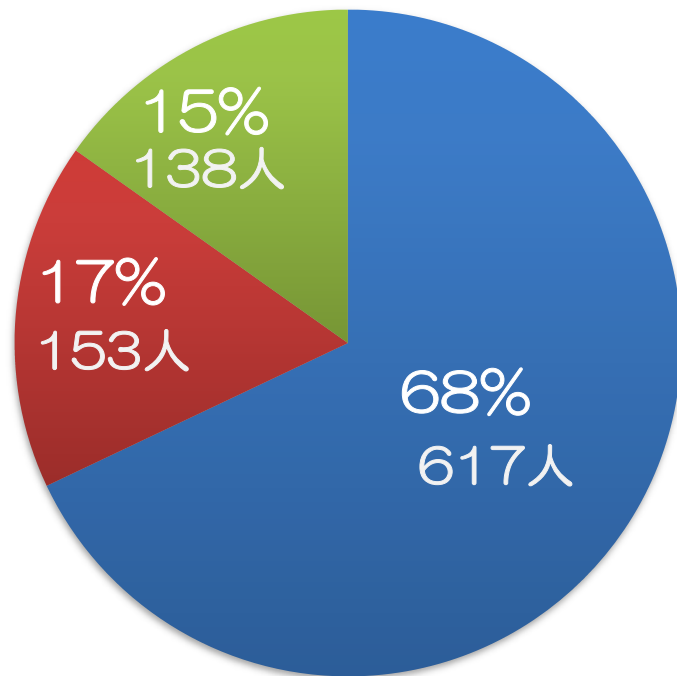
中学生以上の全住民アンケートの実施 (H30.10)

【真人町】

配布数 : 997通
 回収数 : 908通
 回収率 : **91.1%**

回答数 地区別内訳

■ 里地地区 ■ 芋時地区 ■ 北部地区



高回収率 ⇒ 意向がしっかり反映!!

真人町地域の住民アンケートの実施について

日頃より地域の運営にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
 全国的に少子高齢化が進むなか、真人町地域では平成30年3月末に65歳以上の割合が40%を超え、市内11地区の中でも最も高い数値となっています。また、新潟県中越大地震前から32%を超える人口減少ともなっています。
 このアンケートは、急速に進行する人口減少・少子高齢化によって生じてくる様々な問題点や課題を明らかにするため、真人町の中学生以上全員を対象にアンケートを実施するものです。

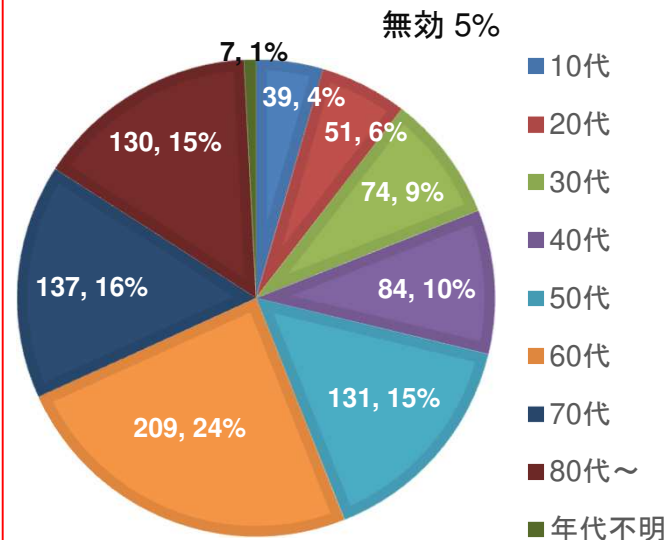
お忙しいところ設問数も多く大変お手数をおかけしますが、地域づくりの大切なアンケートになりますので、ぜひご協力をお願いします。

真人地区町内会長協議会
 会長 瀧澤 功

【アンケートの概要・目的】

このアンケートは「互いに支え合える地域づくり」「魅力ある地域づくり」の目的で実施します。

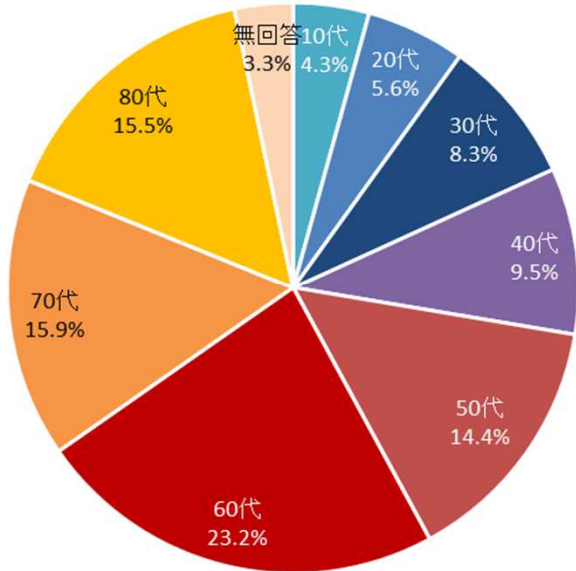
有効回答数 862人 真人町



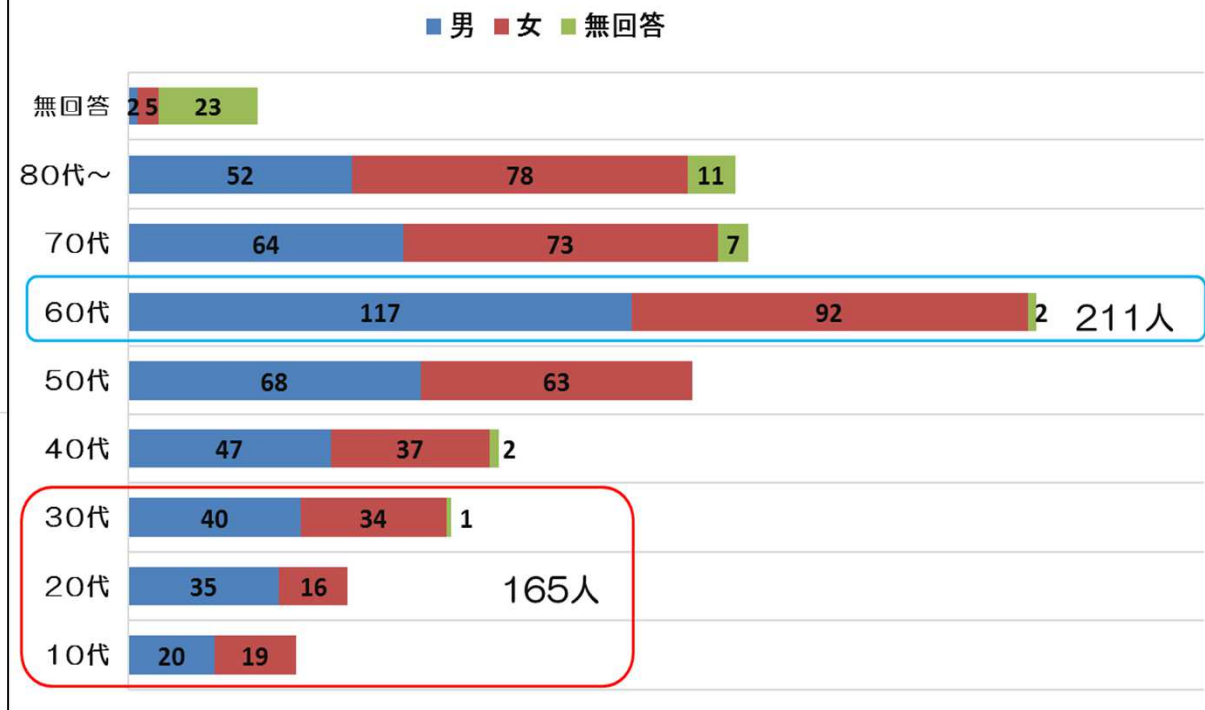
ご協力をお願いします。
 できるだけ範囲で代筆
 状況把握の調査にのみ

1-2 回答者の属性 年代別×性別 (真人町908人)

年代別 真人町



年代×性別(908人) 真人町



若者・中堅世代は少数派

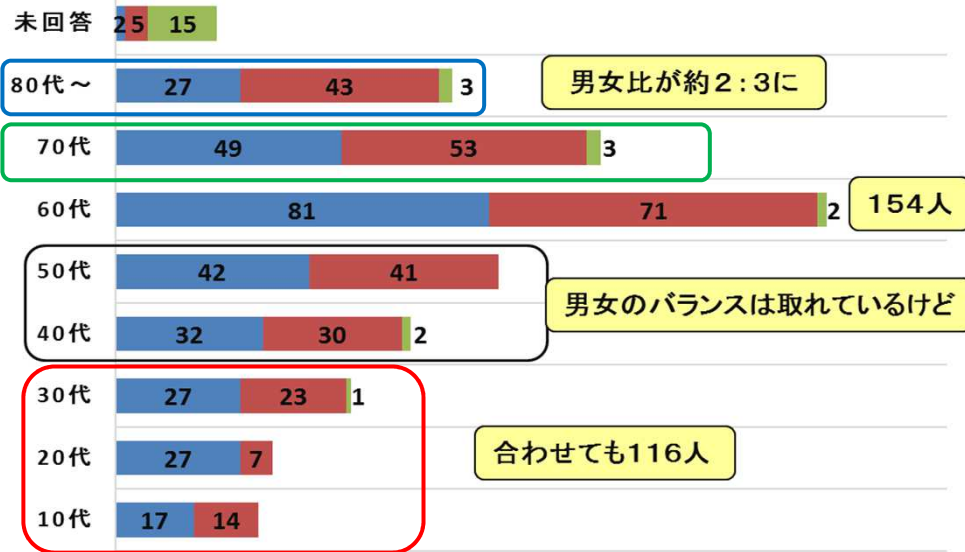
解答者数でみると…
 10+20+30代 =165人
 60代は =211人

世代別に意見をまとめないと、若い世代の声は埋没してしまう!!

真人町三地区の状況 年代×性別

年代×性別(617人) 里地地区

■男 ■女 ■無回答



・真人町の三地区(里地・芋時・北部地区)の地区別の状況を見ました。

・里地地区

50代~40代にかけて人口が減少しています。30代から10代の人口は116人で60代の154人にも達しません。特に20代では男女比が8対2とバランスを崩しています。

・芋時地区

どういう訳か70代の人口が少ない。(記入漏れではありません)20代~40代の総人数はほぼ同数ですが、50代以降の人口に対しては少人数となっています。

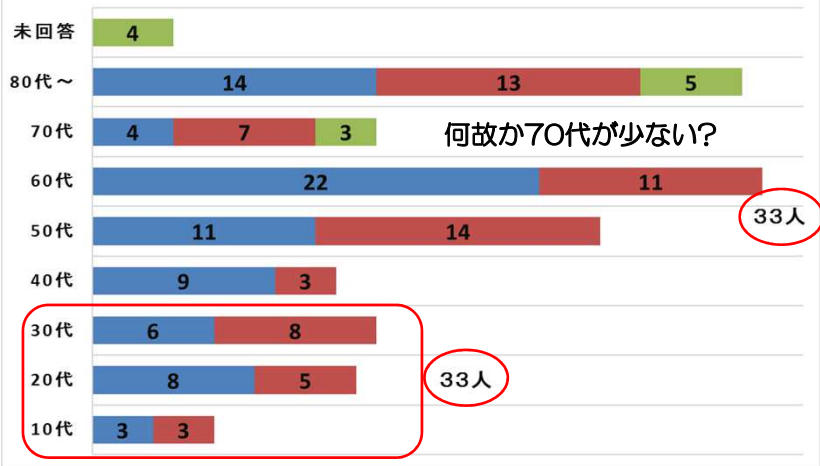
・北部地区

50代以上の人数割合は80.6%(年齢未回答者を除く)です。また、人口に占める14歳~30歳未満の人数割合は4.5%と僅かな数値になっています。

※限界集落の目安となる数値は65歳以上の高齢者が50%以上となり、冠婚葬祭などを含む社会共同生活や集落の維持が困難になりつつある集落。

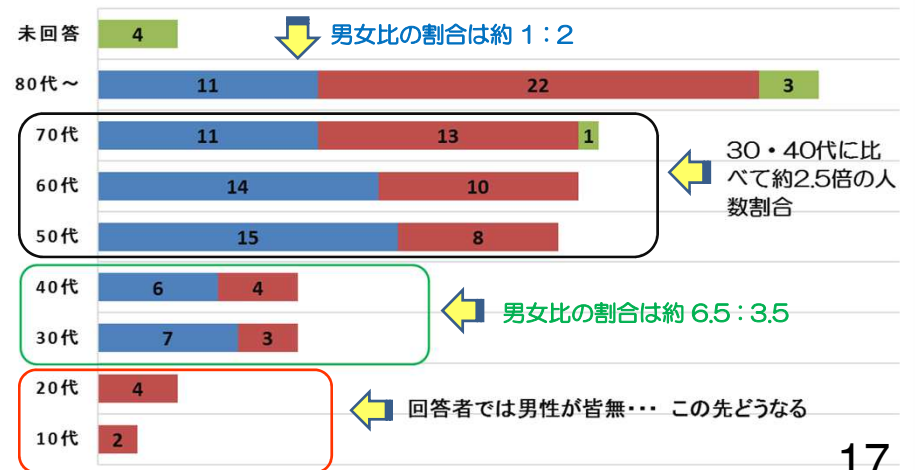
年代×性別(158人) 芋時地区

■男 ■女 ■無回答



年代×性別(138人) 北部地区

■男 ■女 ■無回答



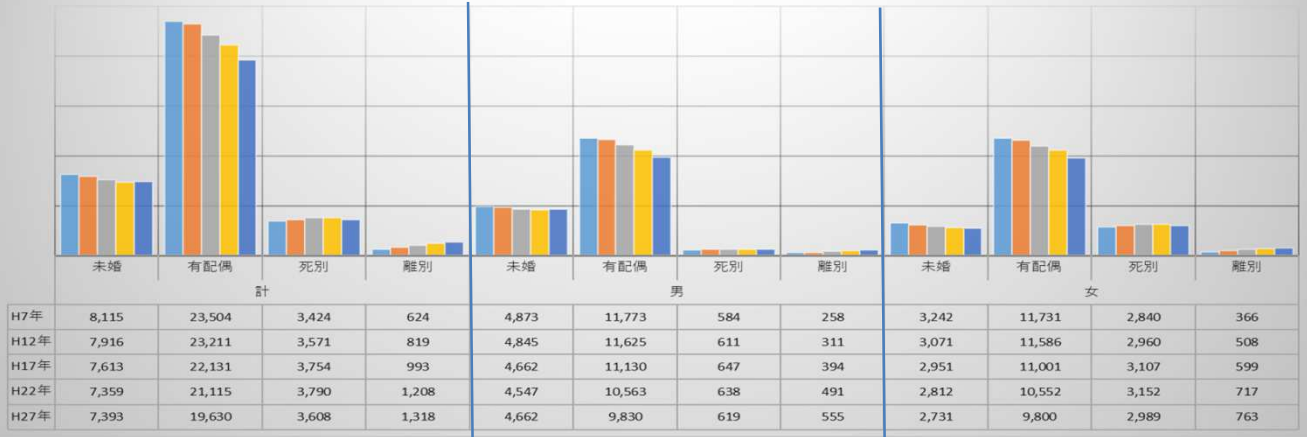
小千谷市の配偶者関係の状況 男女別、15歳以上人口

・平成7年から5年間隔で配偶者の状況(未婚・有配偶・死別・離別)の推移を小千谷市統計書の数値で表しました。

人口が減少しているため、有配偶者の数値も減少しています。他の項目の数値が少ないので下記に人口比率で表しました。

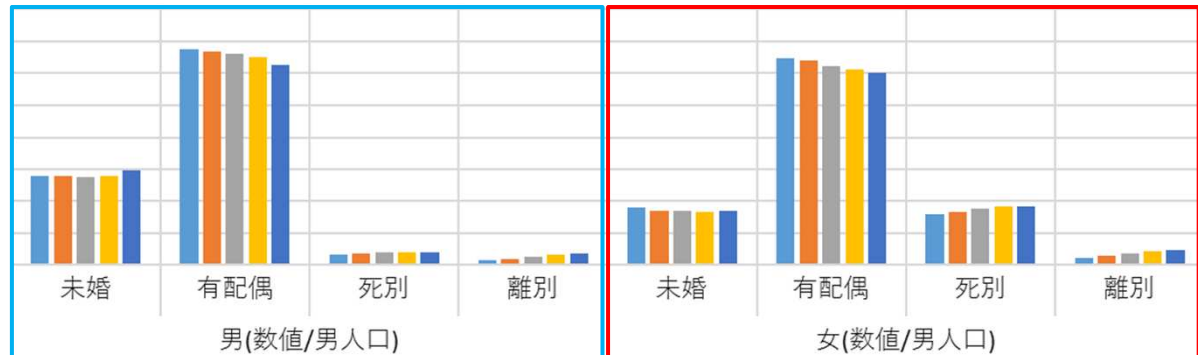
配偶者関係、男女別15歳以上人口

■H7年 ■H12年 ■H17年 ■H22年 ■H27年



配偶者関係、男女別、15歳以上人口、人口比

■H7年 ■H12年 ■H17年 ■H22年 ■H27年



・右のグラフは各項目の数値を該当する人口の総数で比率を表しました。

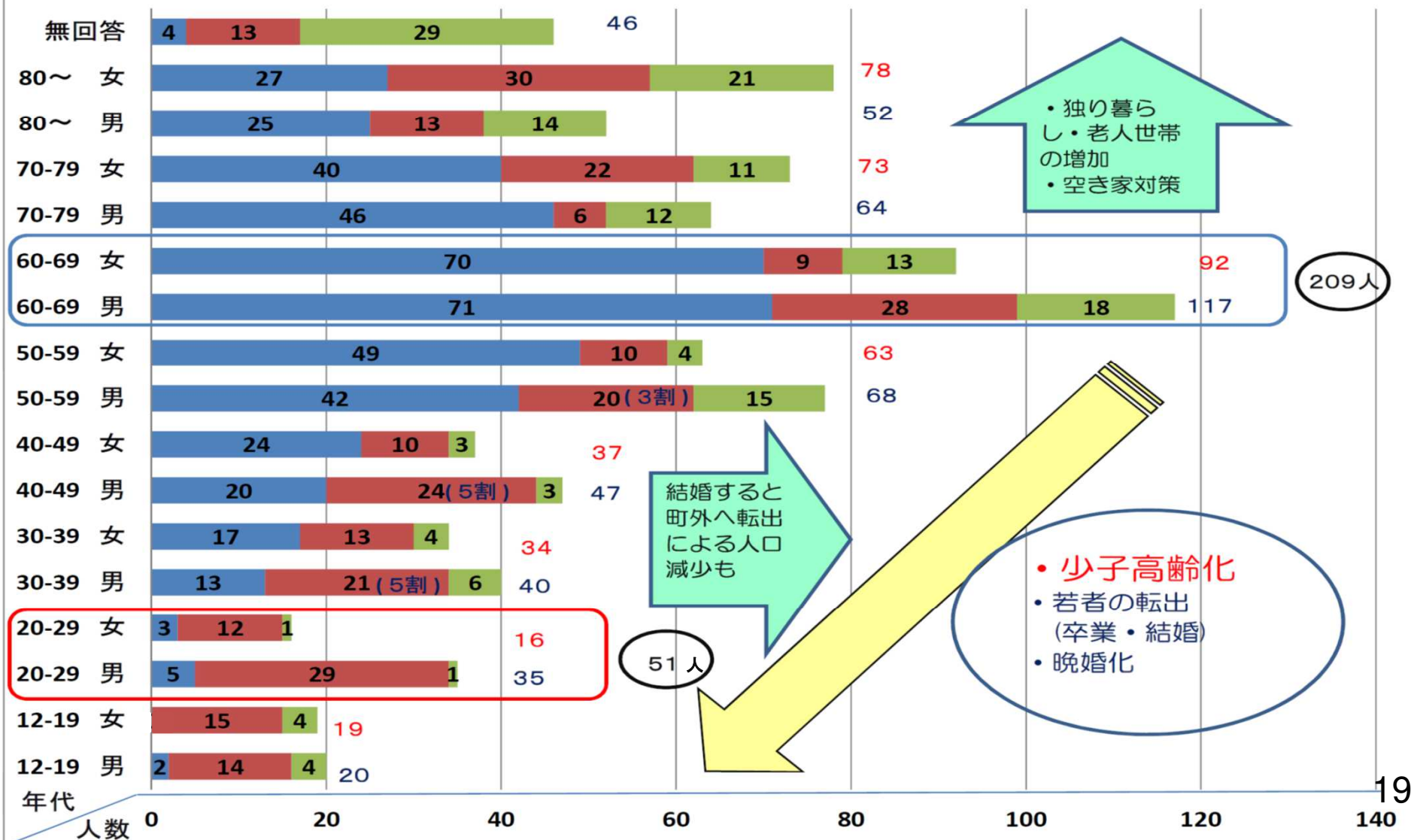
人口の減少と同様に有配偶者も減少しています。女性の未婚者も僅かに減少傾向ですが、男性の未婚者は微増の傾向となっています。

また、死別の項目では女性の寿命が長いことから、圧倒的に女性の数値が男性の数値を上回っています。高齢者の夫婦のみの世帯では一人で余生を過ごすことになり困りごとや不安なことも増えてくることが考えられます。

1-2 年代×性別による配偶者の状況 真人町

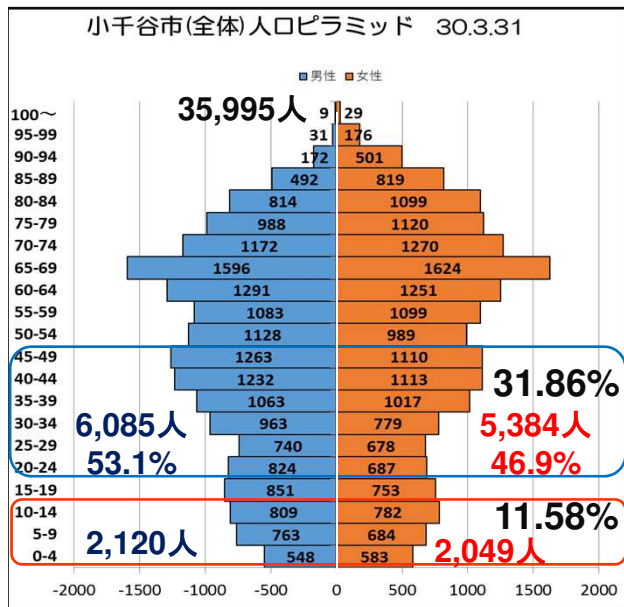
回答者属性 (配偶者の有無) 真人地区全体

■ 配偶者有 ■ 配偶者無 ■ 未回答



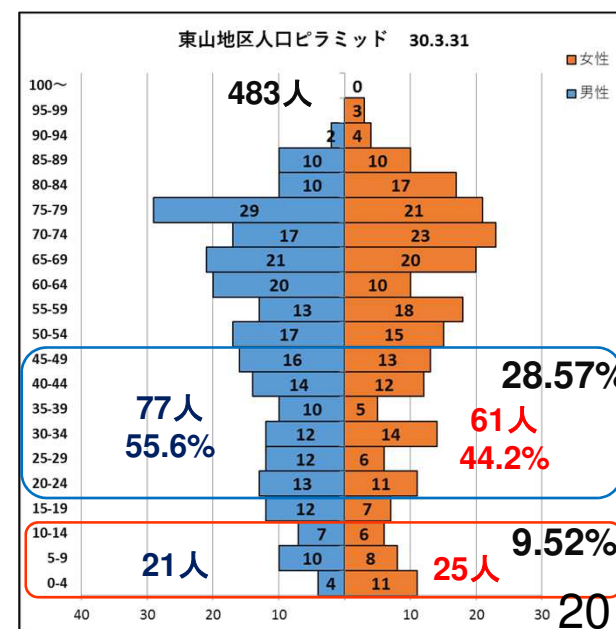
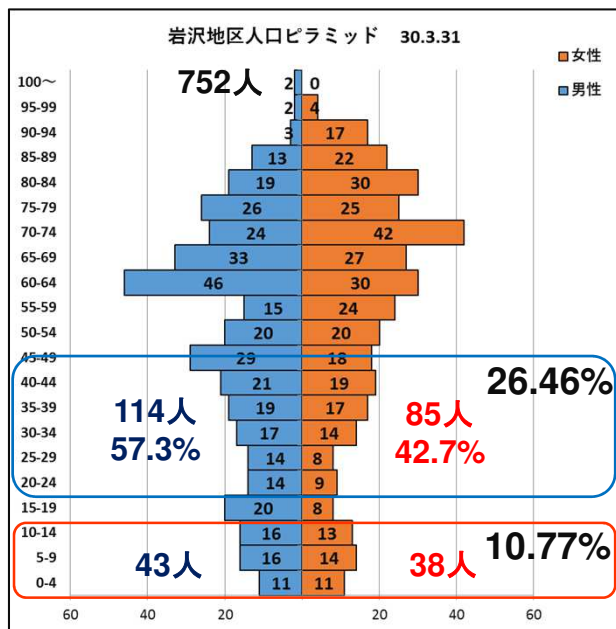
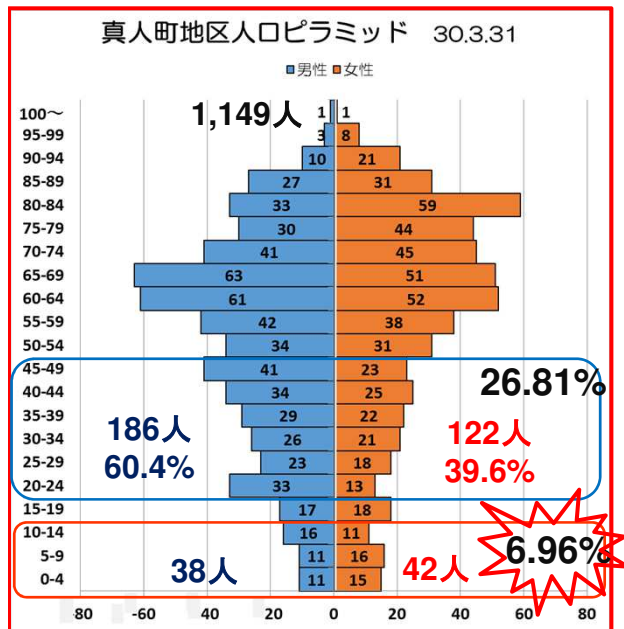
中学生以下の人口比較

真人町の子供が少ない!!



区分 地区名	人口			20代~40代人口			0-15歳未満人口				
	計(A)	男性	女性	計(B)	男性	女性	割合B/A	計(C)	男性	女性	割合C/A
小千谷	35,995	17,832	18,163	11,469	6,085	5,384	31.86%	4,169	2,120	2,049	11.58%
真人町	1,149	586	563	308	186	122	26.81%	80	38	42	6.96%
岩沢	752	380	372	199	114	85	26.46%	81	43	38	10.77%
東山	483	249	234	138	77	61	28.57%	46	21	25	9.52%

・真人町の「20代から40代」の全体人口に占める割合は26.81%で他地域の数値ともさほど変わりはありません。しかしながら、「0-15歳未満」の人口割合は6.96%で、小千谷市の平均値や岩沢・東山地区の数値に比べて少なく、**若者の人口割合に比べて子供の人数が少ないことがわかります。**※真人町の14歳以下を人口比10%とすると115人となります。(現状80人)
※人口数値は平成30年3月末の住民基本台帳数値を使用



地域で生活する若者(男性)の状況

真人町

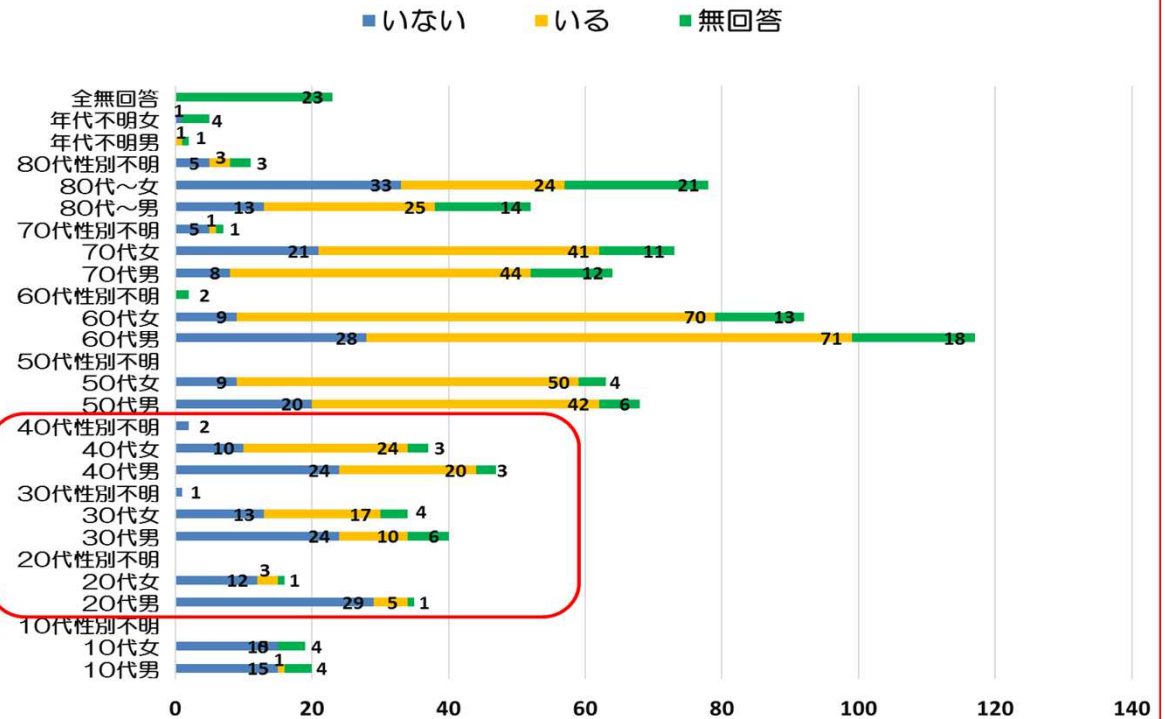
☆少子高齢化

◎子供たちが少ないのは？

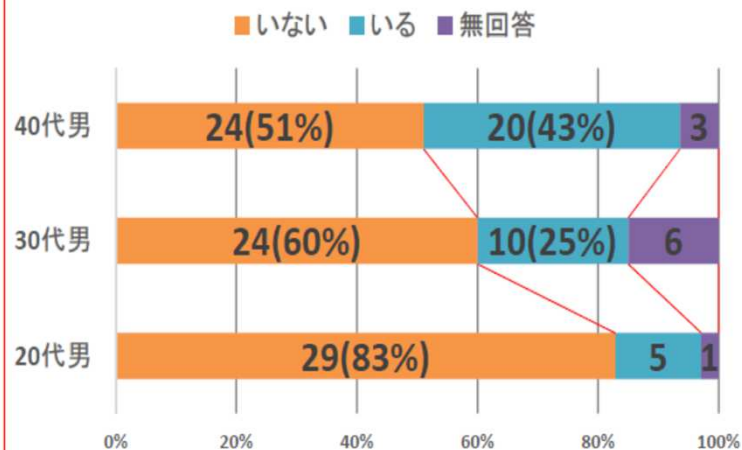
- 卒業後
地域からの転出
就職先で生活(転出)
- 結婚による地域から転出

・地域に住む若者(男性)は…

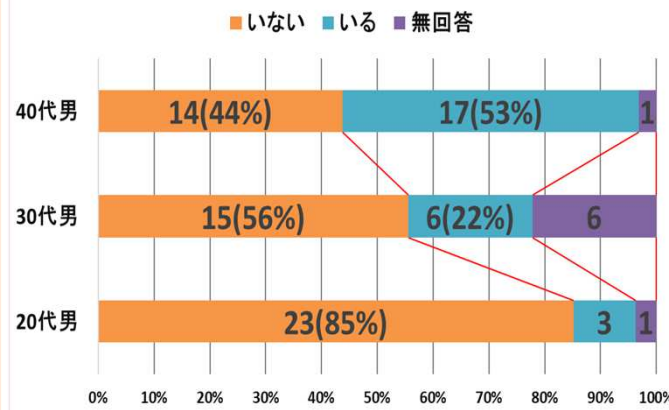
回答者属性 年代・性別×配偶者の有無 真人町



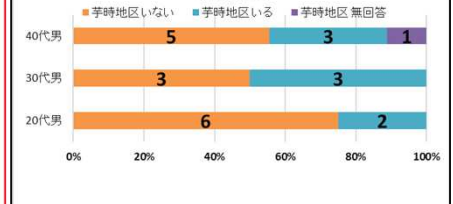
20~40代男性の配偶者の有無 真人町



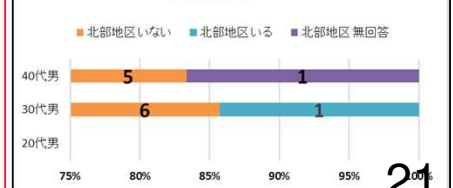
20~40代男性の配偶者の有無 里地地区



芋時地区

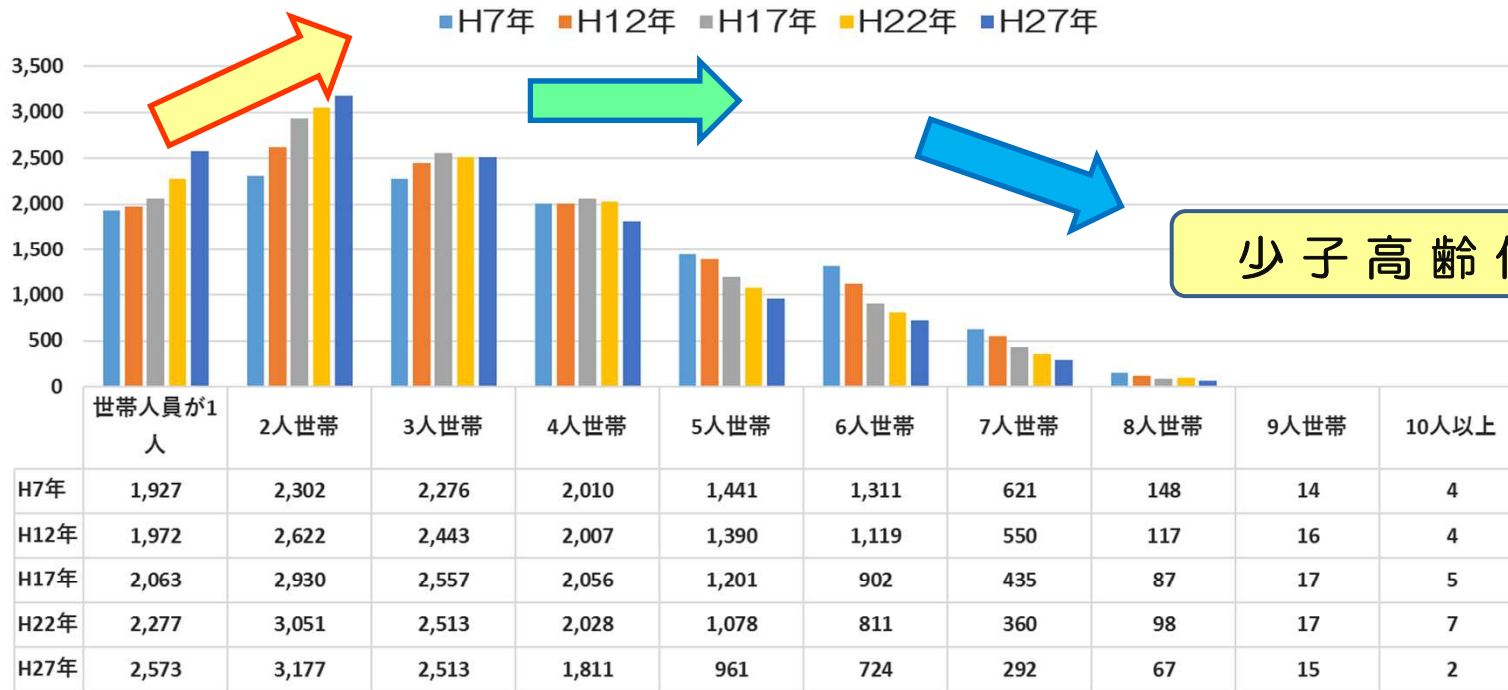


北部地区



小千谷市の家族構成

小千谷市の一般世帯の構成 資料：市総務課(国勢調査)

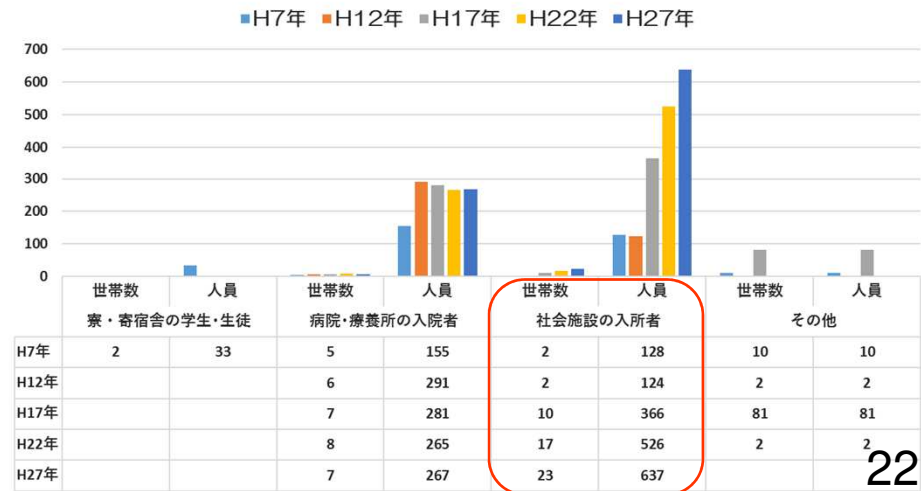


少子高齢化・多老化

・単身世帯と二人世帯が増えて、三人世帯と四人世帯が横ばい状態ですが、五人世帯以上はすべて減少しています。人口の減少が進んでいますが、未婚者の増加や高齢者のみの世帯の増加が考えられ、子供の減少を含めた少子高齢化の現象が上のグラフから見てとれます。
(H27年の一人・二人世帯の人員を一般世帯の総数に占める割合は25%)

・左のグラフでは施設等への入居状況を表しています。高齢化時代を迎えて、社会施設の増加と入所者の増加が著しいことがわかります。

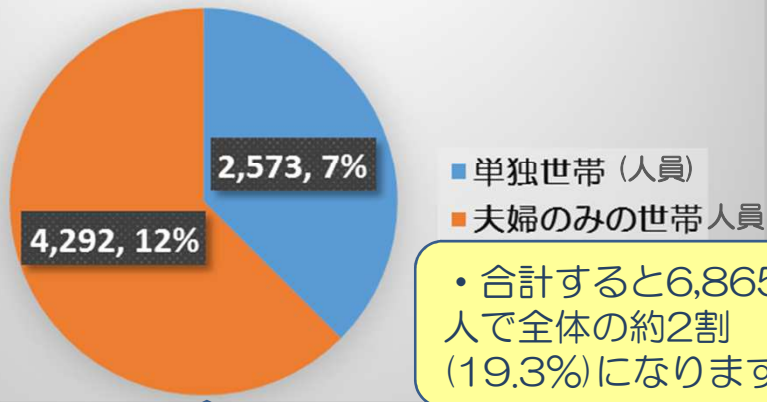
小千谷市の施設等の世帯・人数 資料：市総務課(国勢調査)



小千谷市の「单身・夫婦のみの世帯」の現状

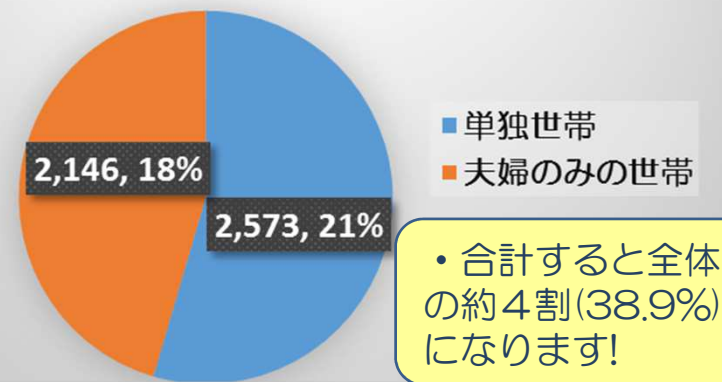
单身・夫婦のみの世帯人員 小千谷市

総世帯人員35,594人 市統計書抜粋
(比率は全体に対しての割合)

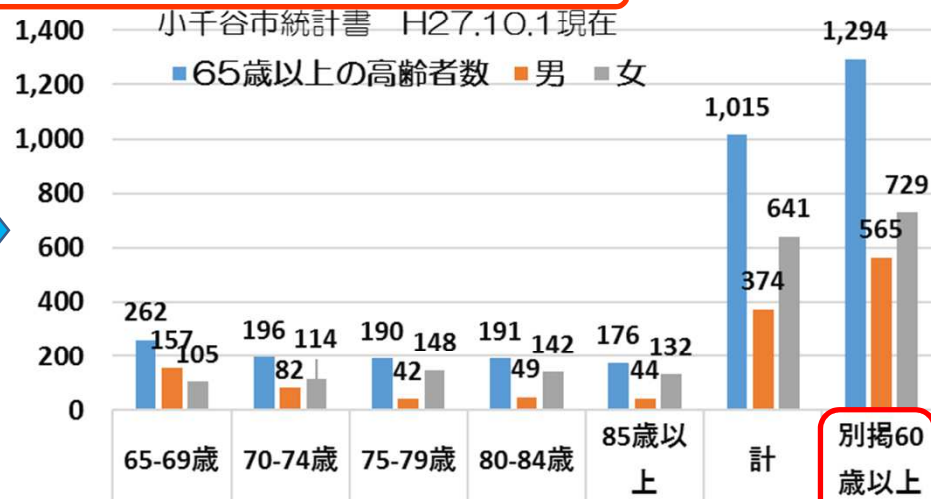


单身・夫婦のみの世帯数 小千谷市

総世帯数12,135世帯 市統計書抜粋
(比率は全体に対しての割合)



年齢・男女別高齢者単身世帯者数 小千谷市



・上のグラフから小千谷市の単身世帯が2,573世帯とわかります。
 続いて右のグラフを見ると2,573世帯の内1,294世帯(50.3%)が60歳以上の単身世帯だと解ります。
 そして、歳を重ねる毎に女性の単身世帯の割合が多くなっていくこともわかります。

※資料：小千谷市統計書H27.10.1現在

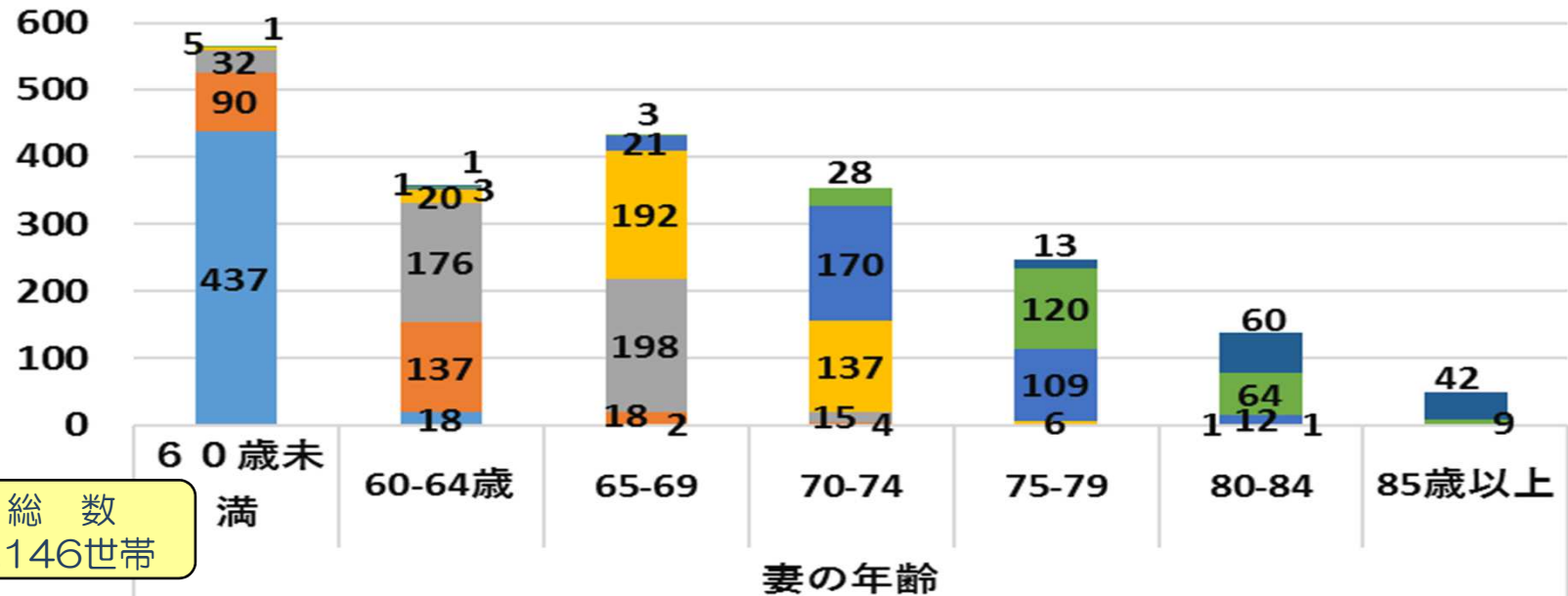
65歳以上の高齢者数	262	196	190	191	176	1,015	1,294
男	157	82	42	49	44	374	565
女	105	114	148	142	132	641	729

小千谷市の夫の年齢、妻の年齢別高齢夫婦のみの世帯数

夫・妻の年齢別高齢夫婦の世帯数 小千谷市

小千谷市統計書 H27.10.1現在

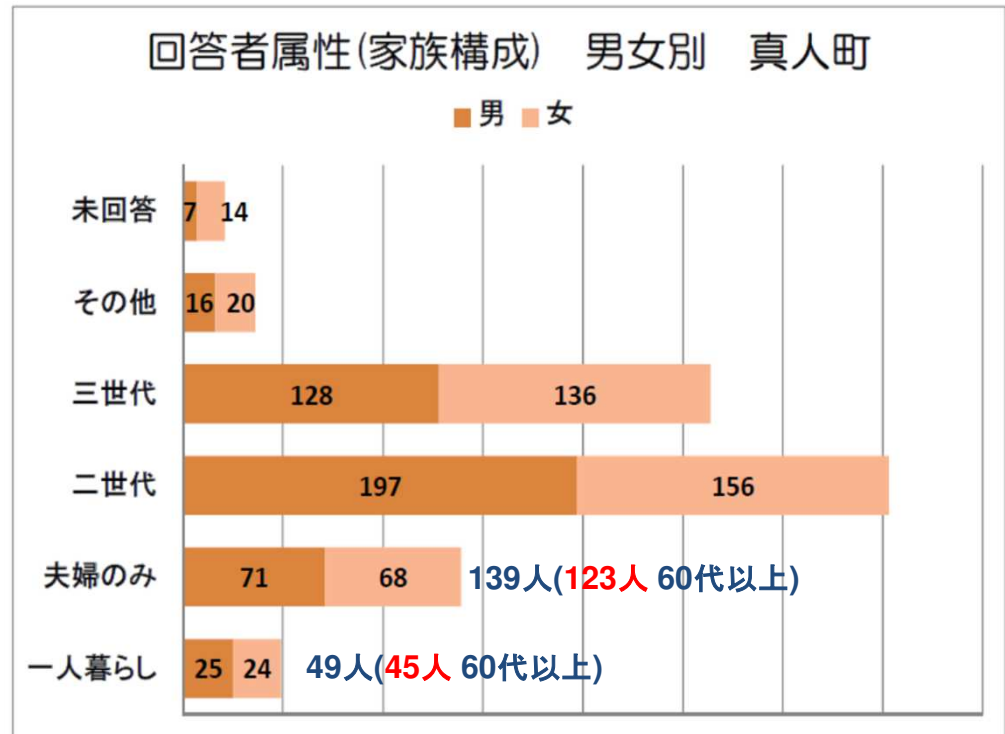
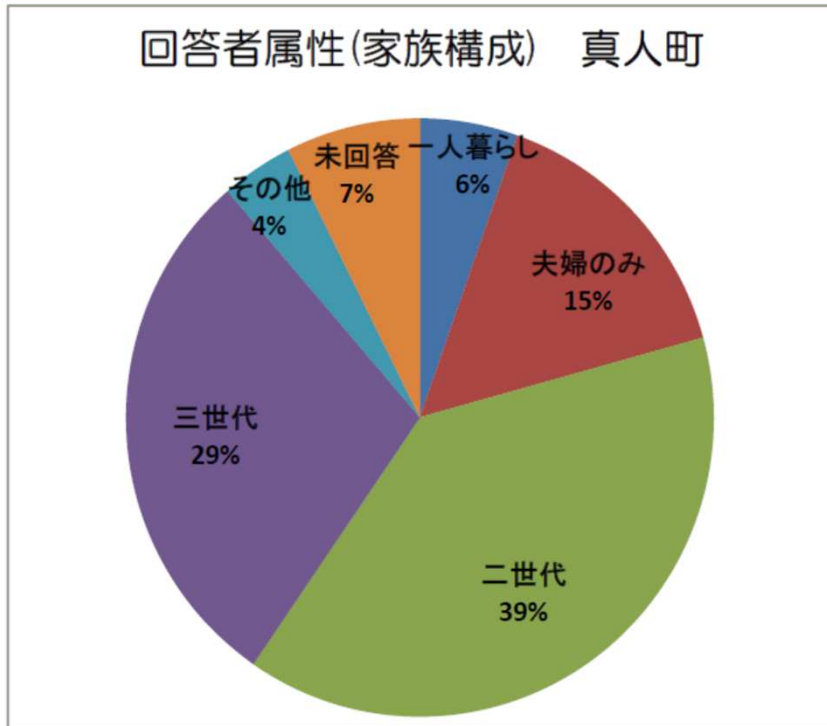
■夫が60歳未満 ■60-64歳 ■65-69 ■70-74 ■75-79 ■80-84 ■85歳以上



総数
2,146世帯

夫の年齢	妻が60歳未満	60-64歳	65-69	70-74	75-79	80-84	85歳以上
85歳以上	9	42	0	0	0	0	0
80-84	1	12	64	60	1	0	0
75-79	6	109	120	13	0	0	0
70-74	4	15	137	170	28	0	0
65-69	2	18	198	192	21	3	0
60-64歳	18	137	176	20	1	3	1
夫が60歳未満	437	90	32	5	1	0	0

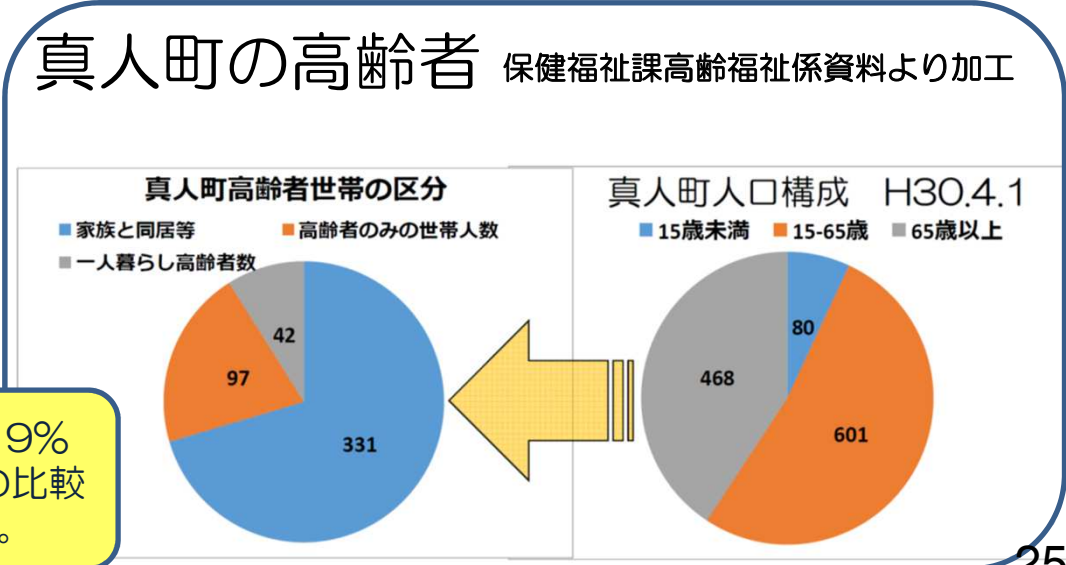
1-4 真人町の家族構成



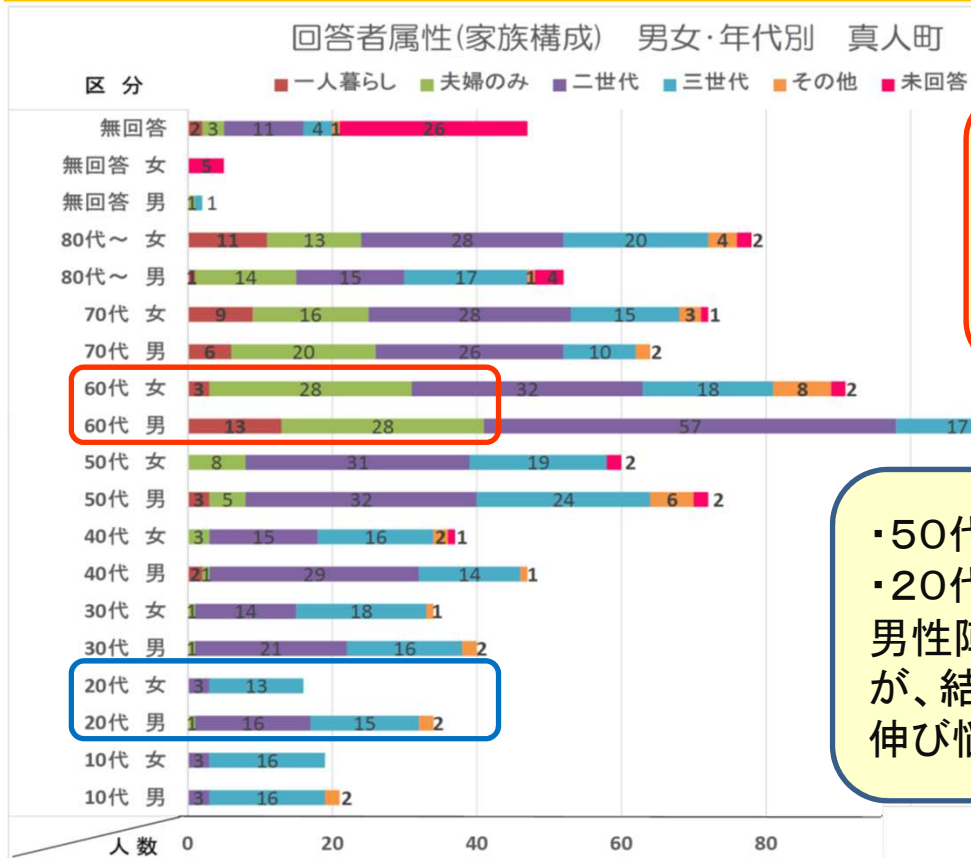
☆少子高齢化が進む中で小千谷市内の地区で高齢化率(H30.4.1 40.7%)がトップとなりました。

- ・高齢者世帯も増え、不安・困りごとへの支えあいも必要になってきます。
- ・一人世帯も増加し、将来の空家対策・防犯も考えないとなりません。

・市内の一人・二人世帯の人数の割合は19% 真人町では21.2%ですが、高齢者だけの比較で見るとその差は開くものと思われます。



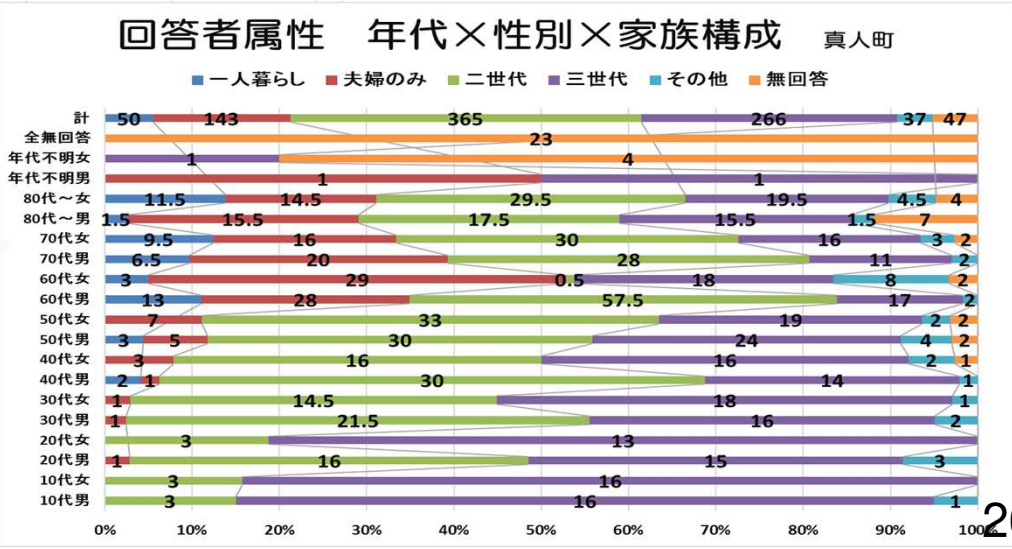
1-4 世帯の家族構成 真人町



・60代になると急速に「夫婦のみ」の世帯が増え、高齢者のみの世帯割合が増えます。
 ・子供が離れ(卒業・就職)、跡取りも結婚を転機に市外へ転居する方も多いのでしょうか？

・50代以下の世帯は概ね二世帯、三世帯世帯です。
 ・20代の女性が卒業や就職により家を離れます。男性陣が結婚により男女比のバランスを戻していきませんが、結婚を転機に減少傾向もあるのか30代、40代が伸び悩みなのですか。

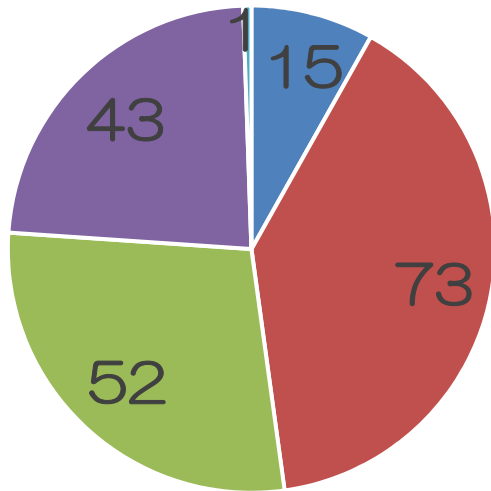
☆右図の左側の青色と茶色の部分が「一人暮らしと夫婦のみの世帯」を示しています。60代を境に急速に増えていくのがわかります。



1-5 一人世帯・夫婦のみの世帯の「身寄りとなる人」 真人町

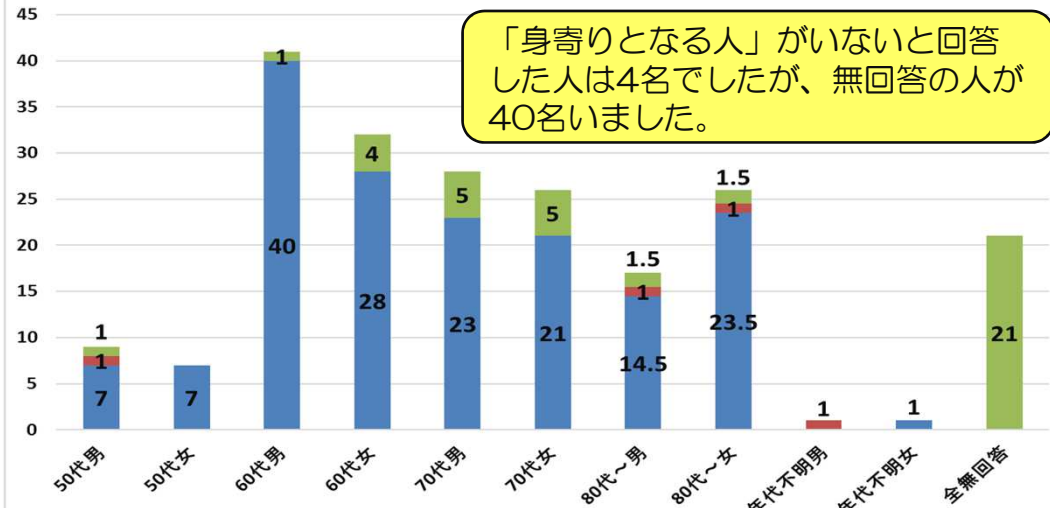
一人暮らし・夫婦のみ世帯の年代別
人数(50歳以上) 184人 真人町

■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代~ ■ 年代不明



一人暮らし・夫婦のみの人の「身寄りとなる人」の有無
真人町 (回答者50歳以上×年代×性別)

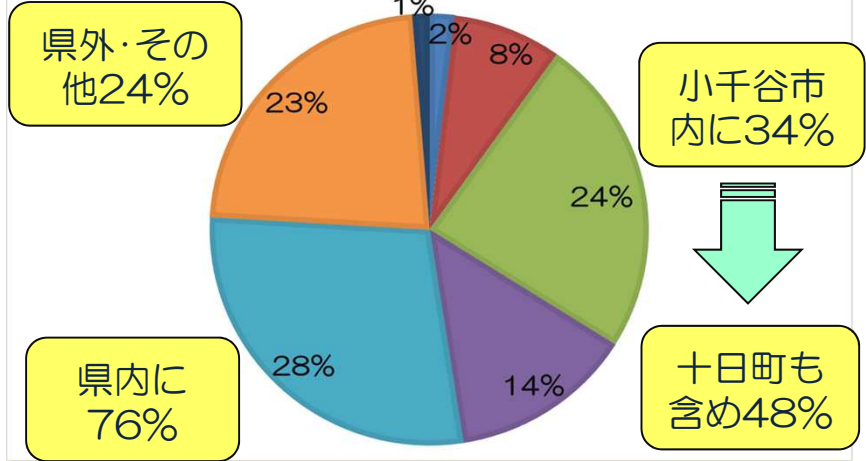
■ いる ■ いない ■ 無回答



「身寄りとなる人」がないと回答した人は4名でしたが、無回答の人が40名いました。

身寄りの人のお住いの地域

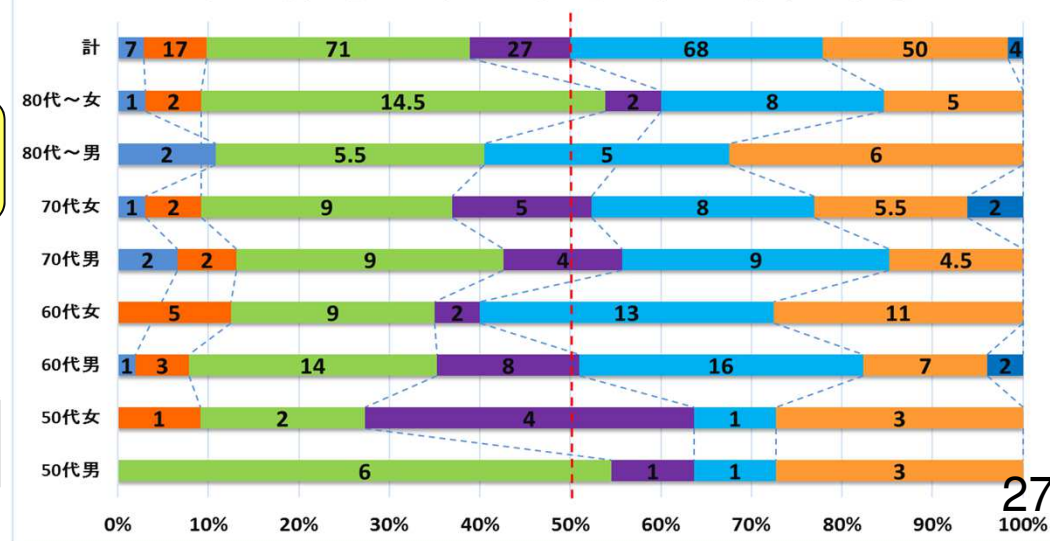
■ 町内 ■ 真人地内 ■ 市内 ■ 十日町 ■ 県内 ■ 県外 ■ その他



身寄りとなる人のお住い 真人町

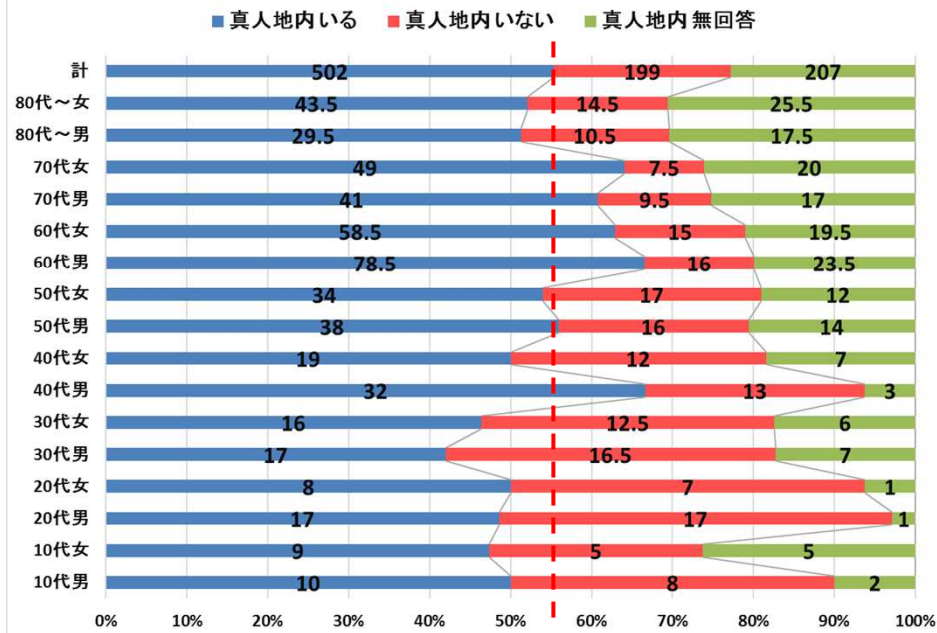
(回答者50歳以上×年代×性別)

■ 町内 ■ 真人地内 ■ 市内 ■ 十日町 ■ 県内 ■ 県外 ■ その他



1-6 近くで相談できる人 回答者属性 年代×性別×相談者 真人町

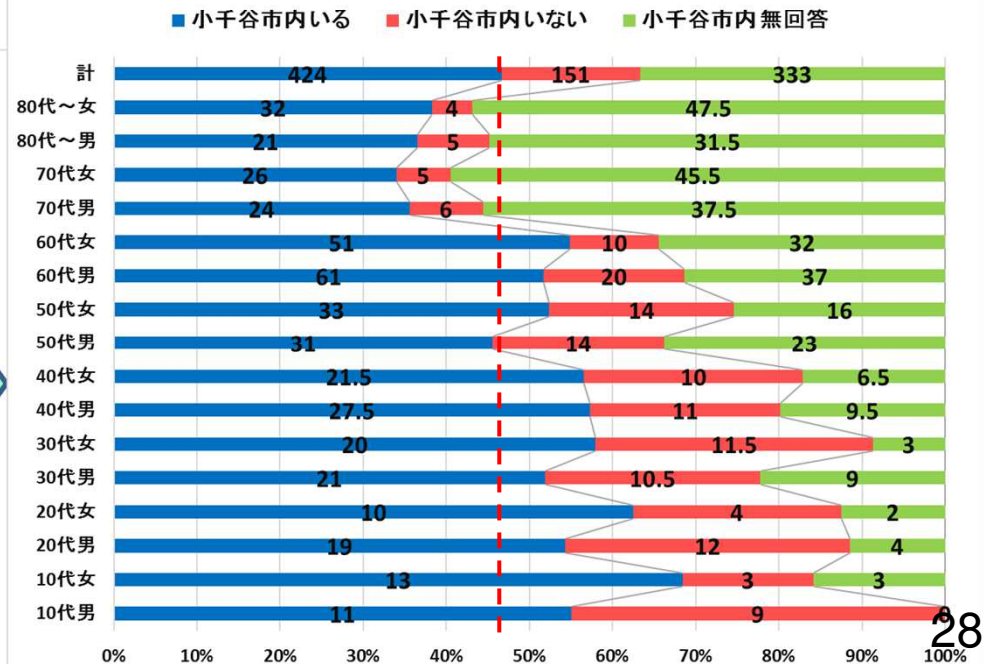
真人町に相談者がいる 年代×性別 真人町



☆近くに相談できる人がいるかどうかについてお聞きしました。回答の結果では50代以降の無回答が目立ちました。どちらか一方に答えれば良いと理解された方も多かったようです。

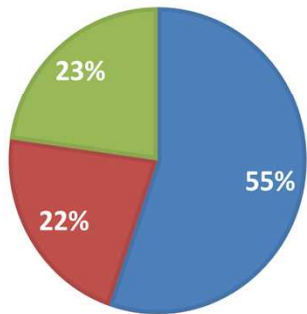
- ・相談者がいると回答した方は、60代以上の人は小千谷市内よりも真人町の割合が多く、50代より若い人は僅かですが小千谷市内が多くなっています。

小千谷市に相談者がいる 年代×性別 真人町



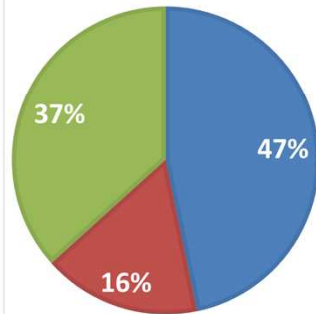
真人町に相談者がいる

■ いる ■ いない ■ 無回答



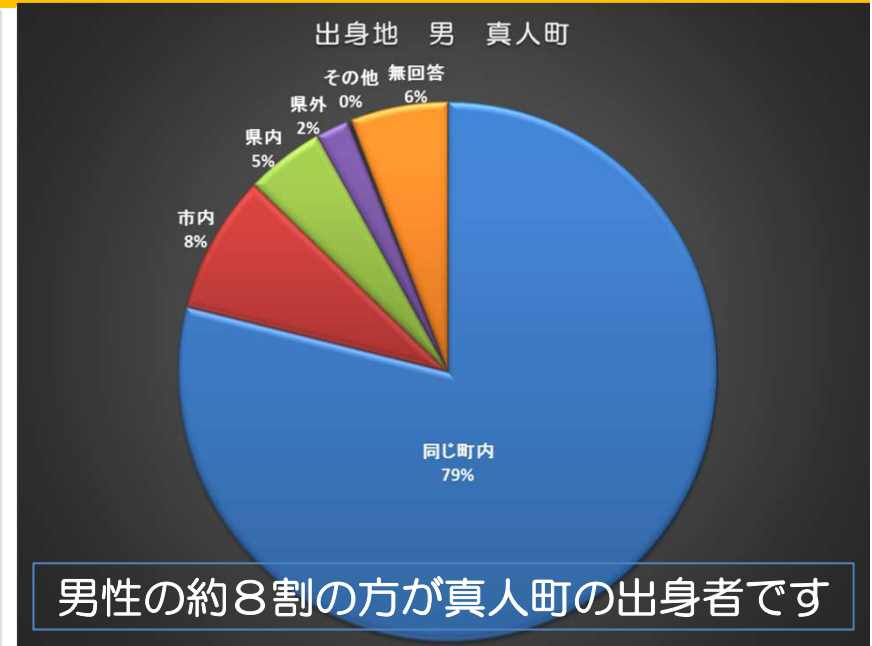
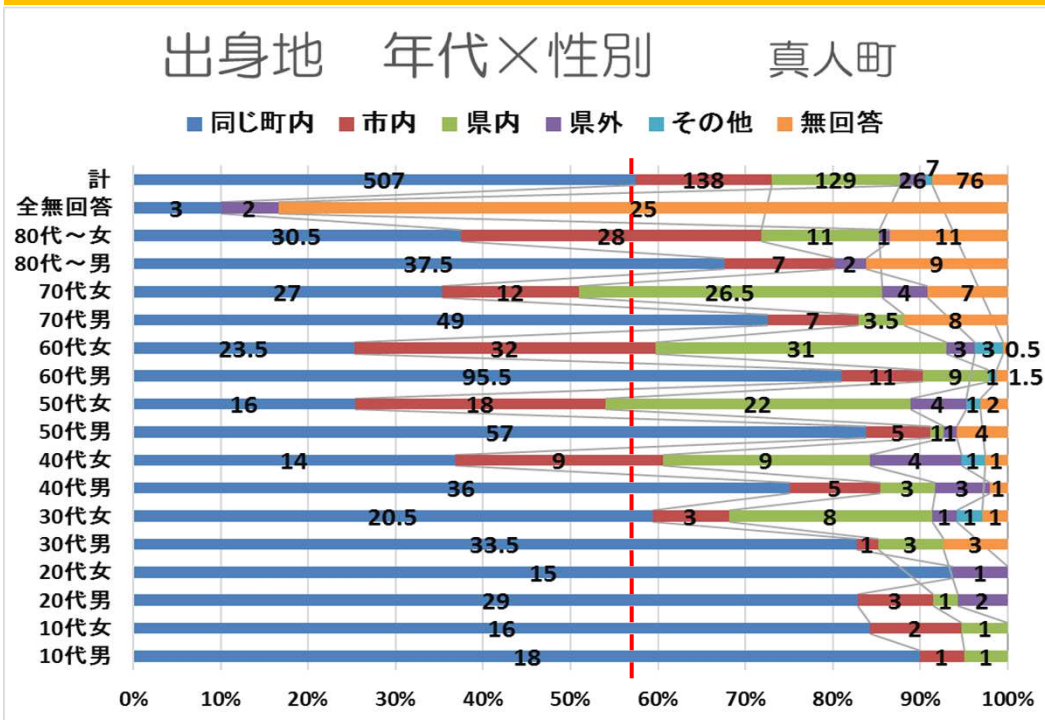
小千谷市内に相談者がいる

■ いる ■ いない ■ 無回答

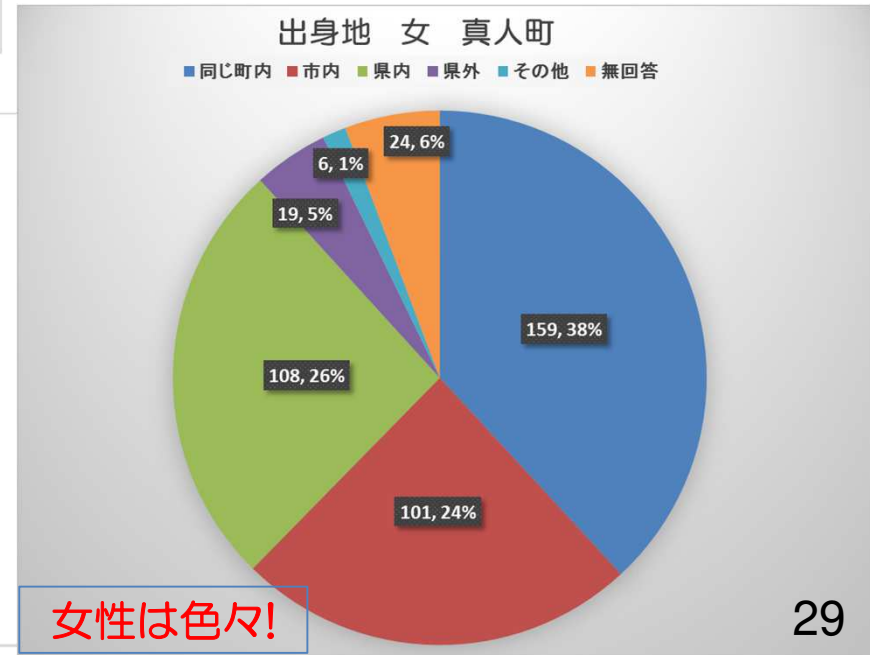
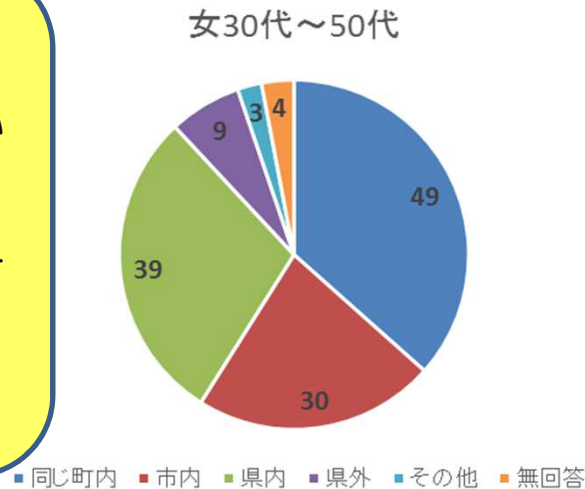


1-7 回答者属性 性別×出身地

真人町



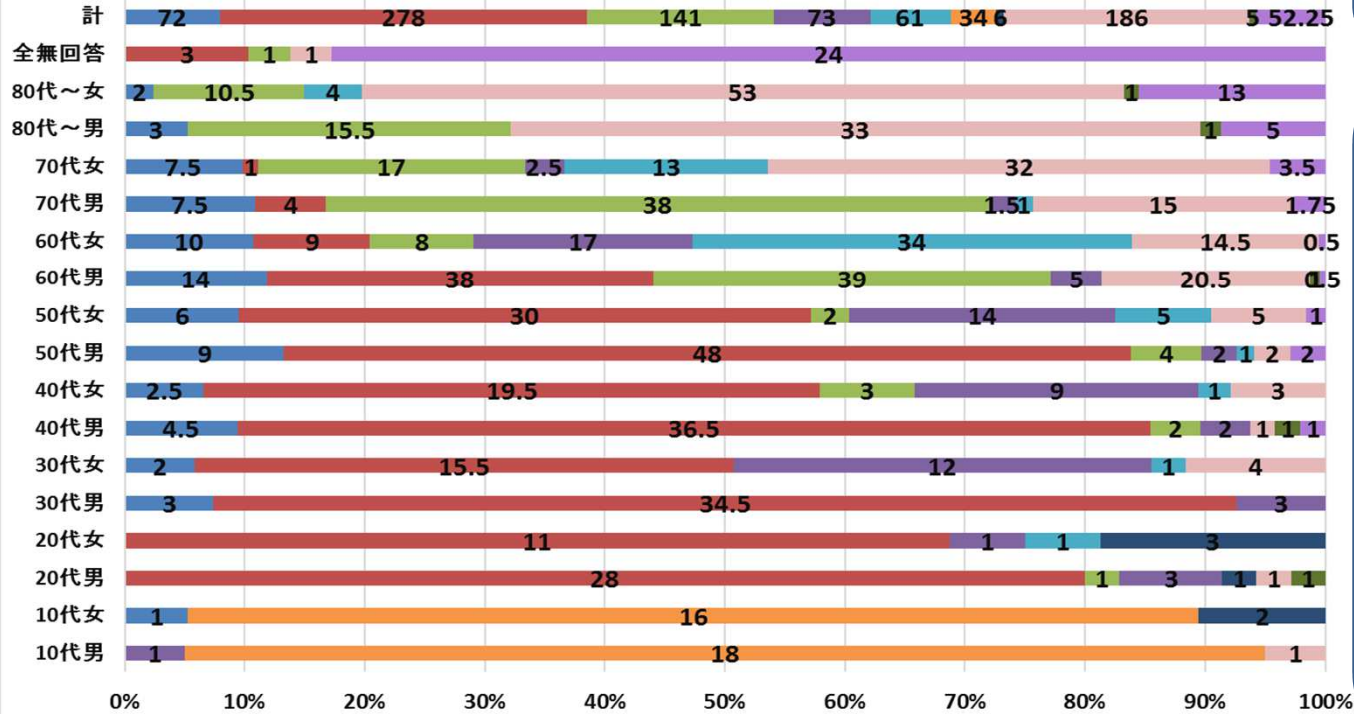
☆30代～50代の女性の出身地は真人町49人(37%)、小千谷市内30人(22%)、新潟県内39人(29%)となっています。また、60代以上の方も同じような傾向でした。



1-8 回答者属性 年代×性別×職業 真人町

職業 年代×性別 真人町

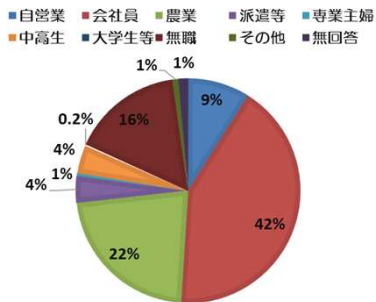
■ 自営業 ■ 会社員 ■ 農業 ■ 派遣等 ■ 専業主婦 ■ 中高生 ■ 大学生等 ■ 無職 ■ その他 ■ 無回答



☆職業の区分はラフに分類させていただきましたことをご了解願います。

☆男性の自営業、会社員、派遣等の割合は55%、農業が22%で無職が16%です。女性は自営業、会社員、派遣等が42%、農業10%、専業主婦14%、無職は26%です。派遣等と専業主婦の割合が男性より多くなっています。
 ・男性は定年退職後に農業に携わるようです。

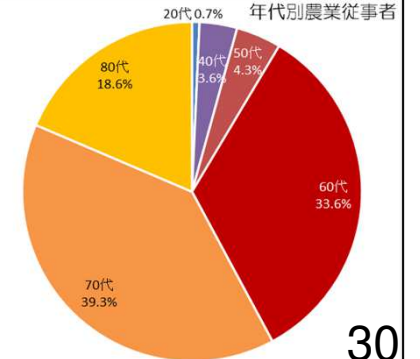
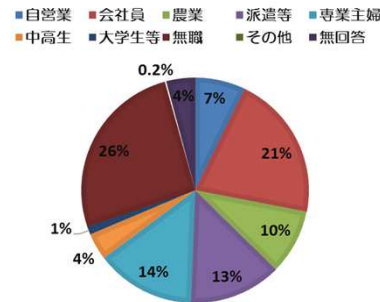
職業 男性



回答者属性 性別×職業 真人町

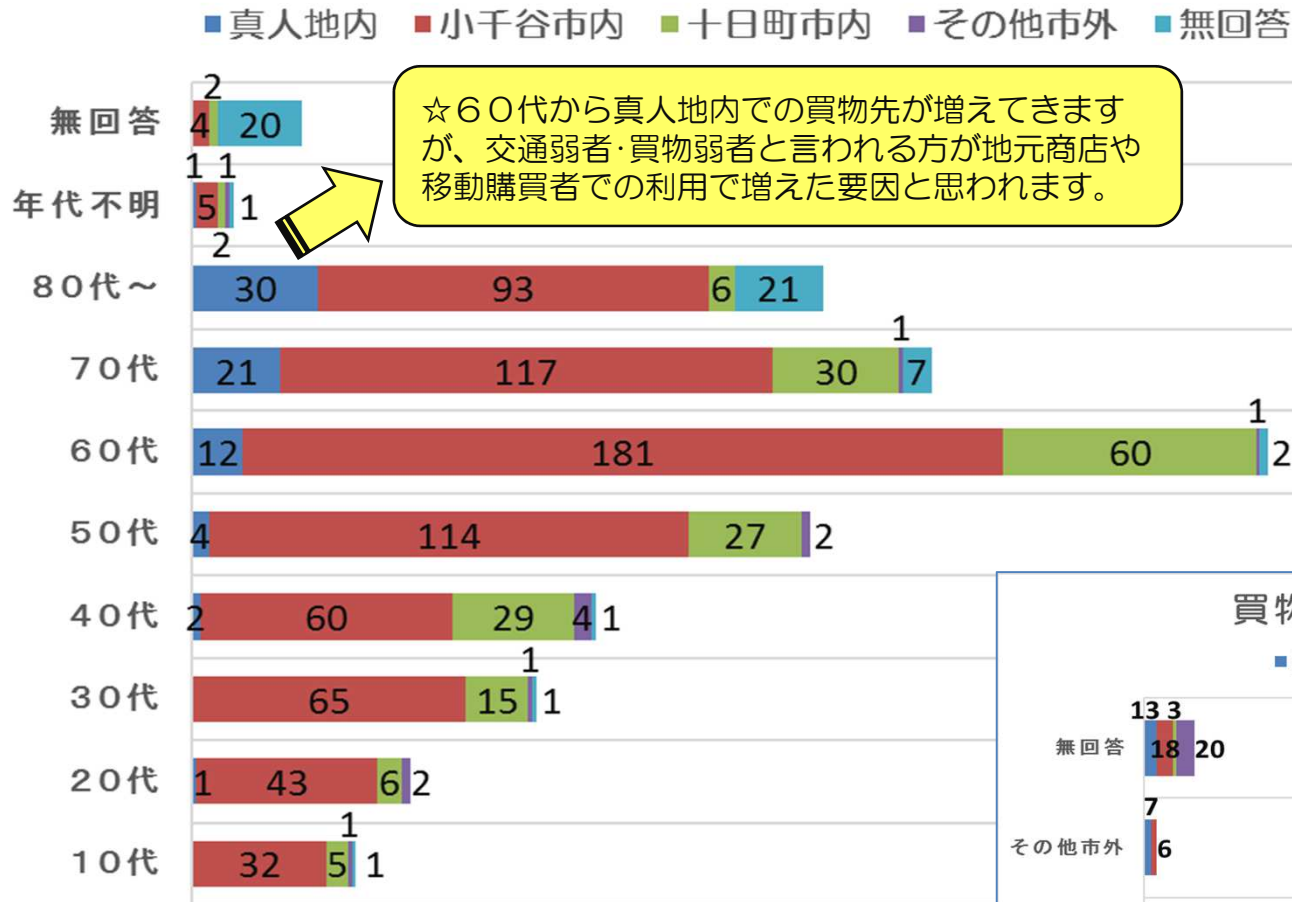


職業 女性



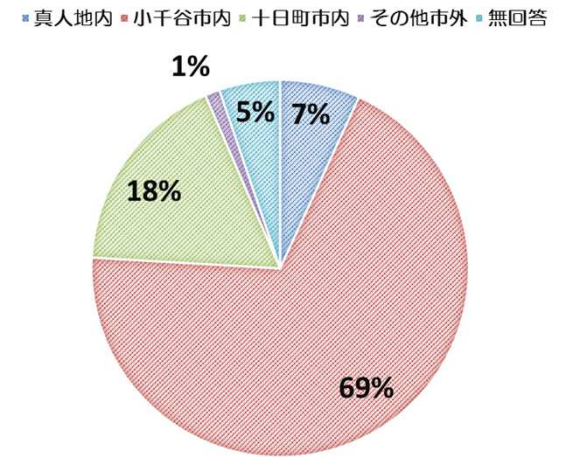
1-9 買物先 回答者属性 年代・性別×食料品 真人町

買物先 年代×食料品 真人町

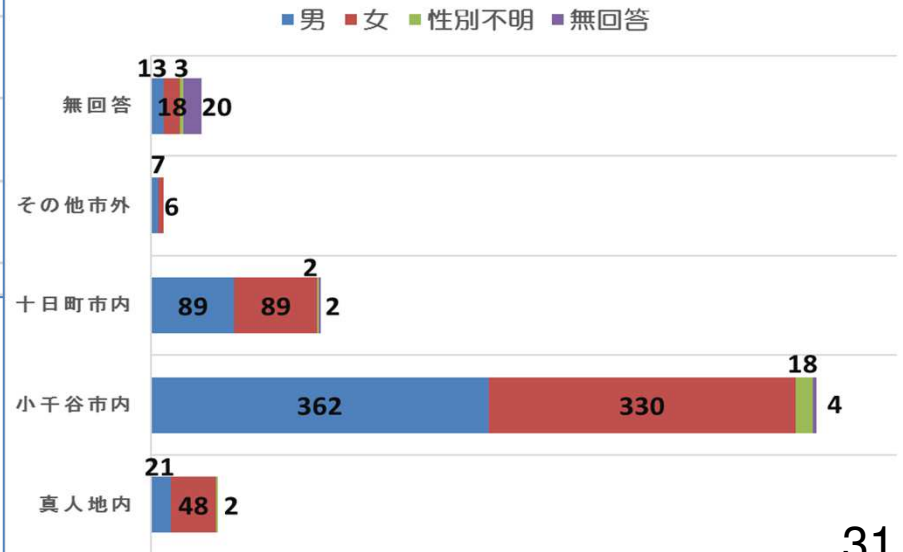


☆60代から真人地内での買物先が増えてきますが、交通弱者・買物弱者と言われる方が地元商店や移動購買者での利用で増えた要因と思われます。

買物先 食料品 真人町

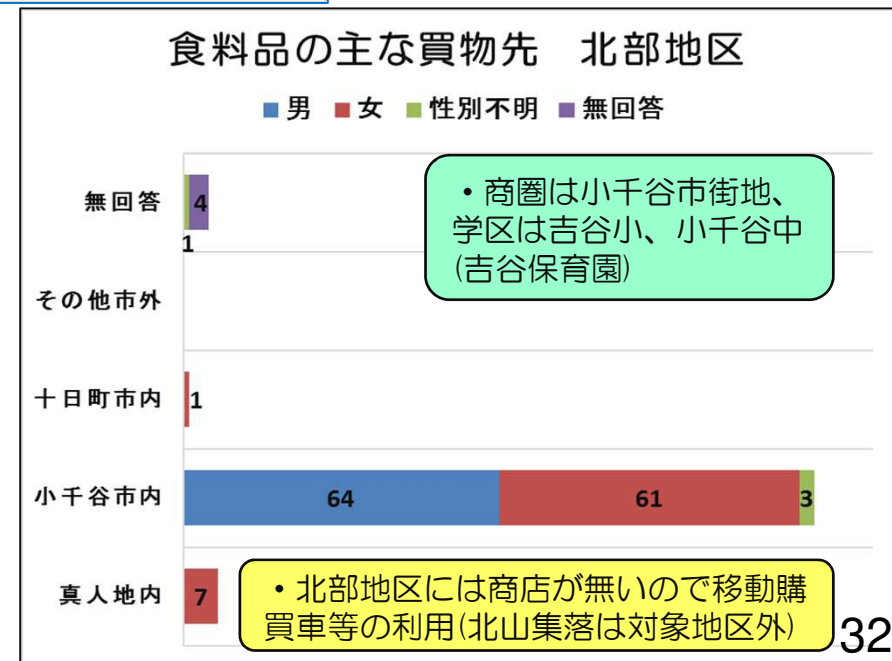
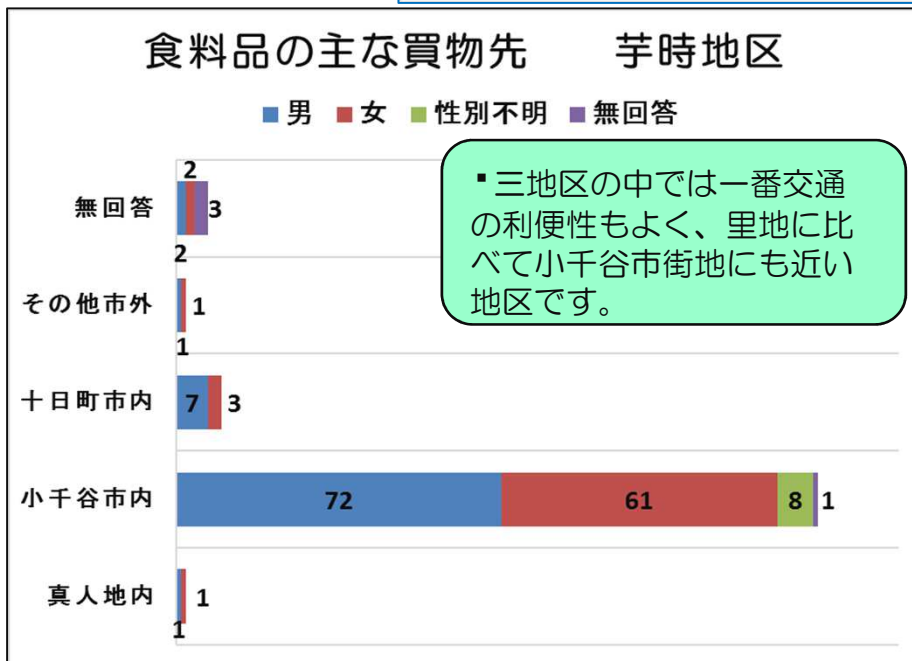
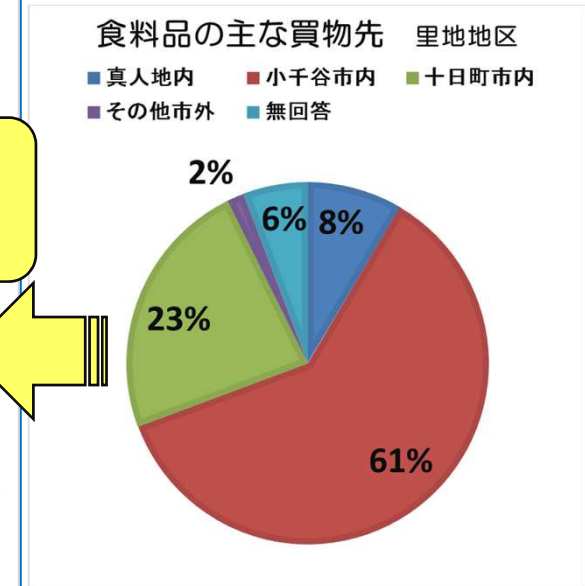
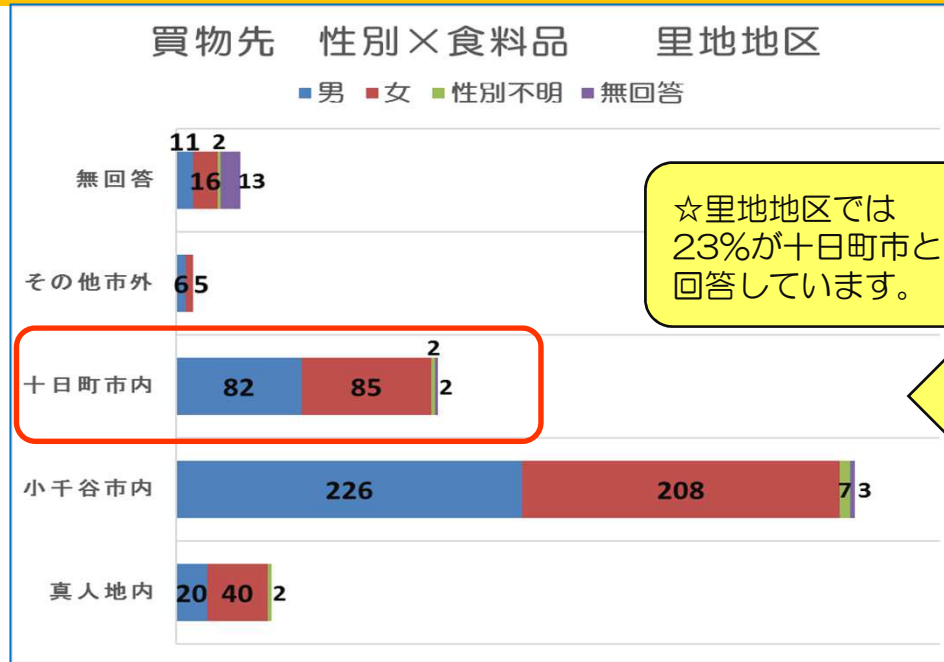


買物先 性別×食料品 真人町



☆食料品の主な買物先は約7割が小千谷市内ですが、約2割の回答先が十日町市内となっており、その回答者のほとんどが真人里地地区の方となっています。真人町は旧中魚沼郡であり、小千谷市街地と同程度で十日町市街地に行けます。また、小千谷市は長岡市に近く、商圈も長岡となっていますが、十日町市は長岡・上越と一定の距離と人口があることから、小千谷市にないにお店もあります。

1-9 食料品の買物先 三地区の比較

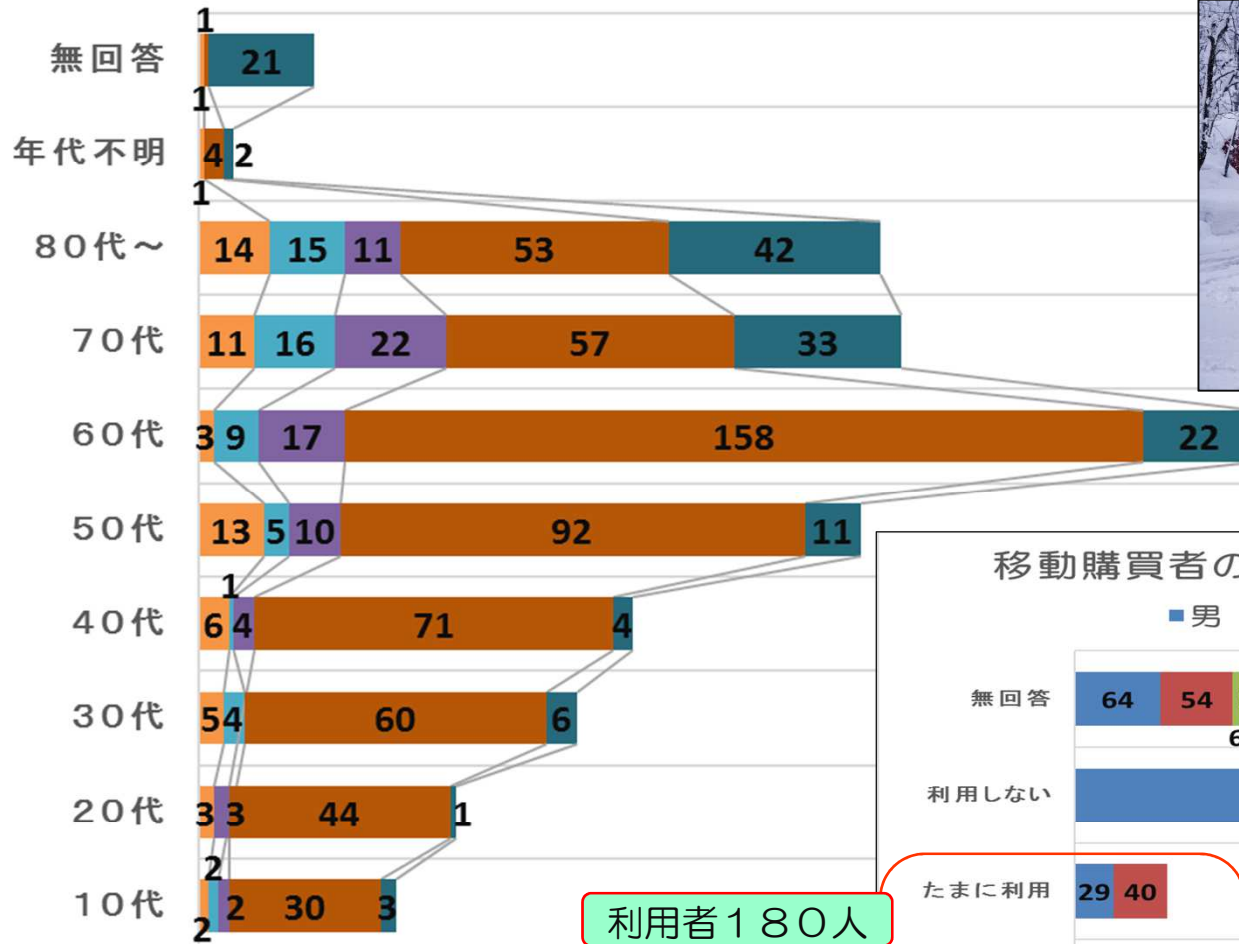


1-9 購買車利用 回答者属性 年代・性別×利用 真人町

移動購買者の利用 年代×利用 真人町

(北山集落を除く)

■ ほぼ毎回利用 ■ 時々利用 ■ たまに利用 ■ 利用しない ■ 無回答



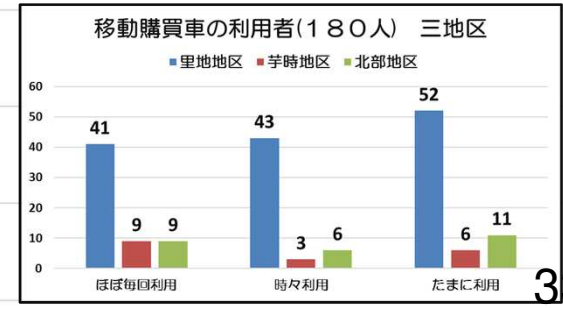
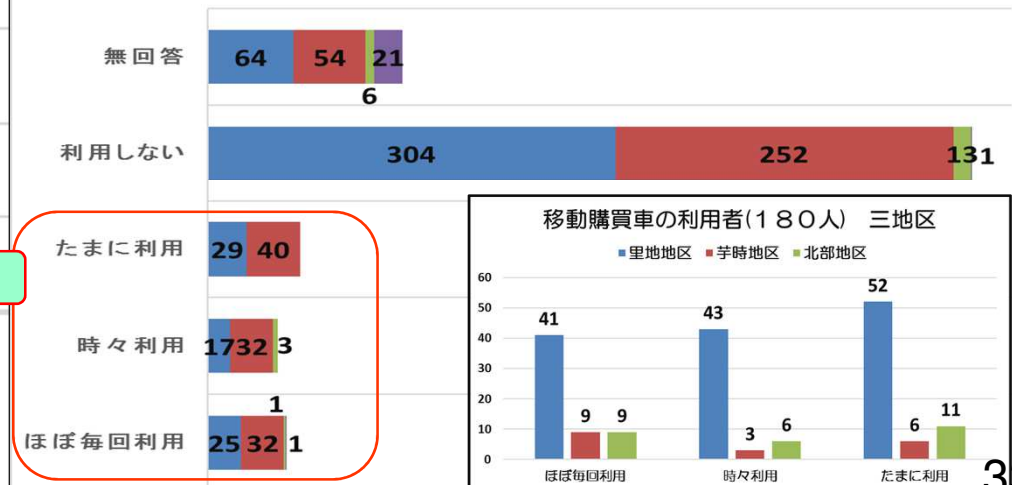
北部地区 水・土／毎週

利用者180人

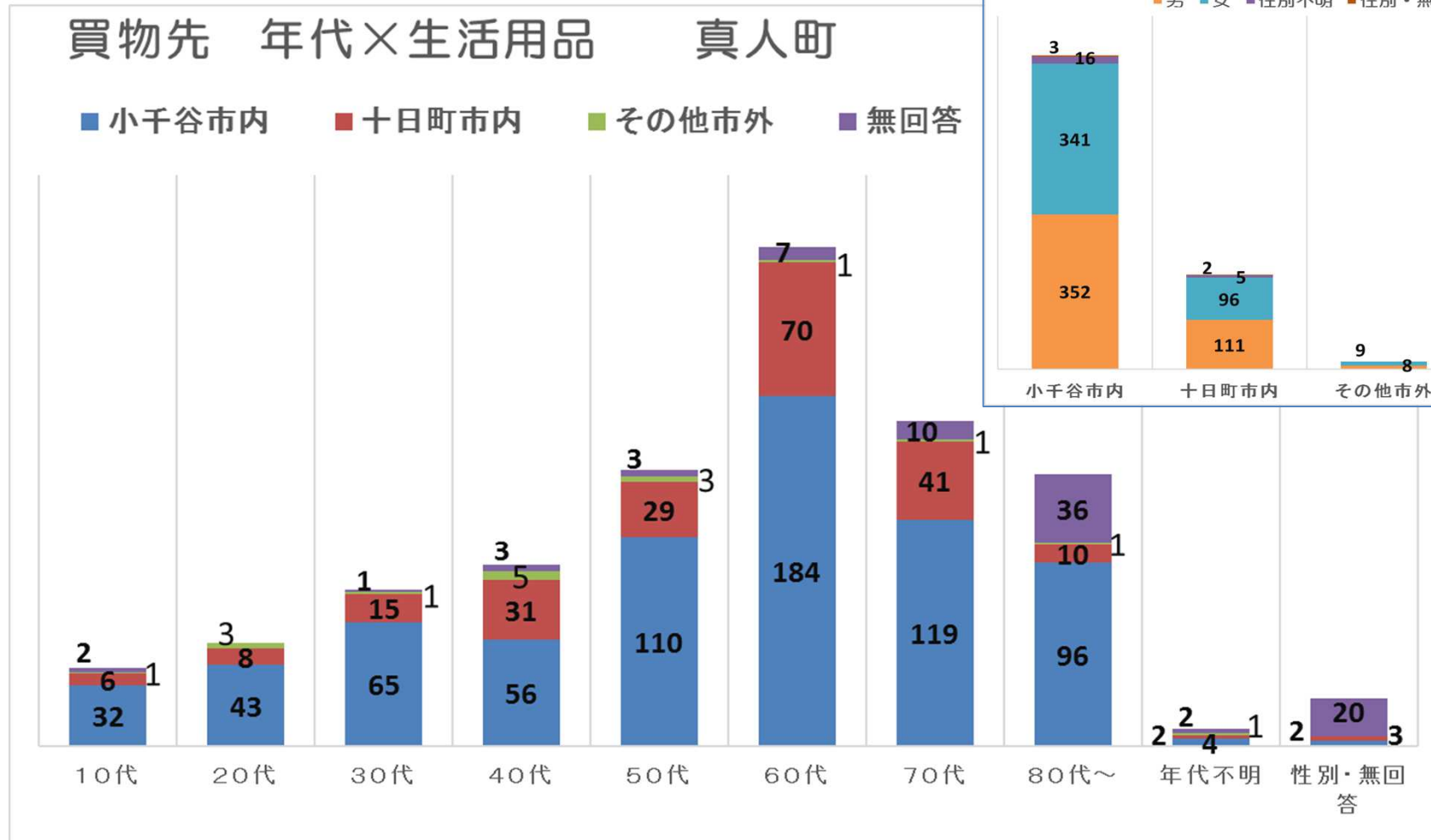
真人里地地区では十日町地区からも週1回購買者の利用が出来ます。
この調査ではネットや生協の利用は不明となっています。

移動購買者の利用 性別×利用 真人町

■ 男 ■ 女 ■ 性別不明 ■ 無回答



1-9 買物先 回答者属性 年代・性別×生活用品 真人町



・ほとんどの生活用品は地区外から購入となります。70代以下では年代に関係なく同じような傾向となっています。年配の方は、家族から購入してもらう事も増えてきます。

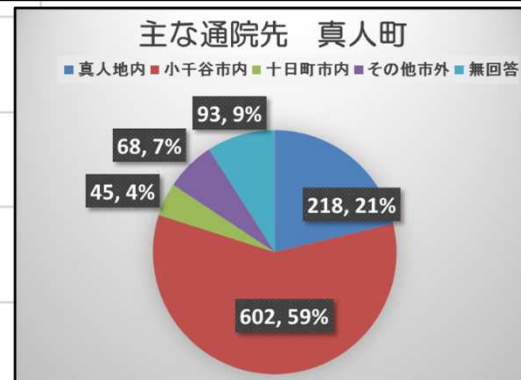
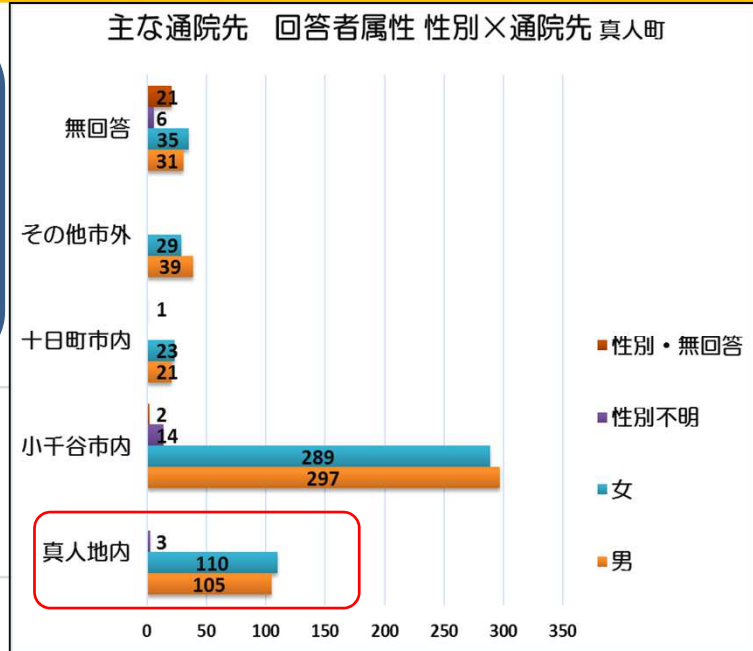
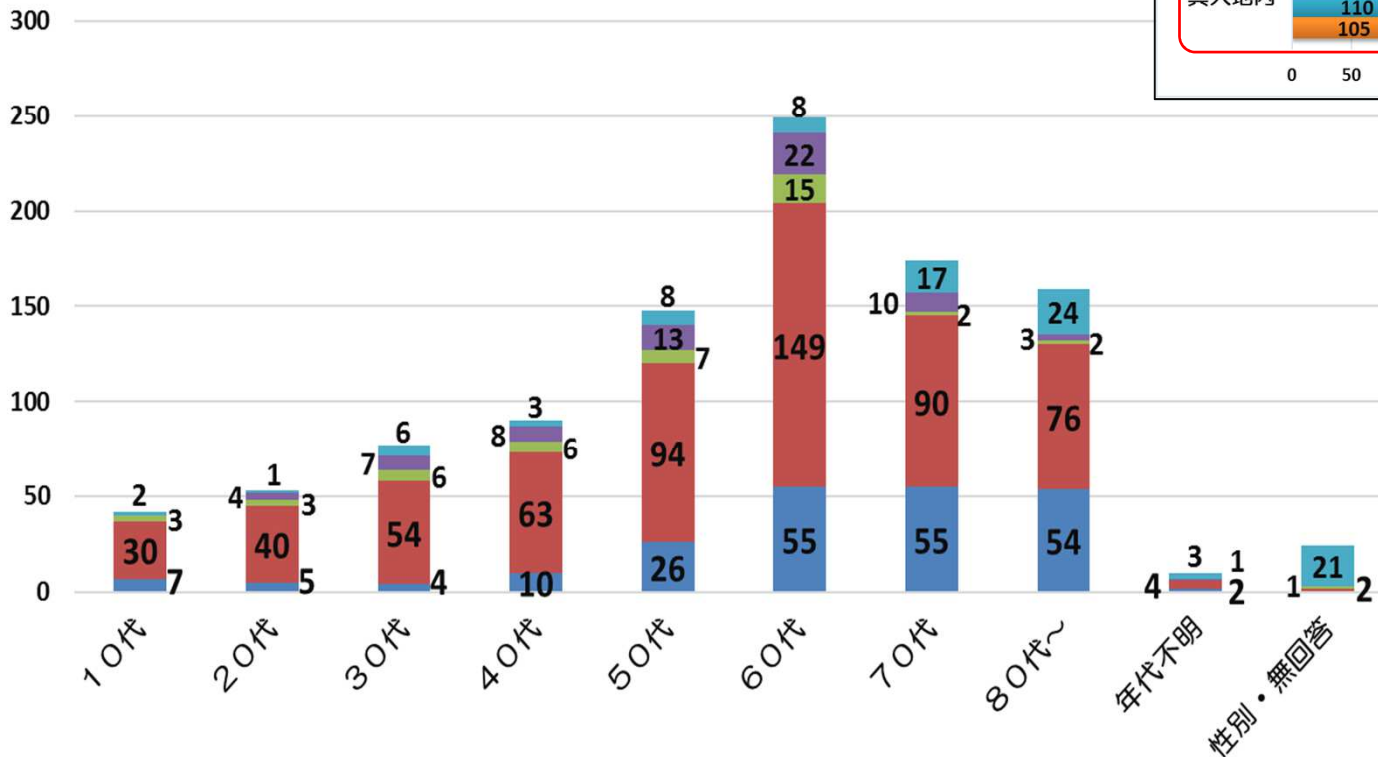
1-9 主な通院先 年代・性別×通院先 真人町

○主な通院先では、食料品・生活用品と比べて十日町市への通院割合(4%)が低くなっています。

- ・真人町に個人医院があることから、特に50代からは一定の割合でかかり付けの医院としての通院先(21%)となっています。
- ・通院には外科・整形、婦人科などの症状別に通院することから市街地への通院(59%)が回答者の多くを占めています。

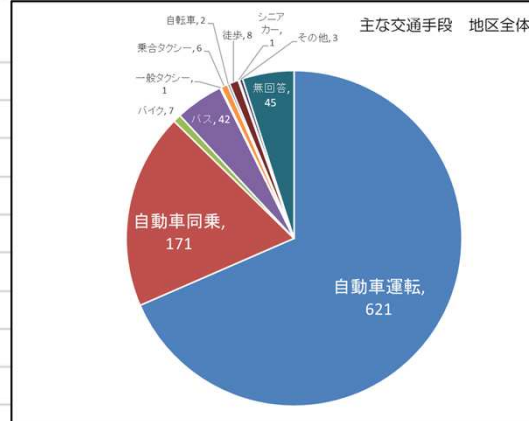
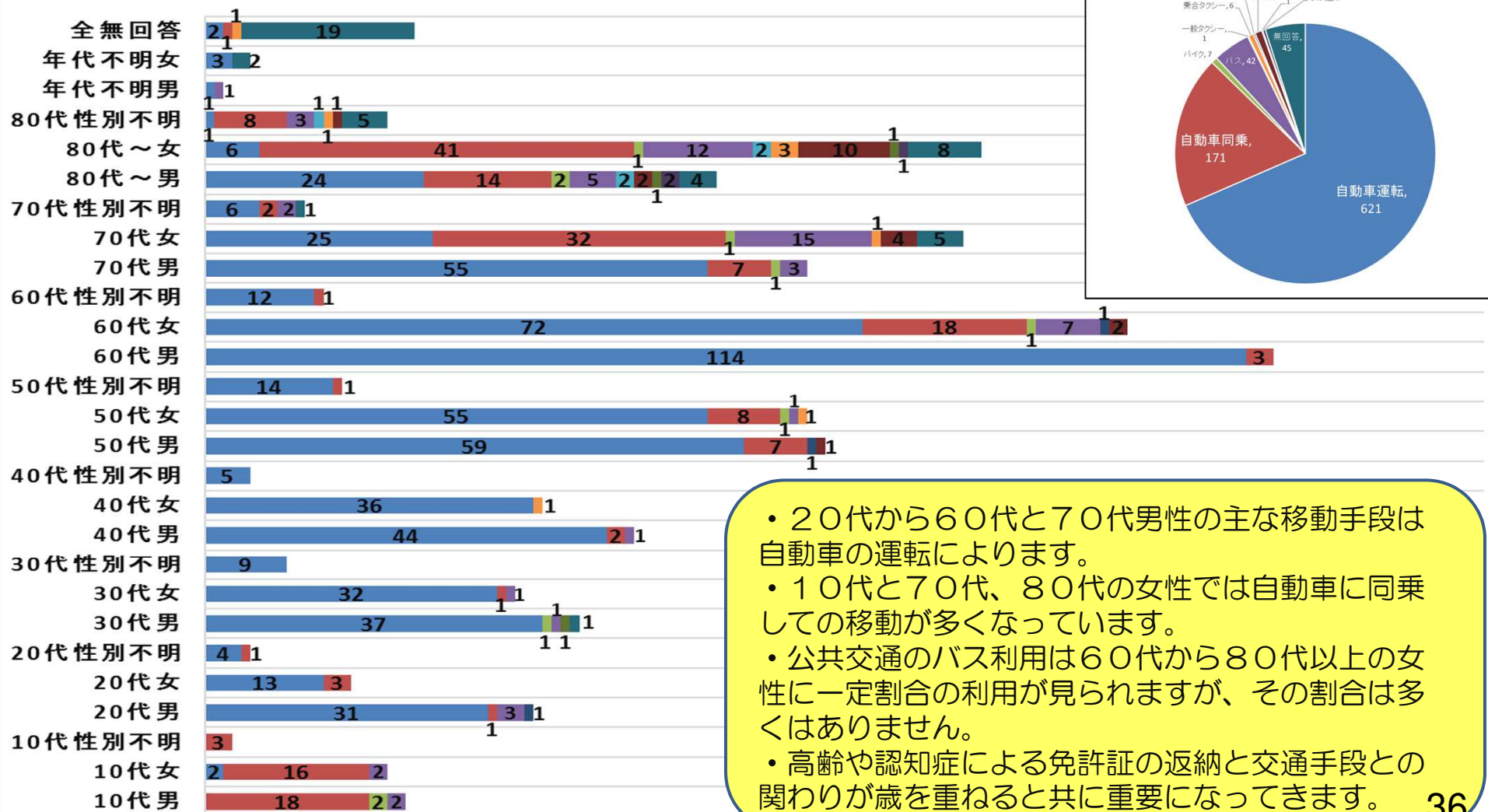
主な通院先 回答者属性 年代×通院先 真人町

■ 真人地内 ■ 小千谷市内 ■ 十日町市内 ■ その他市外 ■ 無回答



主な移動手段 年代×性別×移動手段 真人町

主な移動手段 年代×性別×移動手段 真人町



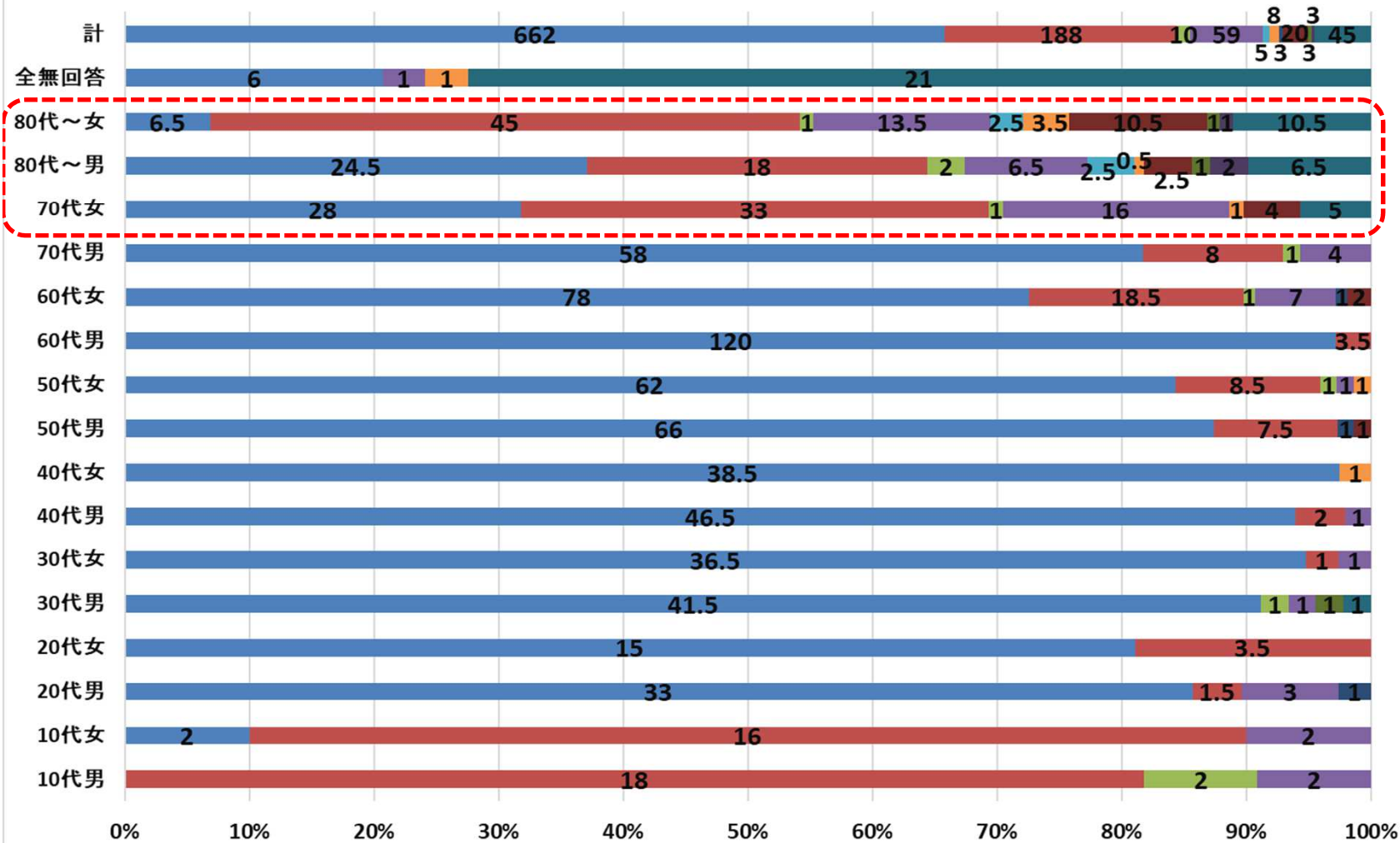
- 20代から60代と70代男性の主な移動手段は自動車の運転によります。
- 10代と70代、80代の女性では自動車に同乗しての移動が多くなっています。
- 公共交通のバス利用は60代から80代以上の女性に一定割合の利用が見られますが、その割合は多くはありません。
- 高齢や認知症による免許証の返納と交通手段との関わりが歳を重ねると共に重要になってきます。

主な日常の交通手段

年代×性別×移動手段 真人町(2018)

主な移動手段 年代×性別 真人町

■自動車運転 ■自動車同乗 ■バイク ■バス ■一般タクシー ■乗合タクシー ■自転車 ■徒歩 ■シニアカー ■その他 ■無回答



70代になると自分で車の運転をする人の割合が減少



送迎の割合が増加 (特に70代女性・80代)



家族の送迎で高齢者の交通手段が賄われている



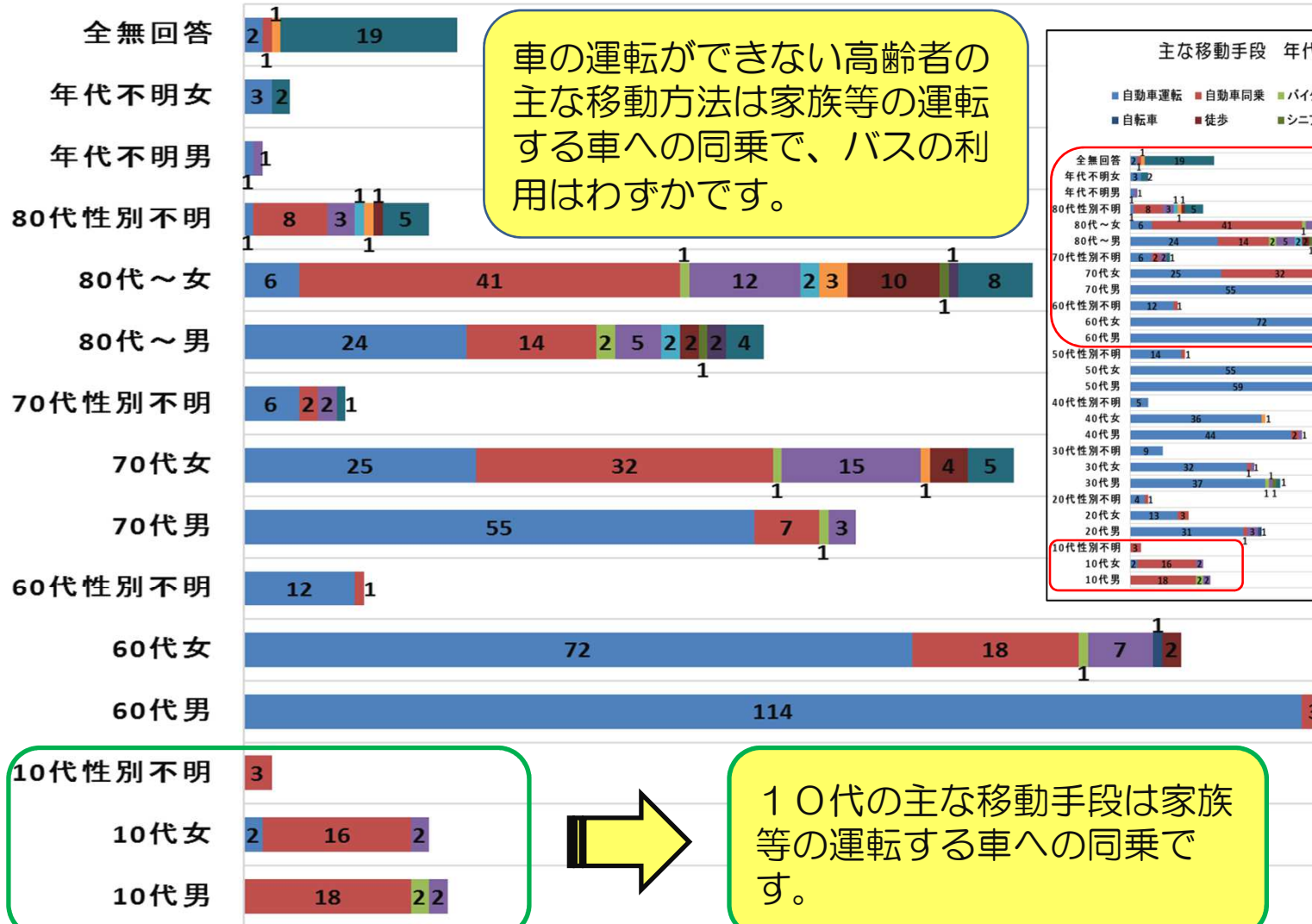
日常生活での移動が困難になる人の数は確実に増加する

将来的に送迎する側の人数が減少すると...

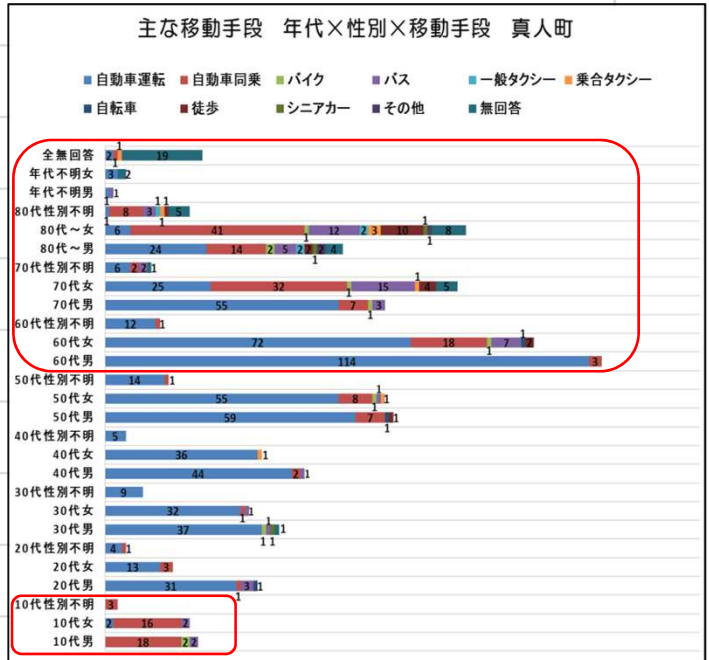
1-10 主な移動手段 年代×性別×移動手段 真人町

10代と60代～×性別×移動手段

- 自動車運転
- 自動車同乗
- バイク
- バス
- 一般タクシー
- 乗合タクシー
- 自転車
- 徒歩
- シニアカー
- その他
- 無回答

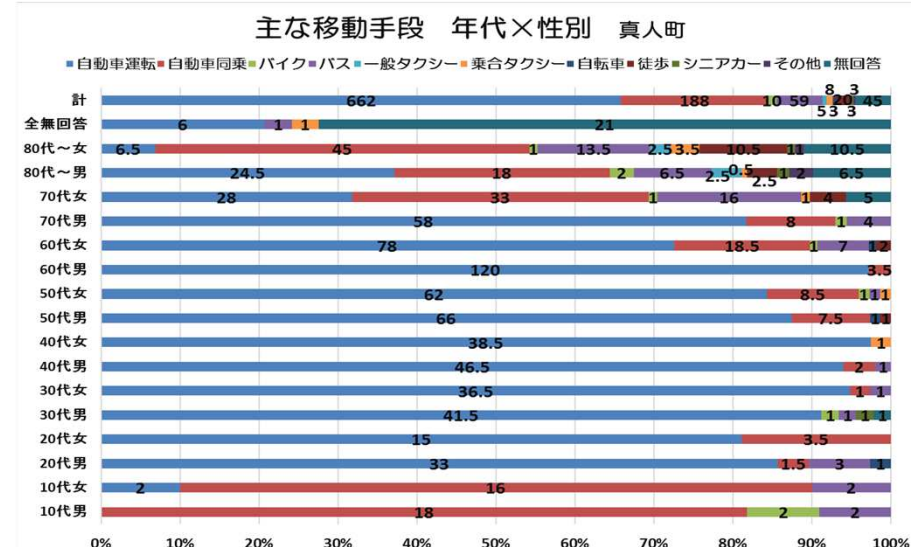
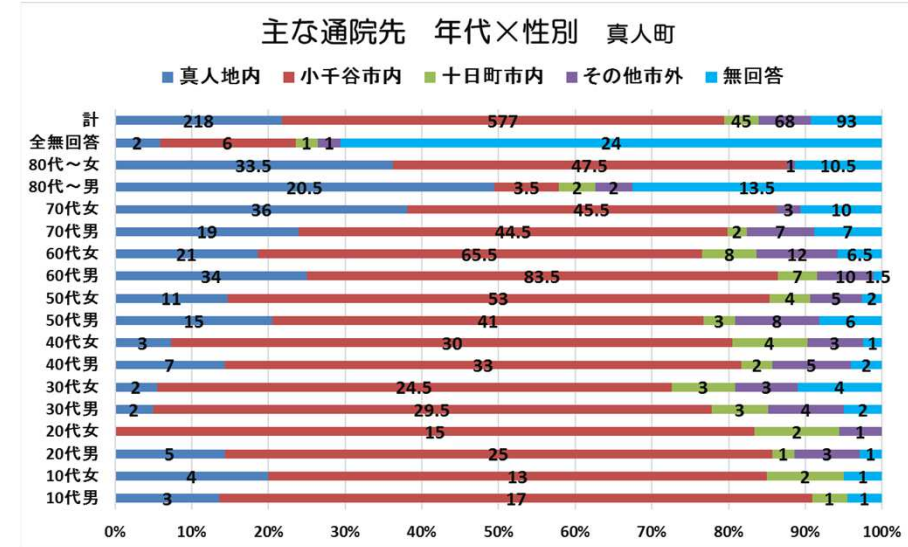
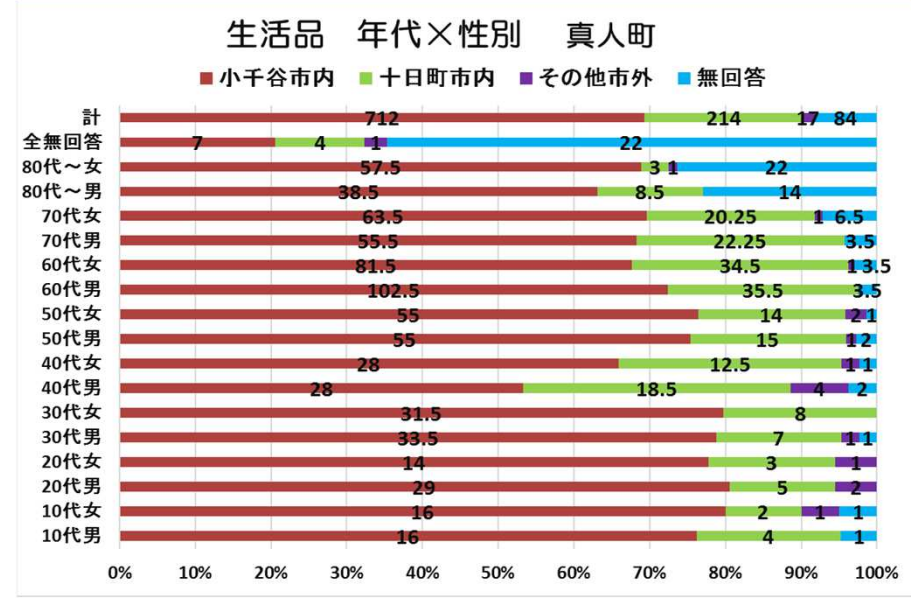
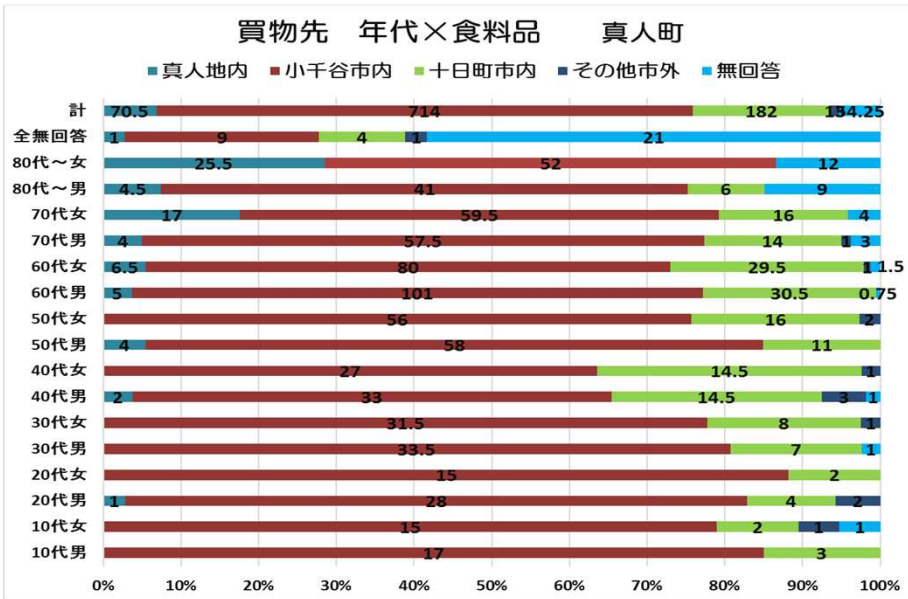


車の運転ができない高齢者の主な移動方法は家族等の運転する車への同乗で、バスの利用はわずかです。



10代の主な移動手段は家族等の運転する車への同乗です。

買物支援・移動支援をどうするか



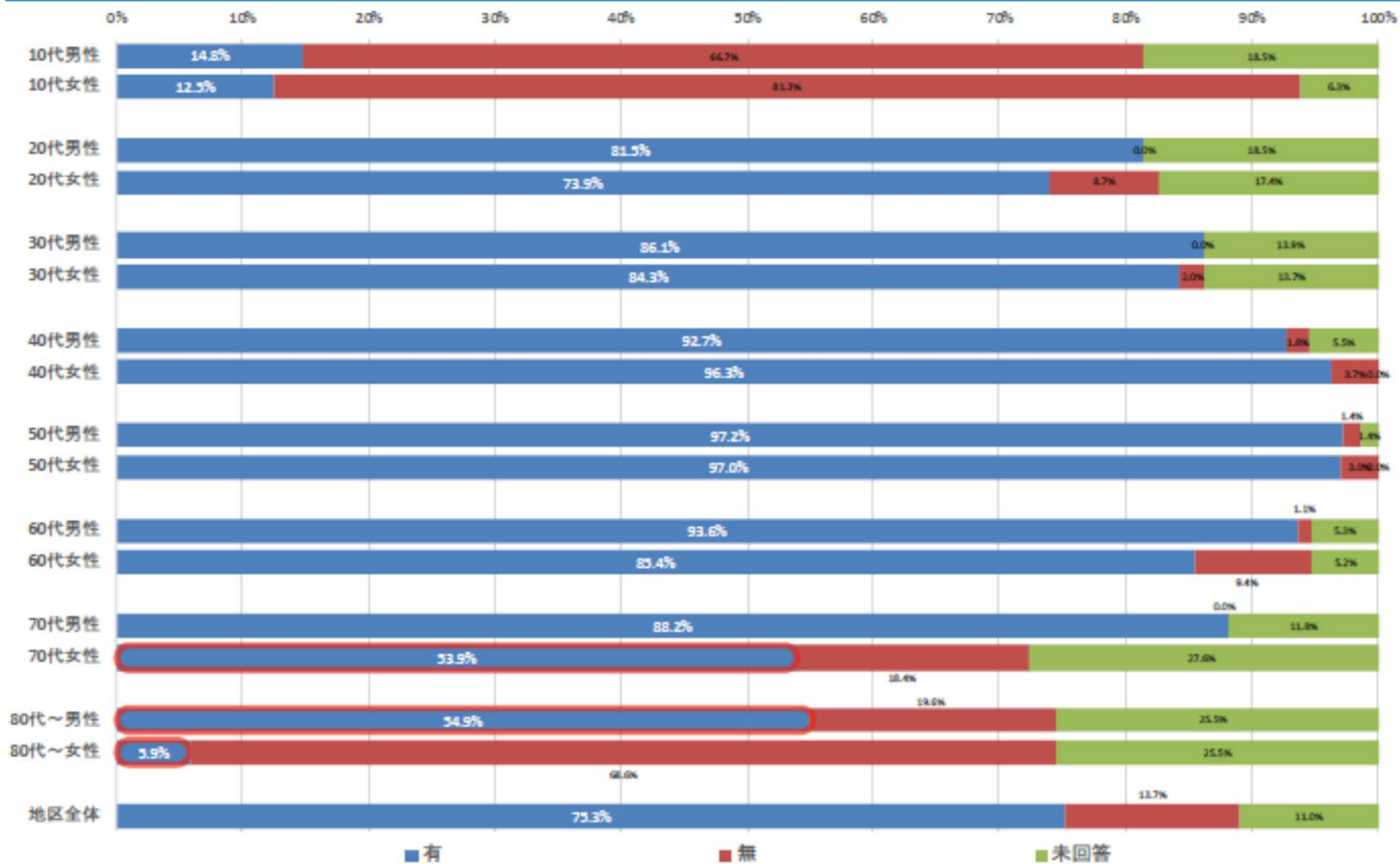
☆人口減少と少子高齢化が加速する中で今後の買物や通院はどうなるのか

・高齢者の交通事故が取り上げられてますが運転免許の返納は

※買い物弱者・交通弱者の増加に、支える側の負担も増えてきます!!

吉谷地区の運転免許保有率 年代×性別 (2018.7)

運転免許保有率 (年代別・男女別)

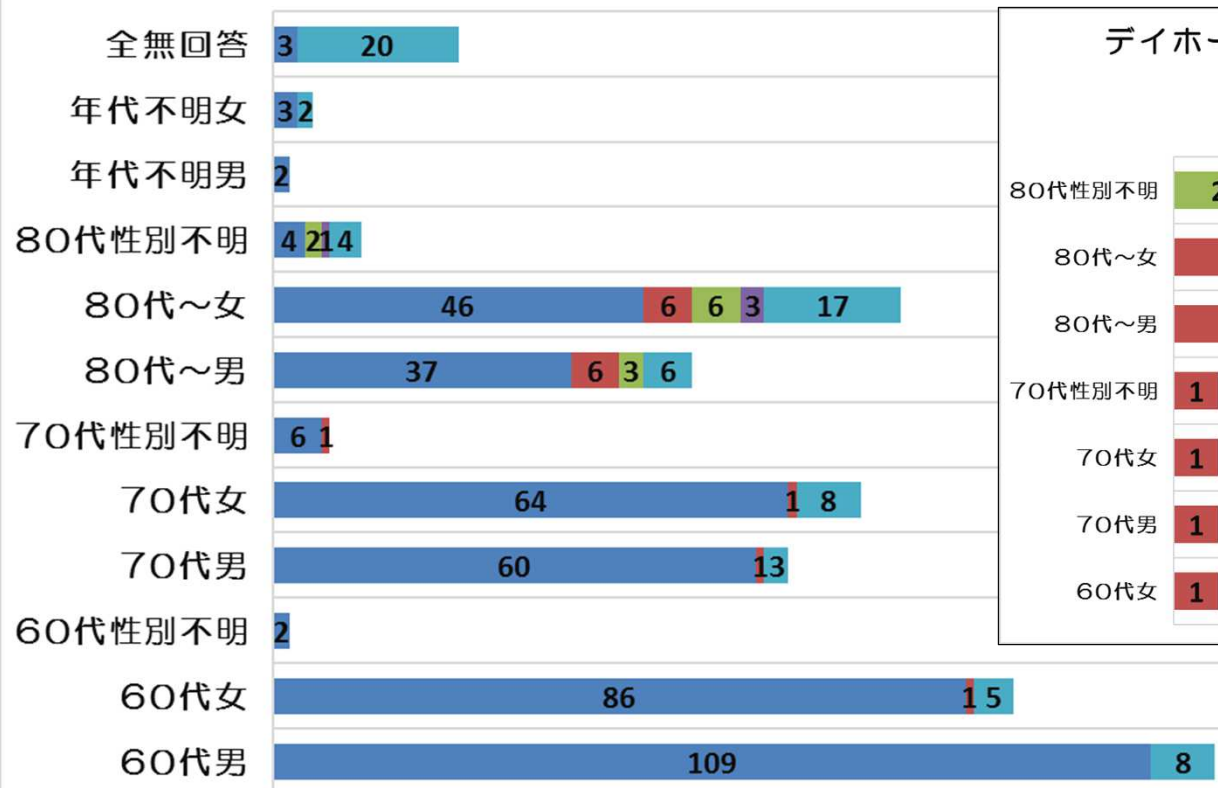


80代から運転免許保有率が減少 (女性は70代から減少)

1-11 デイホームの利用 60歳～ 年代×性別×利用 真人町

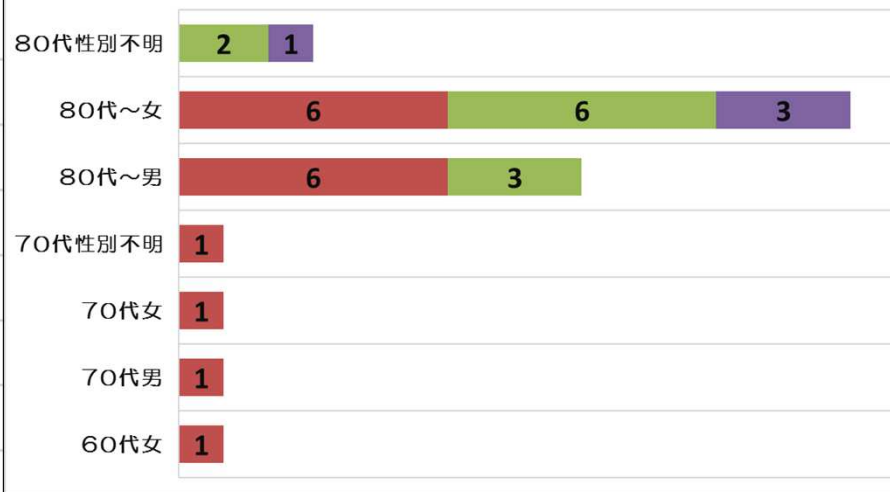
デイホーム利用 年代(60代～)×性別 真人町

■ 利用無 ■ 1～2日/週 ■ 3日/週 ■ 4日~/週 ■ 無回答



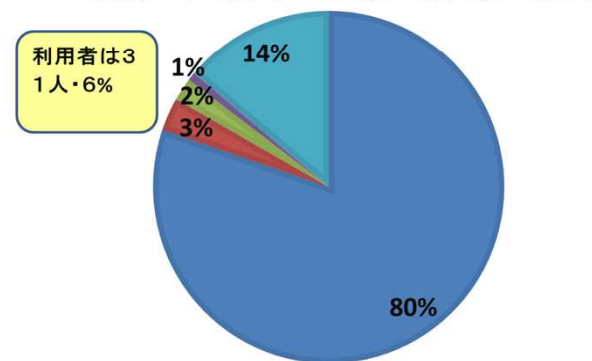
デイホーム利用者の状況(60代～31人) 真人町

■ 1～2日/週 ■ 3日/週 ■ 4日~/週



デイホーム利用状況(60歳以上) 真人町

■ 利用無 ■ 1～2日/週 ■ 3日/週 ■ 4日~/週 ■ 無回答

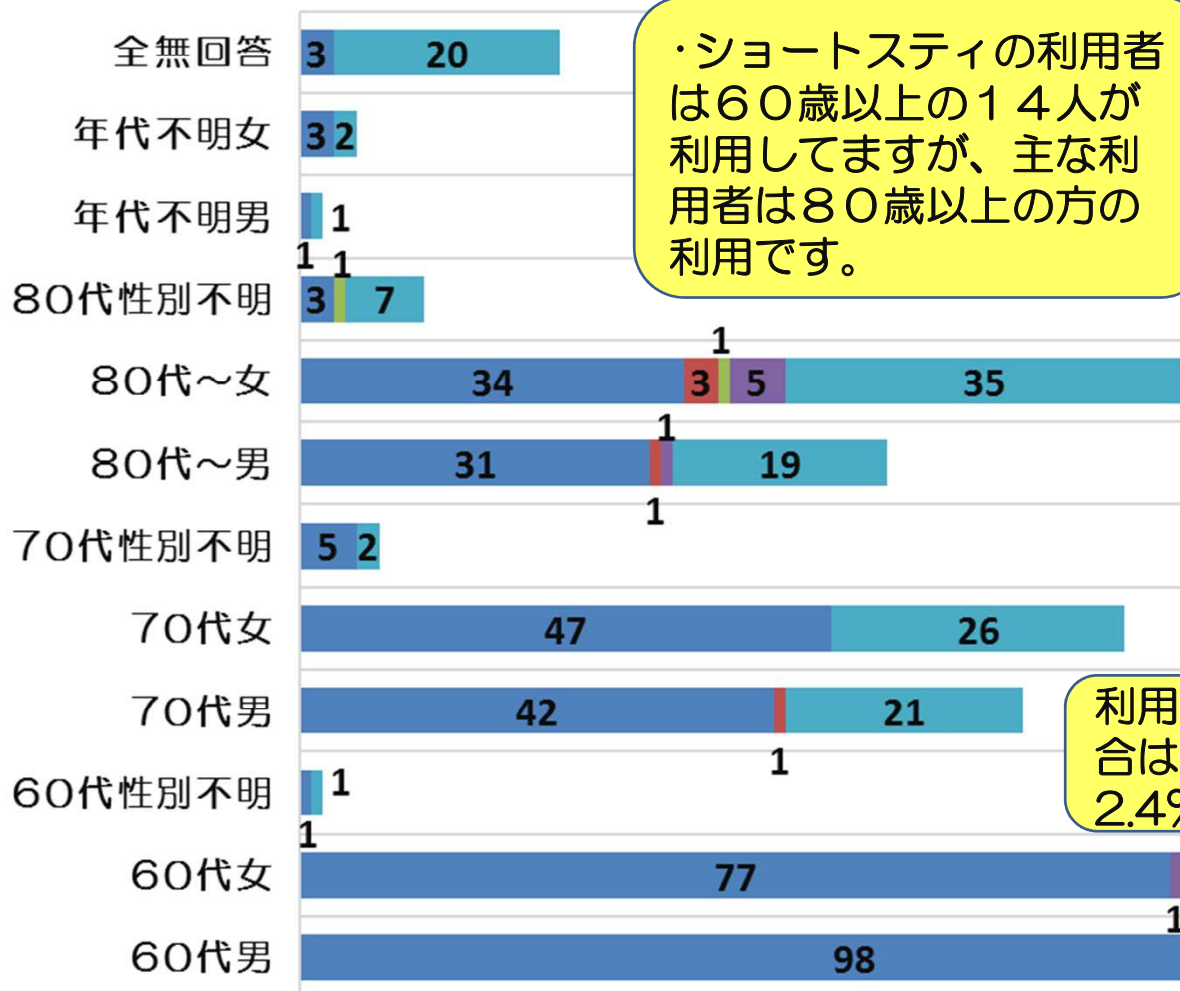


- デイホームの利用者(60歳以上から抽出)は31人で全体の6%でした。
みんな健康で過ごしているのかな・・・?
(介護施設へ入居すると住所も変わるよね)
- 80歳～の利用者が増えるよね!!

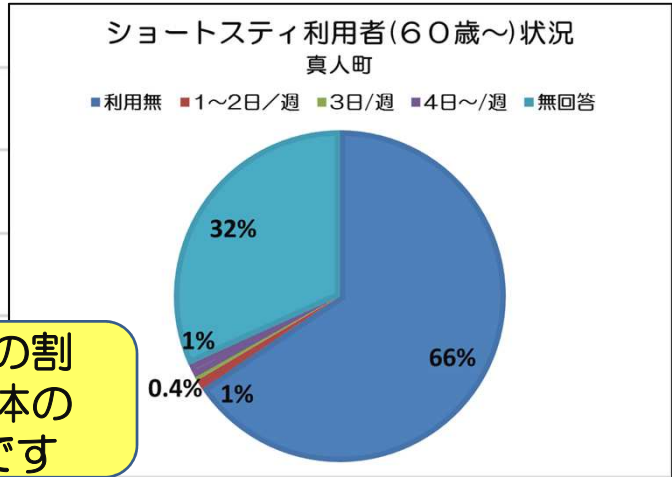
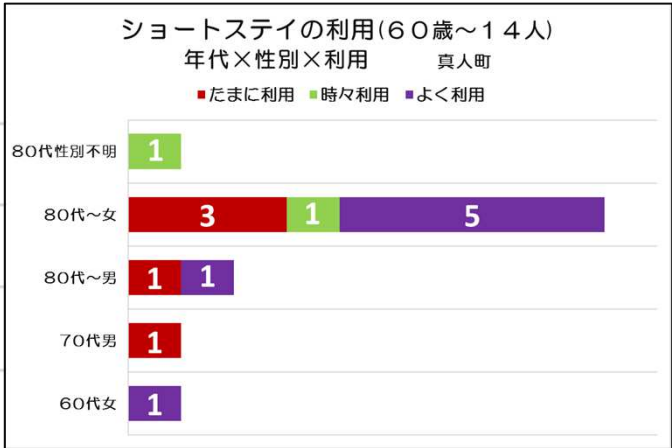
1-11ショートステイの利用(60歳～) 年代×性別×利用 真人町

ショートステイの利用(60歳～) 年代×性別×利用 真人町

■ 利用無 ■ たまに利用 ■ 時々利用 ■ よく利用 ■ 無回答



・ショートステイの利用者は60歳以上の14人が利用していますが、主な利用者は80歳以上の方の利用です。



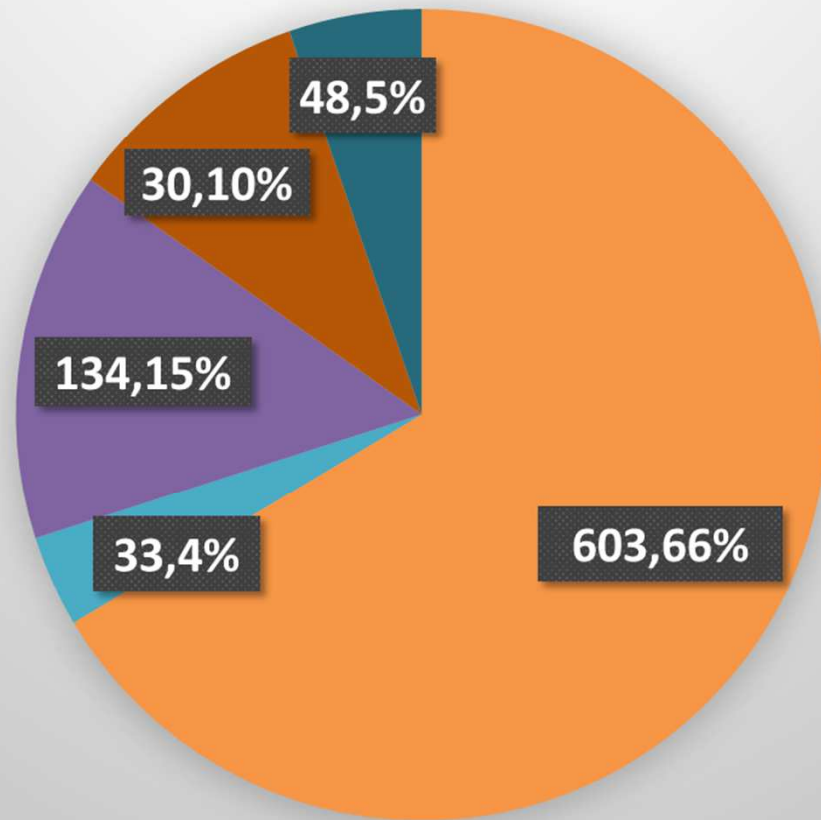
利用者の割合は全体の2.4%です

1-12 現在あなたの家は田畑を所有していますか 真人町

農地の所有状況

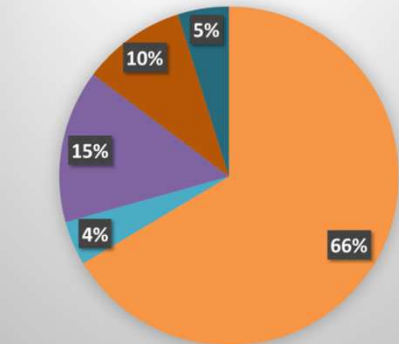
真人町

■ 田畑所有 ■ 田のみ所有 ■ 畑のみ所有 ■ 田畑無 ■ 無回答



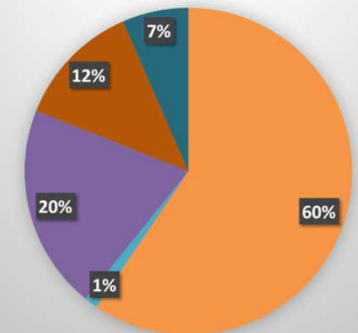
農地の所有状況 里地地区

■ 田畑所有 ■ 田のみ所有 ■ 畑のみ所有 ■ 田畑無 ■ 無回答



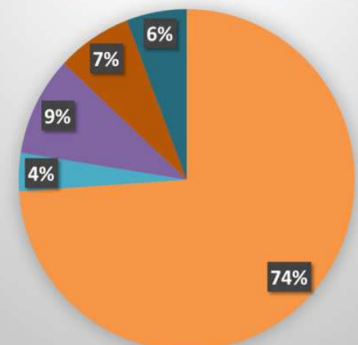
農地の所有状況 芋時地区

■ 田畑所有 ■ 田のみ所有 ■ 畑のみ所有 ■ 田畑無 ■ 無回答



農地の所有状況 北部地区

■ 田畑所有 ■ 田のみ所有 ■ 畑のみ所有 ■ 田畑無 ■ 無回答



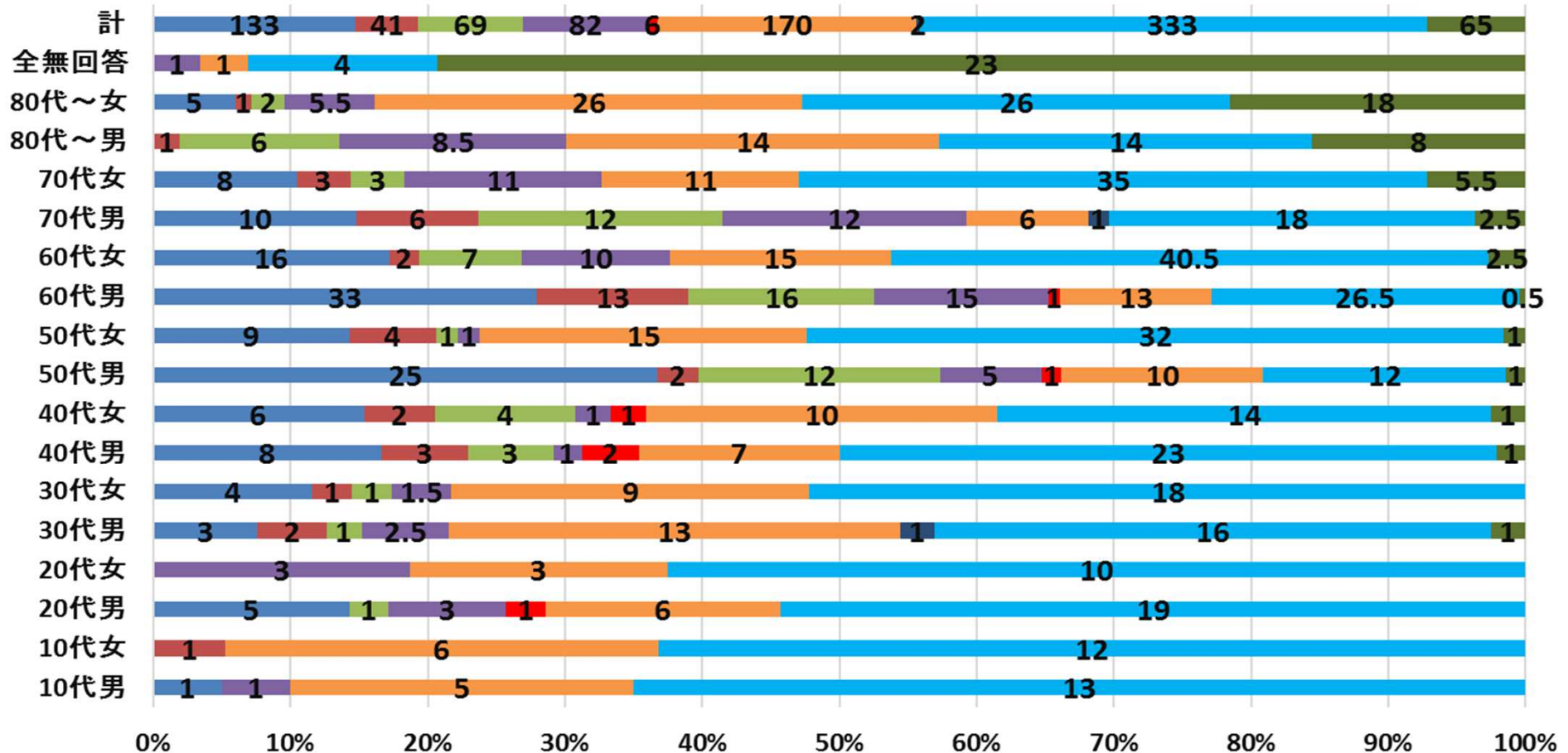
☆稲作中心の農村地域であるため、田んぼの所有は真人町の回答者で7割の人が所有しています。また、10%の人が田畑はないと回答しています。田んぼの耕作は職業の回答でも見られたように、60~70代の男性が主力として農業として携わっています。

1-13 将来の農作業や管理への従事

真人町

10年後の農業を自らしているか 年代×性別 真人町

■同程度 ■一部委託 ■田全て委託 ■耕作放棄 ■拡大希望 ■していない ■新規就農 ■わからない ■無回答



☆全体の約4割の方が10年後の農作業については解らないと解答しており、特に若年層の回答者に多く見られました。定年前となる50代の男性は「わからない」の回答は少なく今後を見据えているようです。

- ・農業の主力である60～70代の方も委託や耕作放棄への意向が具体的に数値化されて見られます。
- ・新規就農が2名、規模拡大が6名おられました。認定農業者などの取り組みが気にかかります。

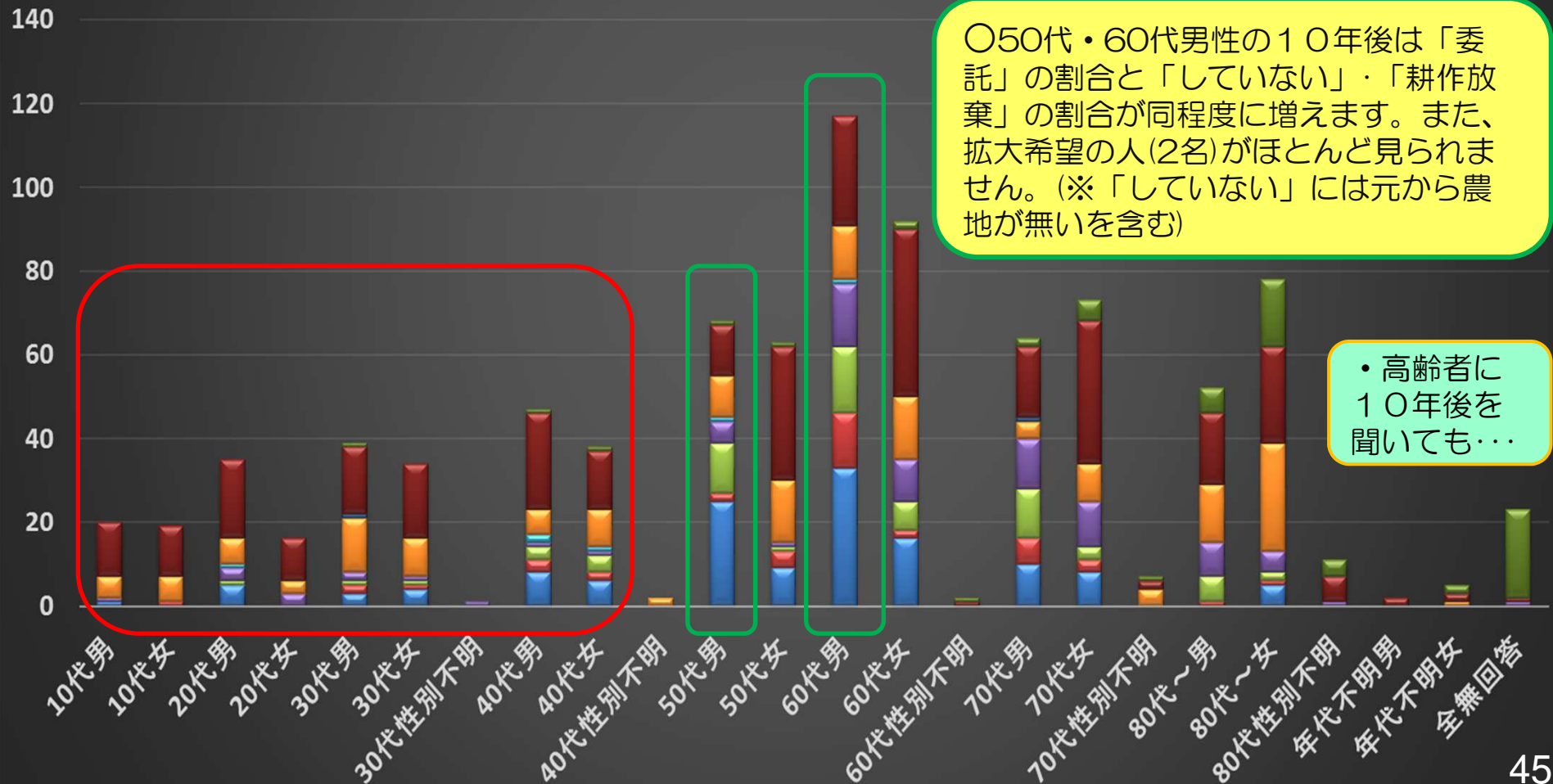
1-13 将来の農作業や管理への従事

真人町

10年後の農作業や管理を自らしていると思いますか

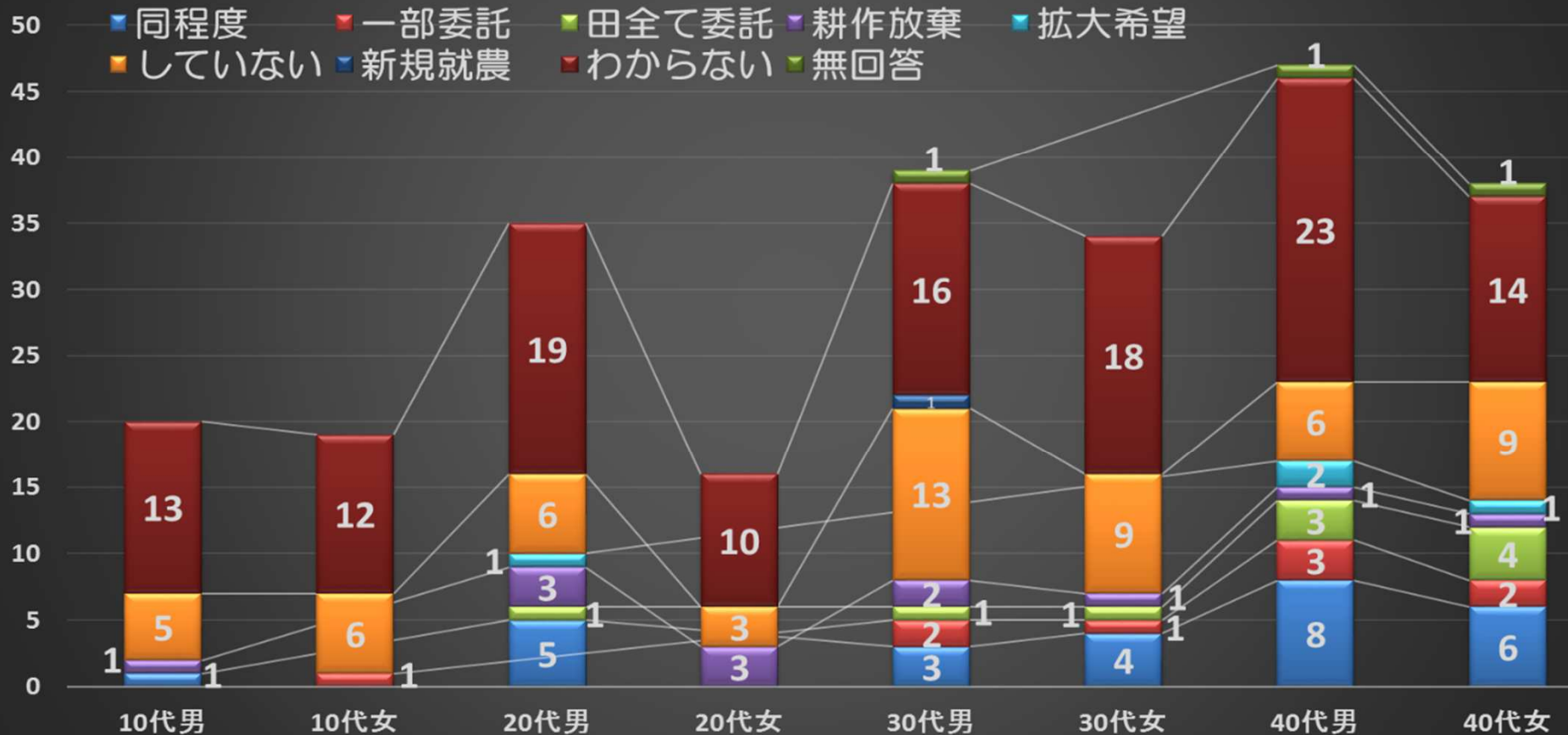
年代×性別×農業 真人町

- 同程度
- 一部委託
- 田全て委託
- 耕作放棄
- 拡大希望
- していない
- 新規就農
- わからない
- 無回答



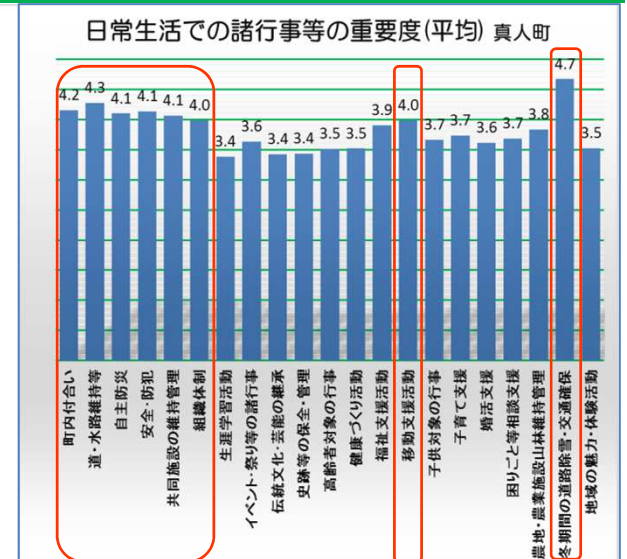
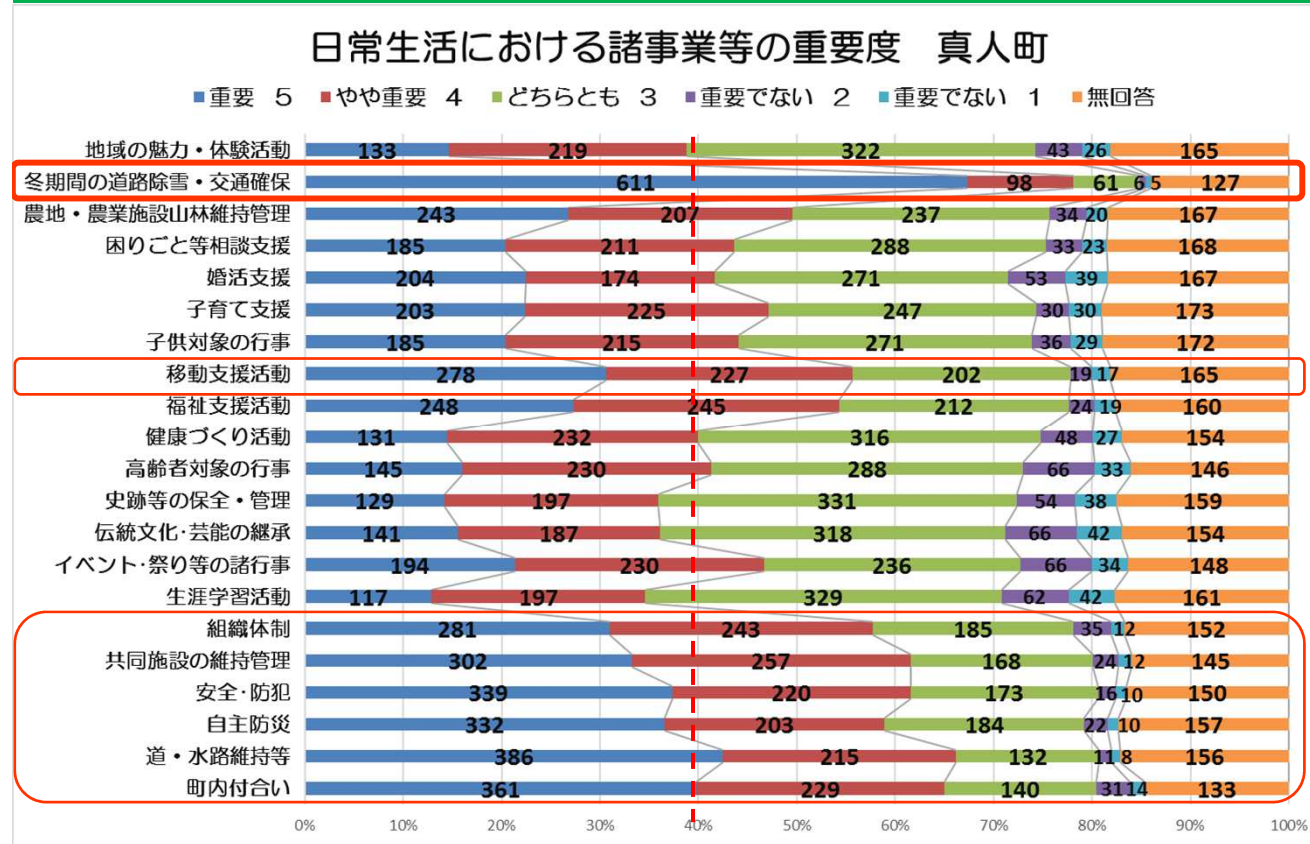
1-13 将来の農作業・管理は(10代~40代) 真人町

10年後の農作業や管理を自らしていると思いますか
年代×性別×農業 真人町



☆10年後の農作業についてイメージできない人が多い中で、回答のあった10代と30代の男性では、大半の方が農業から離れる傾向が見られます。自らが農業に携わる(同程度)意向の方も少ないですが、拡大希望者(4名)や新規就農者(1名)が委託希望者の要望にこたえられる受託の状況には無いことがわかります。今後の地域農業への取り組みも検討を進める必要があり、地域の農業委員もこれらの検討を進めています。

2-14 町内・地域の諸行事についての重要度 真人町



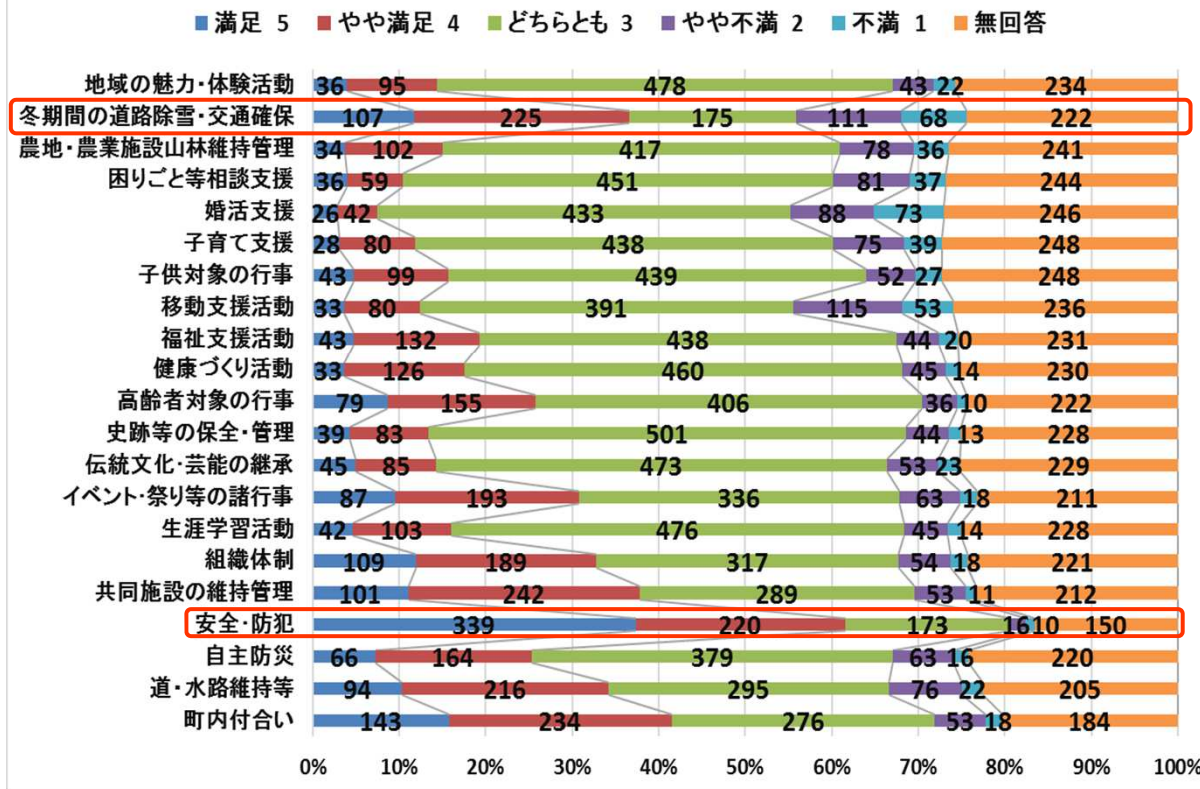
☆重要度の単純集計結果から

◎それぞれの項目の重要度を点数化して見てみると

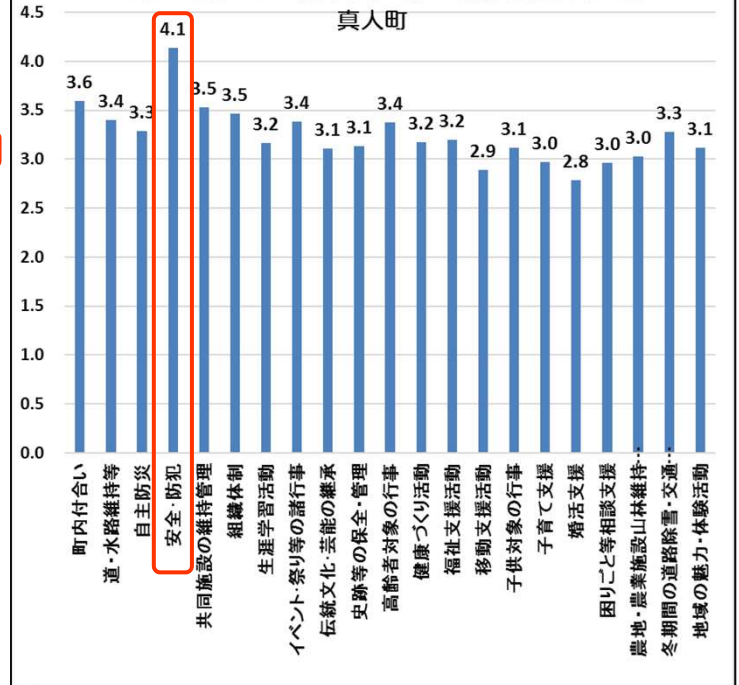
- ・ダントツに重要と答えられた項目は「冬期間の道路除雪・交通確保」でした。

2-14 町内・地域の諸行事についての満足度 真人町

日常生活での諸行事の満足度 真人町



日常生活での諸行事等の満足度(平均) 真人町



☆満足度の単純集計結果から

◎それぞれの項目の重要度を点数化して見てみると

- ・ダントツに満足と答えられた項目は「安全・防犯」でした。
- ・重要度のトップであった「冬期間の道路除雪・交通確保」の満足度の評価は分かれませんでした。

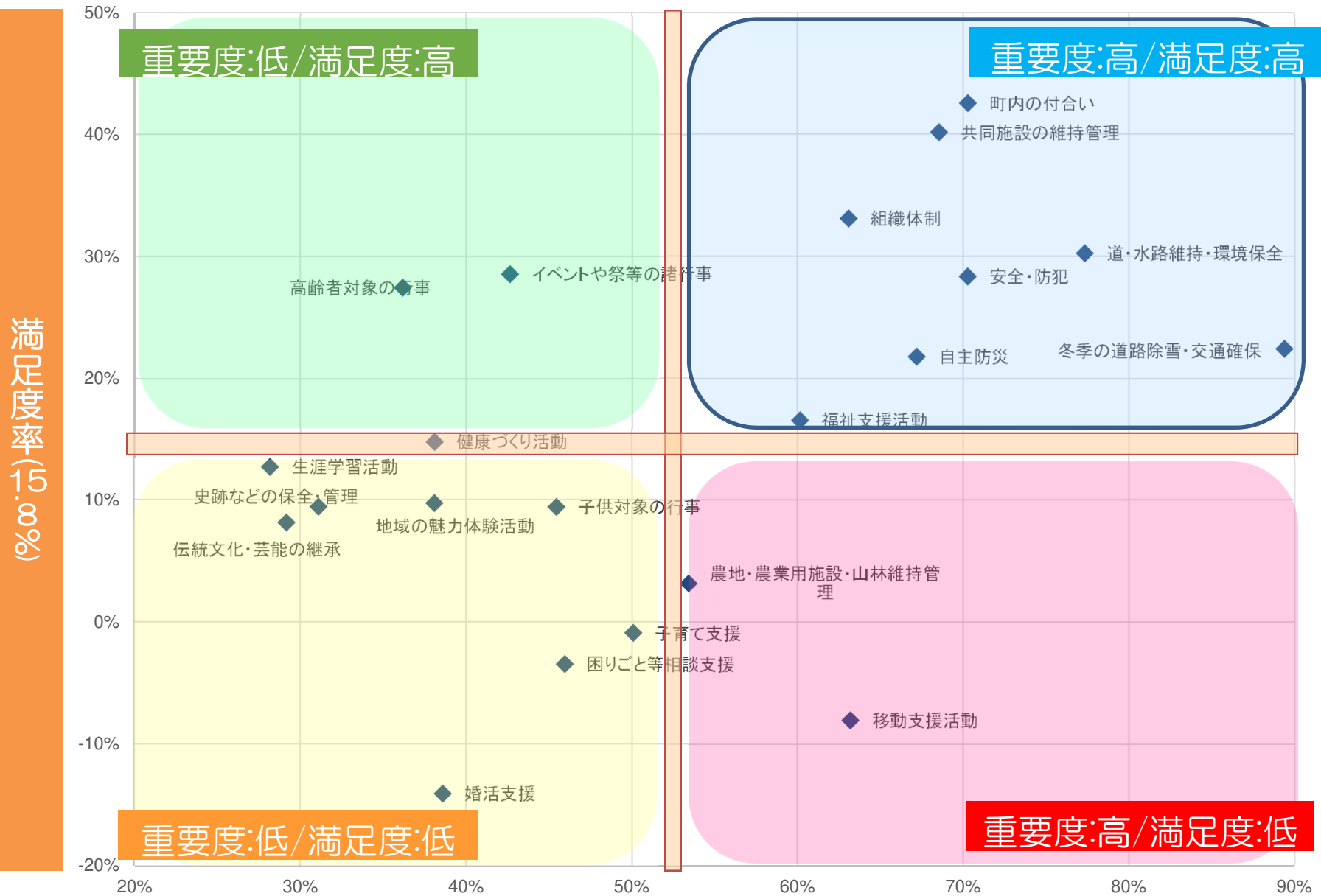
重要度と満足度の単純集計から見えないところを

次からのクロス集計で見てみましょう



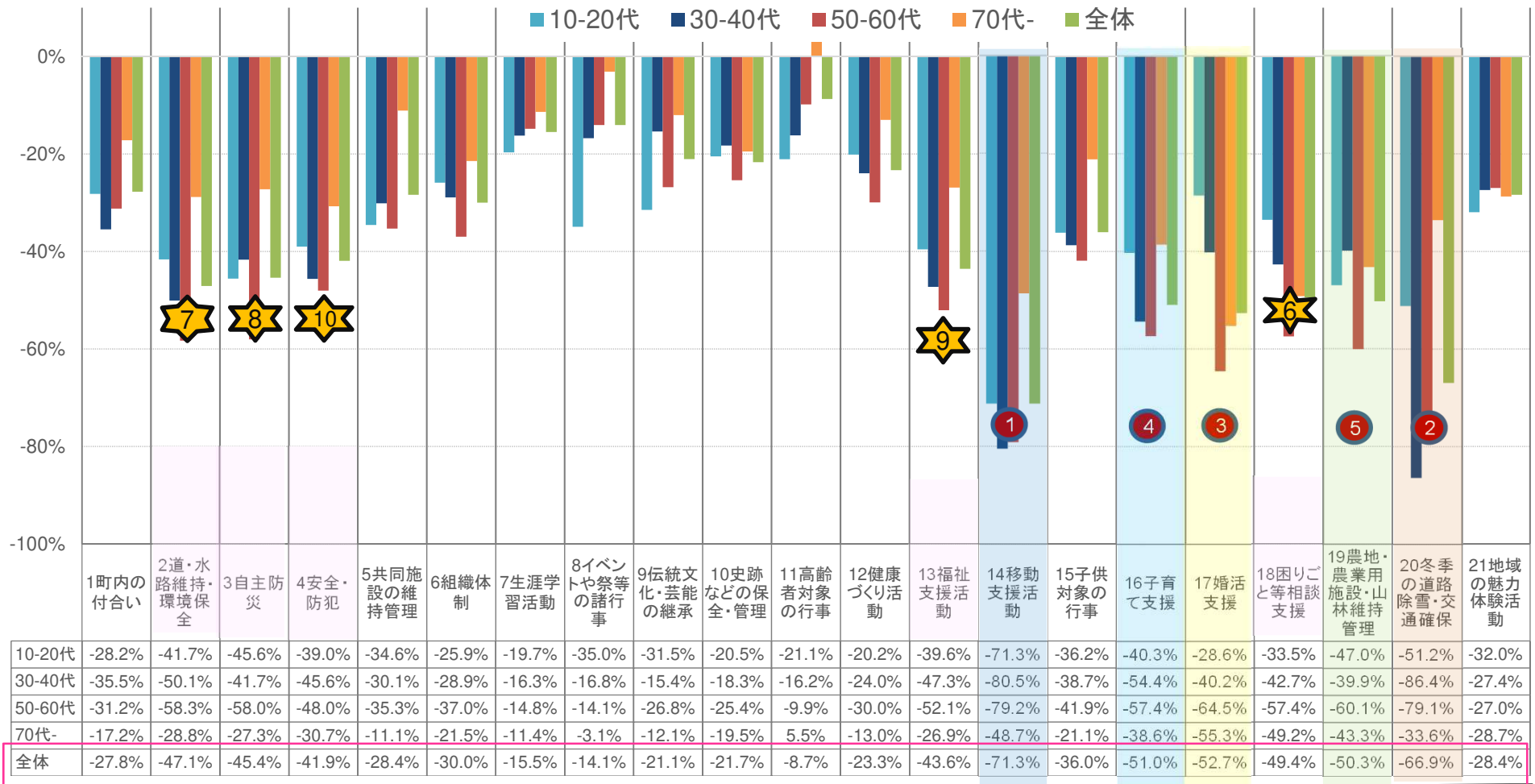
取り組みの満足度と重要度

真人町



重要度率 (平均値52.7%)

取り組みの満足度と重要度の評価(年代別)



※グラフが下に伸びているほど、満足度と重要度のギャップがある(=現状では満足しておらず、これからは重要だと思う)項目 ⇒ これからは、こうしたテーマへの取り組みが必要

①移動支援活動

若年>壮年

②冬の道路除雪・交通確保

若年>壮年

③婚活支援

若年<壮年

④子育て支援

⑤農地・農業用施設・山林維持活動

取り組みの満足度と重要度の評価(年代別)

真人町

これからの地域づくりで大切だと思っているテーマ・年代別ランキング(上位)

	全体		10-20代		30-40代		50-60代		70代-	
1	14移動支援活動	-71.3%	14移動支援活動	-71.3%	20冬季の道路除雪・交通確保	-86.4%	14移動支援活動	-79.2%	17婚活支援	-55.3%
2	20冬季の道路除雪・交通確保	-66.9%	20冬季の道路除雪・交通確保	-51.2%	14移動支援活動	-80.5%	20冬季の道路除雪・交通確保	-79.1%	18困りごと等相談支援	-49.2%
3	17婚活支援	-52.7%	19農地・農業用施設・山林維持管理	-47.0%	16子育て支援	-54.4%	17婚活支援	-64.5%	14移動支援活動	-48.7%
4	16子育て支援	-51.0%	3自主防災	-45.6%	2道・水路維持・環境保全	-50.1%	19農地・農業用施設・山林維持管理	-60.1%	19農地・農業用施設・山林維持管理	-43.3%
5	19農地・農業用施設・山林維持管理	-50.3%	2道・水路維持・環境保全	-41.7%	13福祉支援活動	-47.3%	2道・水路維持・環境保全	-58.3%	16子育て支援	-38.6%
6	18困りごと等相談支援	-49.4%	16子育て支援	-40.3%	4安全・防犯	-45.6%	3自主防災	-58.0%	20冬季の道路除雪・交通確保	-33.6%
7	2道・水路維持・環境保全	-47.1%	13福祉支援活動	-39.6%	18困りごと等相談支援	-42.7%	18困りごと等相談支援	-57.4%	4安全・防犯	-30.7%
8	3自主防災	-45.4%	4安全・防犯	-39.0%	3自主防災	-41.7%	16子育て支援	-57.4%	2道・水路維持・環境保全	-28.8%
9	13福祉支援活動	-43.6%	15子供対象の行事	-36.2%	17婚活支援	-40.2%	13福祉支援活動	-52.1%	21地域の魅力体験活動	-28.7%
10	4安全・防犯	-41.9%	8イベントや祭等の諸行事	-35.0%	19農地・農業用施設・山林維持管理	-39.9%	4安全・防犯	-48.0%	3自主防災	-27.3%
11	15子供対象の行事	-36.0%	5共同施設の維持管理	-34.6%	15子供対象の行事	-38.7%	15子供対象の行事	-41.9%	13福祉支援活動	-26.9%
12	6組織体制	-30.0%	18困りごと等相談支援	-33.5%	1町内の付き合い	-35.5%	6組織体制	-37.0%	6組織体制	-21.5%
13	5共同施設の維持管理	-28.4%	21地域の魅力体験活動	-32.0%	5共同施設の維持管理	-30.1%	5共同施設の維持管理	-35.3%	15子供対象の行事	-21.1%
14	21地域の魅力体験活動	-28.4%	9伝統文化・芸能の継承	-31.5%	6組織体制	-28.9%	1町内の付き合い	-31.2%	10史跡などの保全・管理	-19.5%
15	1町内の付き合い	-27.8%	17婚活支援	-28.6%	21地域の魅力体験活動	-27.4%	12健康づくり活動	-30.0%	1町内の付き合い	-17.2%

上位については世代間の差は少ない

取り組みの満足度と重要度の評価(年代別)

真人町

これからの地域づくりで大切だと思っているテーマ・年代別ランキング(下位)

	全体		10-20代		30-40代		50-60代		70代-	
11	15子供対象の行事	-36.0%	5共同施設の維持管理	-34.6%	15子供対象の行事	-38.7%	15子供対象の行事	-41.9%	13福祉支援活動	-26.9%
12	6組織体制	-30.0%	18困りごと等相談支援	-33.5%	1町内の付き合い	-35.5%	6組織体制	-37.0%	6組織体制	-21.5%
13	5共同施設の維持管理	-28.4%	21地域の魅力体験活動	-32.0%	5共同施設の維持管理	-30.1%	5共同施設の維持管理	-35.3%	15子供対象の行事	-21.1%
14	21地域の魅力体験活動	-28.4%	9伝統文化・芸能の継承	-31.5%	6組織体制	-28.9%	1町内の付き合い	-31.2%	10史跡などの保全・管理	-19.5%
15	1町内の付き合い	-27.8%	17婚活支援	-28.6%	21地域の魅力体験活動	-27.4%	12健康づくり活動	-30.0%	1町内の付き合い	-17.2%
16	12健康づくり活動	-23.3%	1町内の付き合い	-28.2%	12健康づくり活動	-24.0%	21地域の魅力体験活動	-27.0%	12健康づくり活動	-13.0%
17	10史跡などの保全・管理	-21.7%	6組織体制	-25.9%	10史跡などの保全・管理	-18.3%	9伝統文化・芸能の継承	-26.8%	9伝統文化・芸能の継承	-12.1%
18	9伝統文化・芸能の継承	-21.1%	11高齢者対象の行事	-21.1%	8イベントや祭等の諸行事	-16.8%	10史跡などの保全・管理	-25.4%	7生涯学習活動	-11.4%
19	7生涯学習活動	-15.5%	10史跡などの保全・管理	-20.5%	7生涯学習活動	-16.3%	7生涯学習活動	-14.8%	5共同施設の維持管理	-11.1%
20	8イベントや祭等の諸行事	-14.1%	12健康づくり活動	-20.2%	11高齢者対象の行事	-16.2%	8イベントや祭等の諸行事	-14.1%	8イベントや祭等の諸行事	-3.1%
21	11高齢者対象の行事	-8.7%	7生涯学習活動	-19.7%	9伝統文化・芸能の継承	-15.4%	11高齢者対象の行事	-9.9%	11高齢者対象の行事	5.5%

08 イベントや祭り等の諸行事
11 敬老会など、高齢者対象の行事



満足度 (現状で満足している)は高めだが
重要度 (将来的にはこれが重要)はあまり高くない。

行事・イベント ≪ 地域課題の解決 という意識の表れ?

※ 「08イベントや祭り等の諸行事」は全体の評価は下位となっているが、10・20代だけは10位であったことが南部万灯の創設始動の原動力となったのか…

取り組みの満足度と重要度の評価(まとめ)

真人町

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ

① 買物・通院・通学・習い事など、移動支援活動

10～60代と幅広い年代で強く必要性を考えている

⇒ 送迎される側よりも、送迎する側の負担もあり、切実なこととなって求められているか？

② 冬季の道路除雪・交通確保、雪対策

30～60代が特に強く必要性を考えている豪雪地帯故の切実な問題

⇒ 重要とほとんどの人が回答していますが、満足度では二極化している。早朝や夜の通勤者と自宅で過ごす人では感じ方が違いますね。(次ページ参照)

③ 婚活イベントや紹介などの対策、婚活支援 少子化が顕著に物語る重要な課題

該当する世代よりも、50～60代が特に必要性を考えており、70代以上も高い数値を示している。

⇒ 少子化が顕著に物語る重要な課題となっており、後継者、担い手の心配ともなる。

④ 子育てなどの相談ができる場や人、子育て支援

全世代共通で必要性を考えている。

⇒ 市街地から離れていることから子育て施設やサービスに縁遠いか？

⑤ 農地・農業用施設・山林など、維持管理活動

50・60世代で特に必要性を考えているが、そのほかの年代も幅広く必要と考えている。

⇒ 少子高齢化(多老化)や地域からの転出など、今後の後継者や担い手は不足？

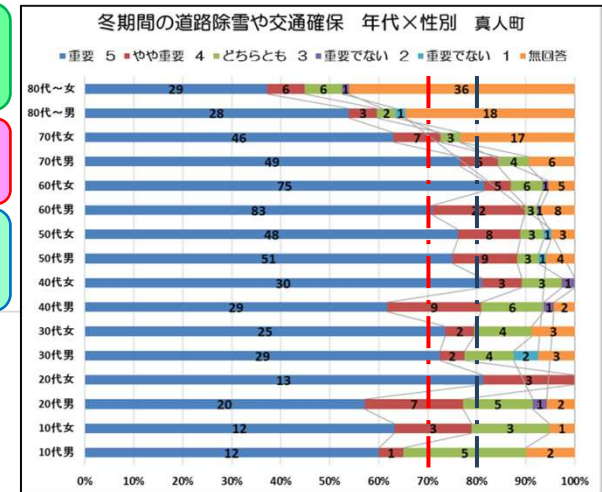
2-14 冬期間の道路除雪・交通確保について 年代×性別×満足度

真人町

・70代以上は車の運転をしなかったり、豪雪の時には外出を控えるのか、不満の割合は少ない。・10代では免許の保有率が低く、自分で運転しないことから不満が少ない。

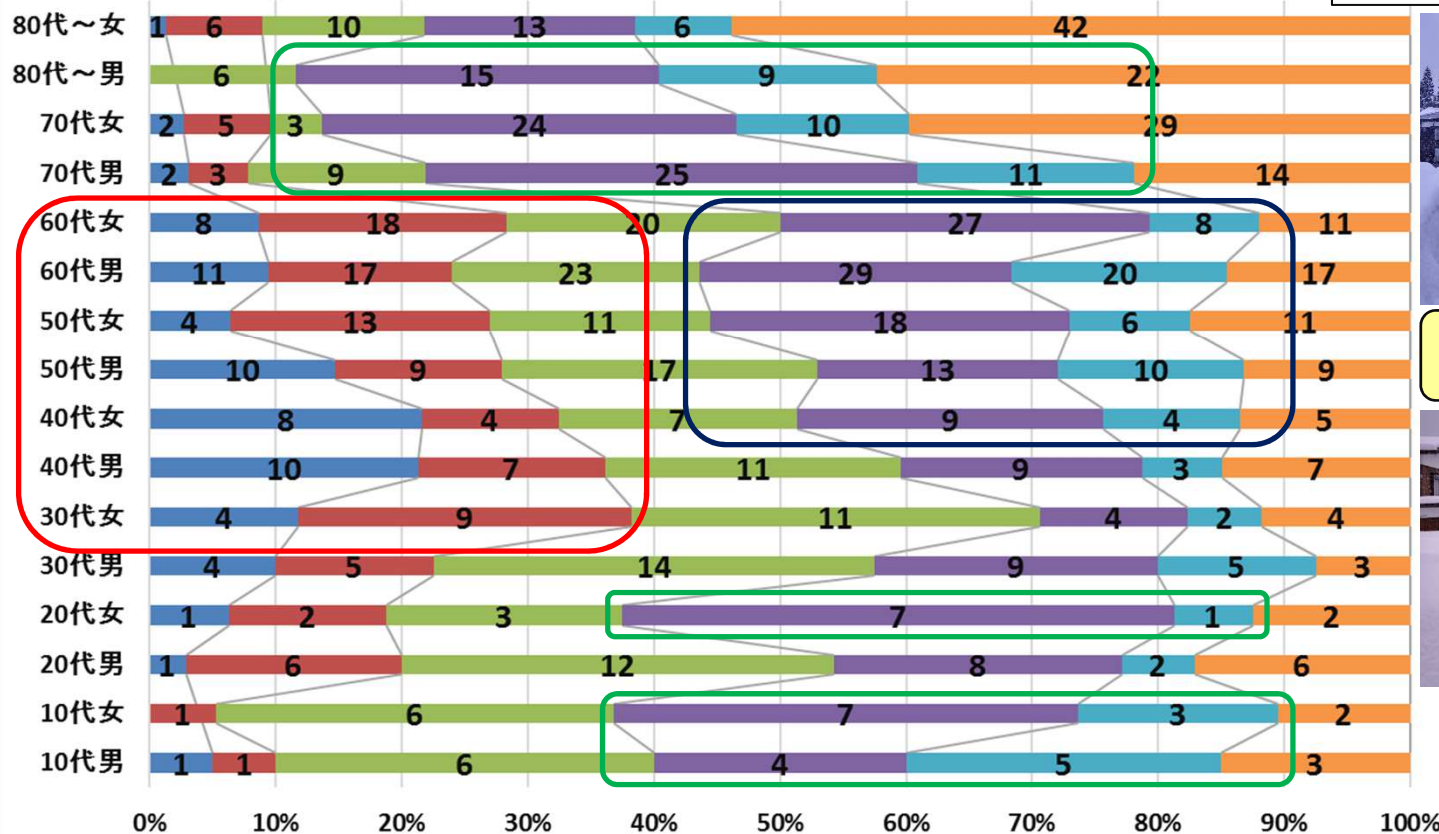
・不満に思っている年代では、通勤等にかかる除雪の状況により不満を抱いていると思われる、早朝や、夕方・夜の道路状況と通勤時間のタイミングもあるのかと推察します。

・不満の多い年代でもそれを上回って満足している割合も多く、回答者の状況によって意見が二分されています。



冬期間の道路除雪や交通確保 年代×性別 真人町

■ 不満 1 ■ やや不満 2 ■ どちらとも 3 ■ やや満足 4 ■ 満足 5 ■ 無回答

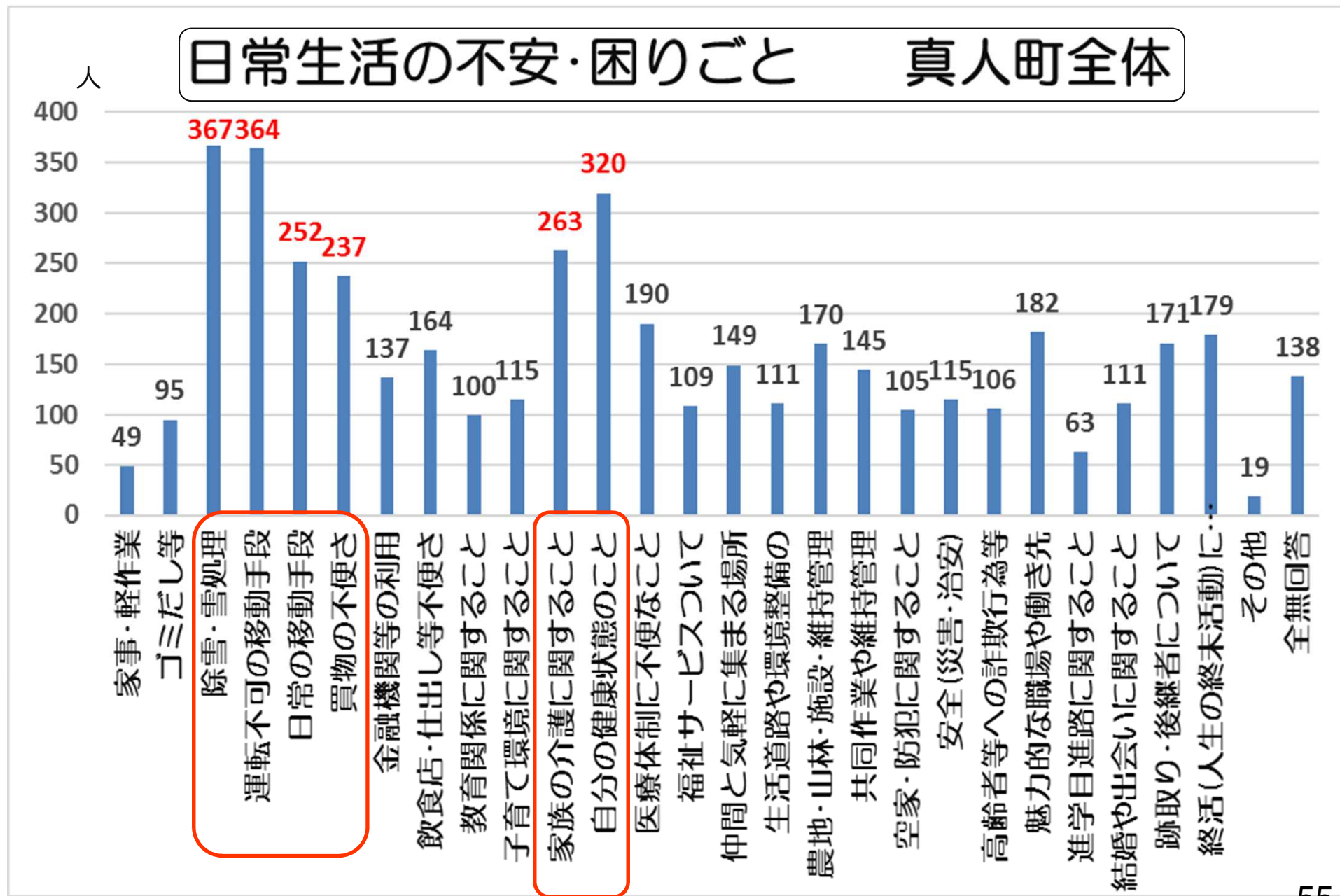


・栗山町内の市道除雪を行い交通確保をする委託業者



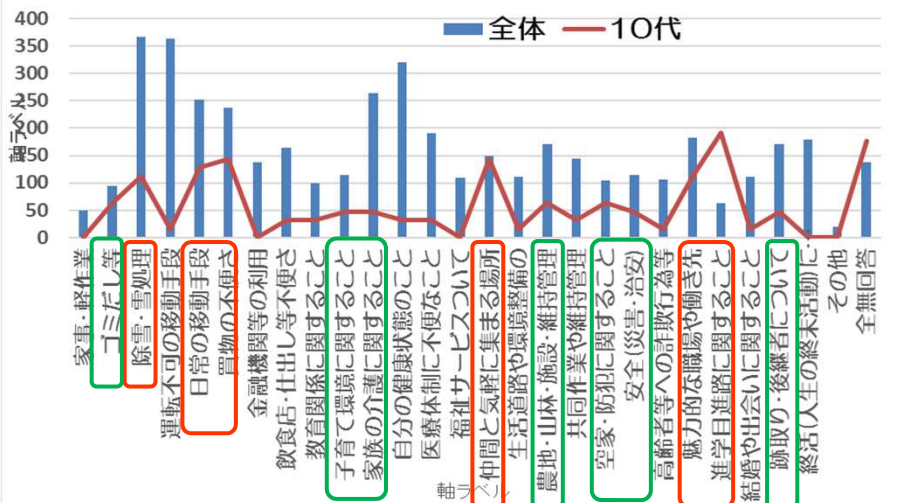
・冬季保安要員として北山集落内の除雪と安心を賄う樋口さん 54

2-15 日常生活の不安に感じていること・困っていること(複数回答)

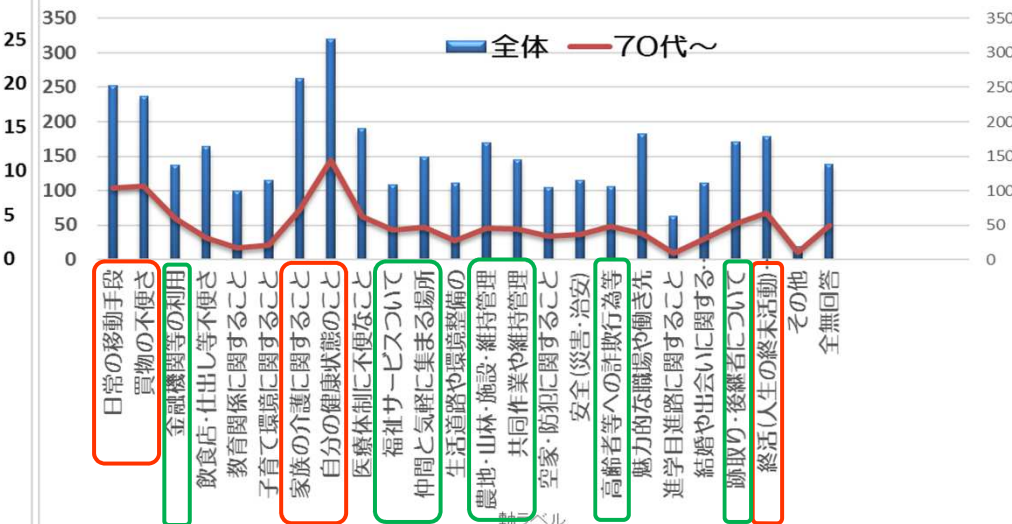


2-15 日常生活において不安に感じていること。困っていること 年代別

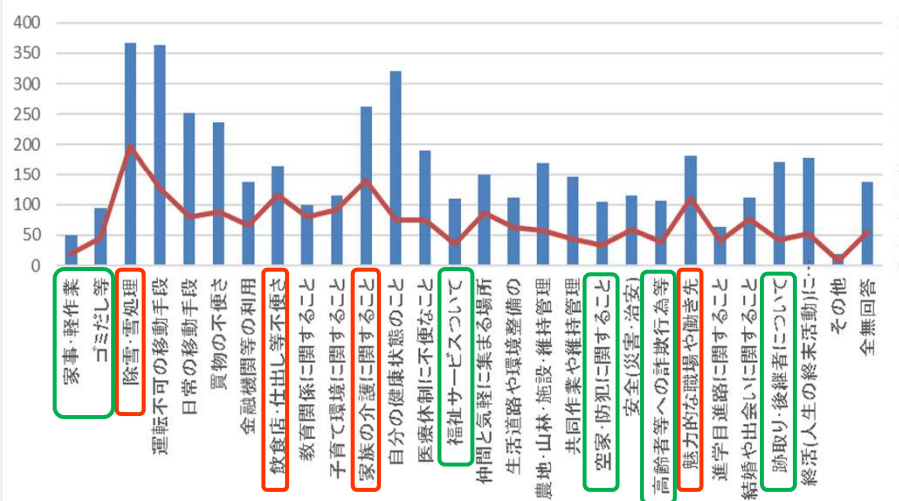
日常生活の不安・困りごと
全体×10代 真人町



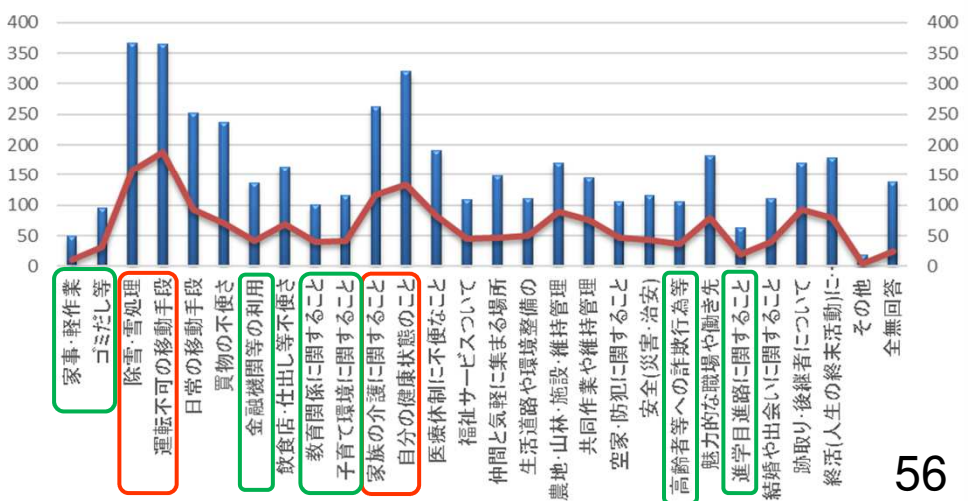
日常生活の不安・困りごと
全体×70代~ 真人町



日常生活の不安・困りごと
全体×20~40代 真人町



日常生活の不安・困りごと
全体×50~60代 真人町



暮らしの中の困りごと(複数回答)

10代

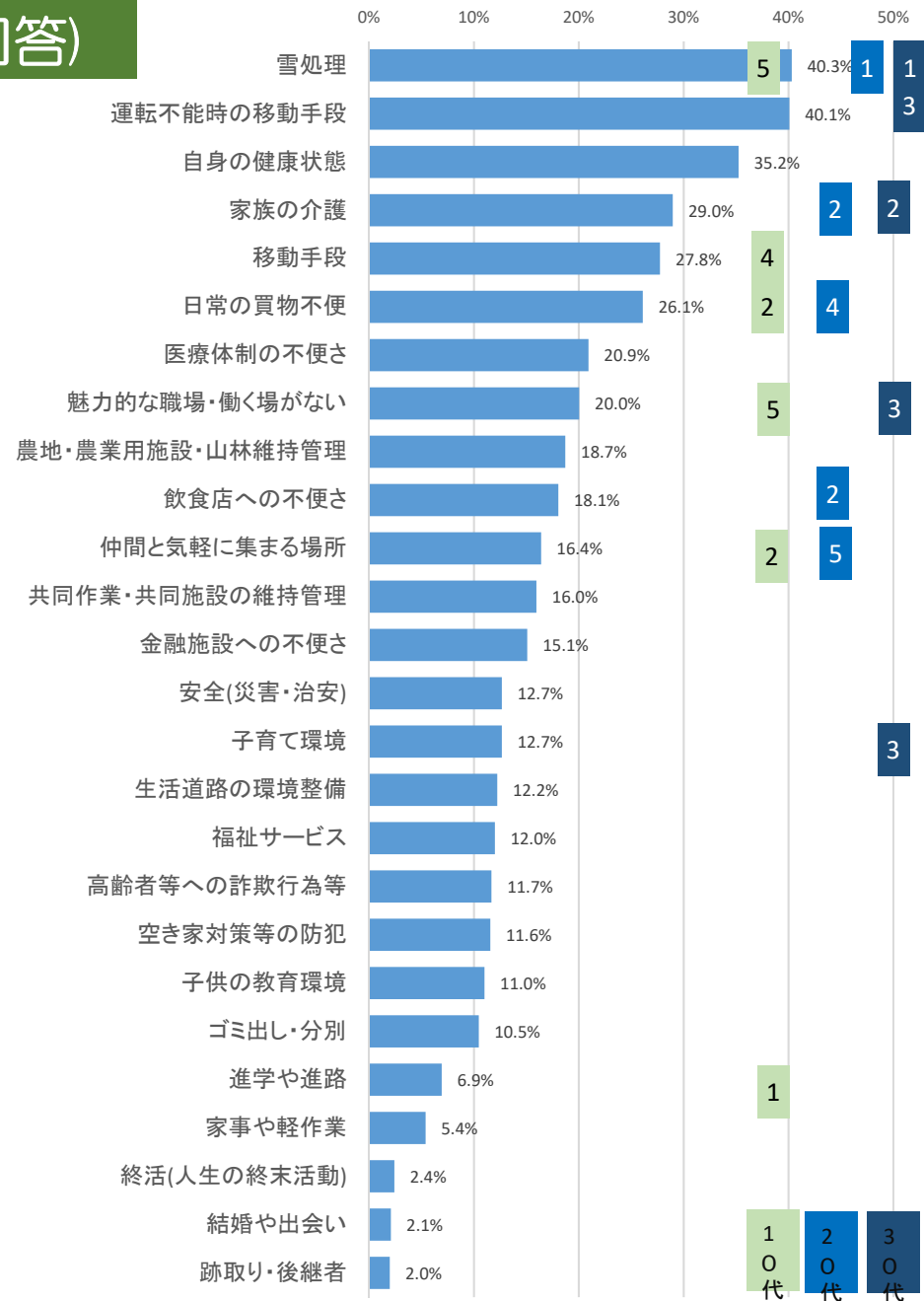
10代	
123進学や進路	30.8%
26日常の買物不便	23.1%
15仲間と気軽に集まる場所	23.1%
45移動手段	20.5%
53雪処理	17.9%
22魅力的な職場・働く場がない	17.9%

20代

20代	
13雪処理	52.9%
28飲食店への不便さ	31.4%
11家族の介護	31.4%
46日常の買物不便	27.5%
515仲間と気軽に集まる場所	25.5%

30代

30代	
13雪処理	49.3%
211家族の介護	32.0%
34運転不能時の移動手段	26.7%
10子育て環境	26.7%
22魅力的な職場・働く場がない	26.7%



地区全体(複数回答)

暮らしの中の困りごと(複数回答)

40代

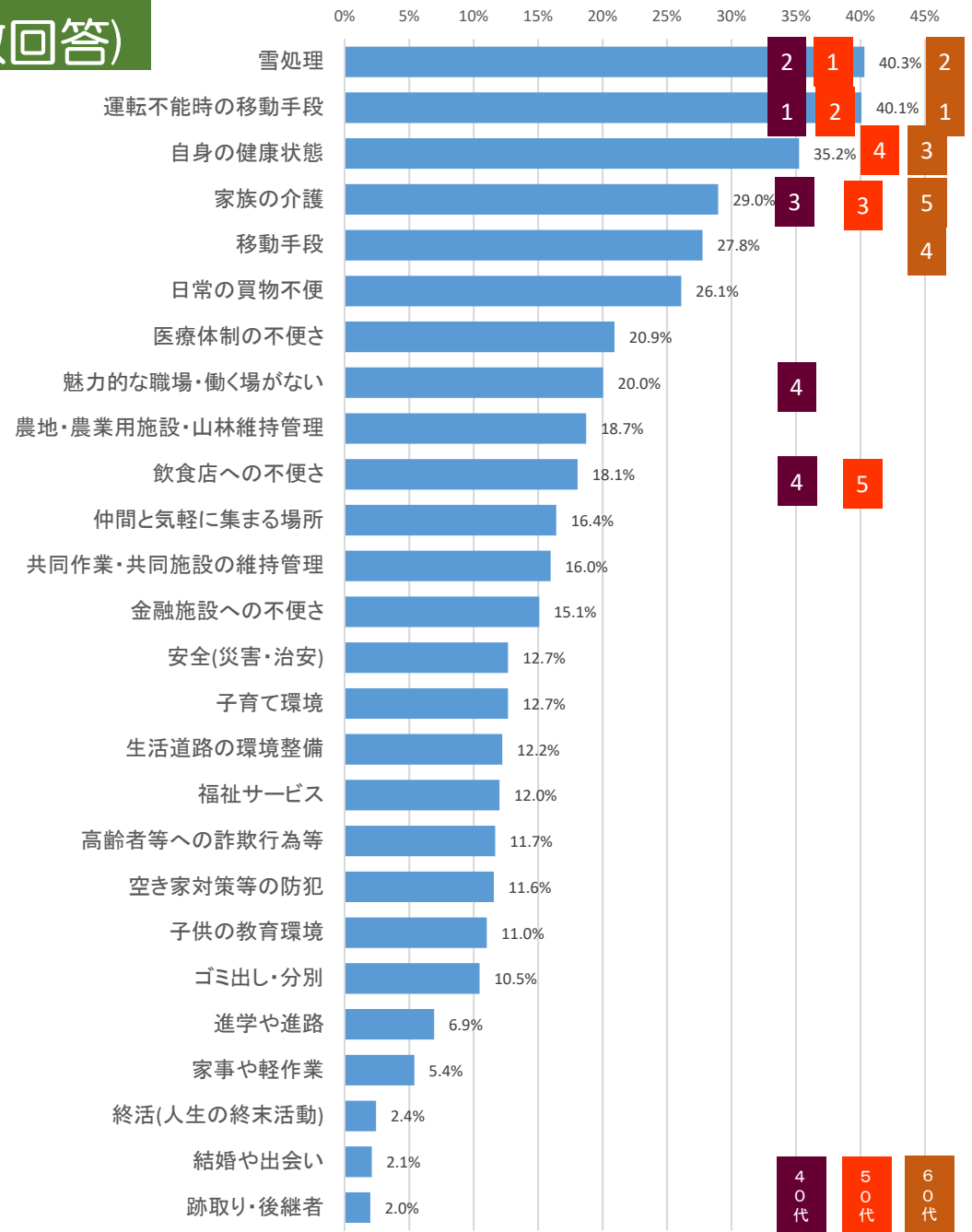
40代	
14	43.0%
23	40.7%
311	34.9%
48	29.1%
22	29.1%

50代

50代	
13	54.2%
24	47.3%
311	43.5%
412	35.1%
58	25.2%

60代

60代	
14	60.2%
23	41.2%
312	41.2%
45	28.9%
511	28.0%



地区全体(複数回答)

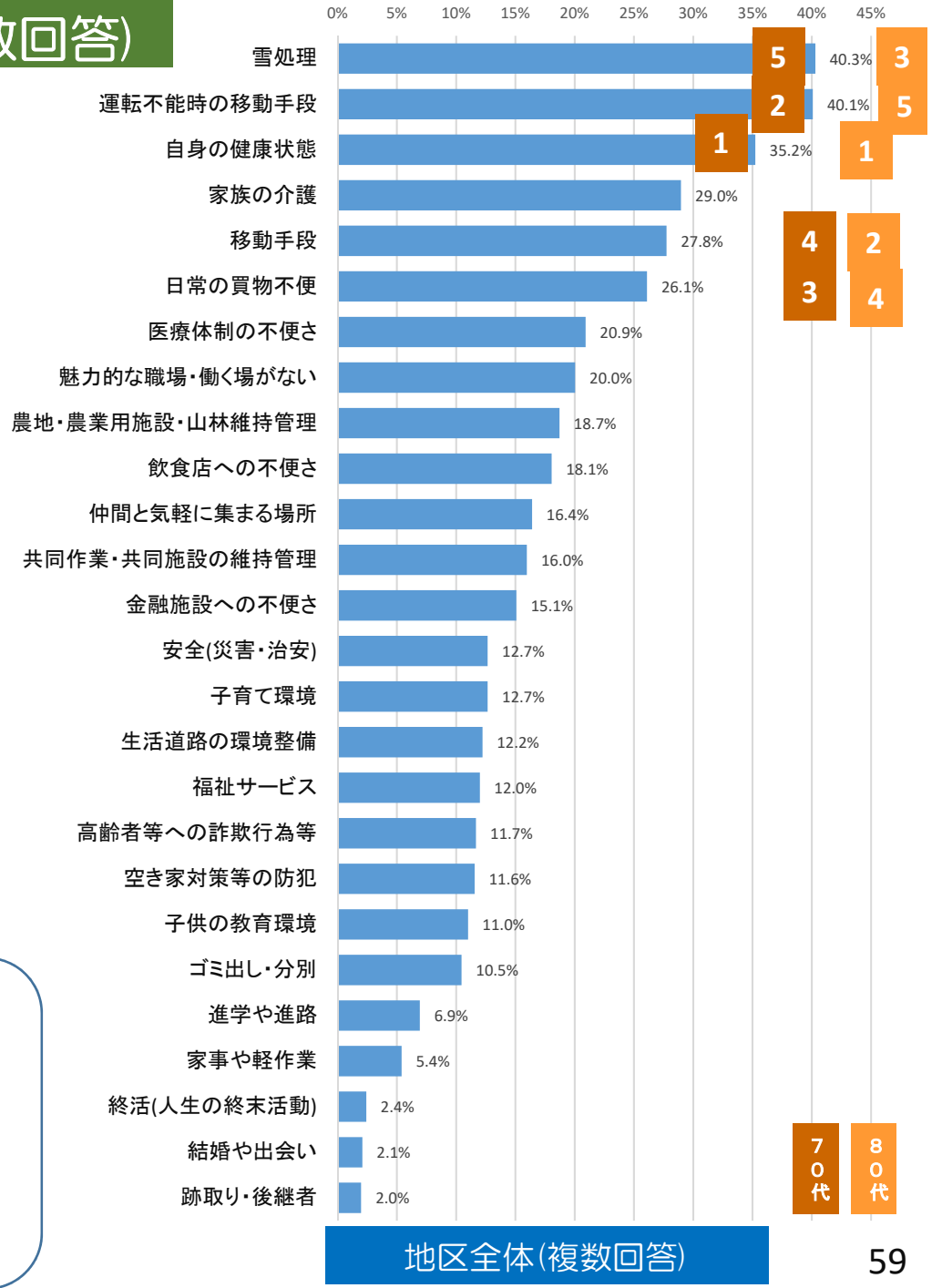
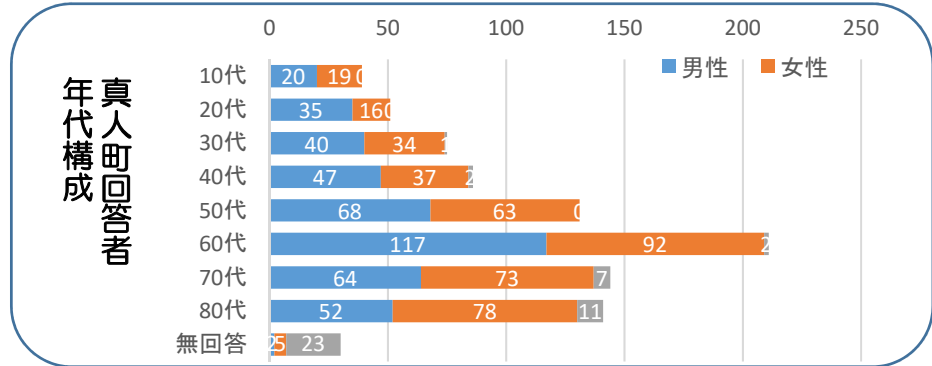
暮らしの中の困りごと(複数回答)

70代

70代	
112自身の健康状態	50.7%
24運転不能時の移動手段	47.9%
36日常の買物不便	42.4%
45移動手段	38.2%
53雪処理	33.3%

80代

80代	
112自身の健康状態	50.4%
25移動手段	34.8%
33雪処理	33.3%
46日常の買物不便	31.9%
54運転不能時の移動手段	26.2%



70代 80代

暮らしの中の困りごと(まとめ)

真人町

第1位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなどの冬季の雪処理 40.4%

すべての世代で上位にランクイン(20・30代、50代でトップ)
⇒担い手不足への懸念、70代以上は作業自体への不安?

第2位 今後、自分が運転できなくなった場合の移動手段 40.1%

30～80代まで上位にランクイン(40代、60代でトップ)
⇒通勤や買い物、通院もほとんど市街地へ 公共交通機関も不便で6割の人が車を運転

第3位 自身の健康状態のこと 35.2%

50代以上から上位にランクイン(70～80代でトップ)
⇒自分の健康について不安視している人が多い。高齢者の健康づくり、予防が課題?!

第4位 家族の介護に関わること 29.0%

20代～60代まで上位にランクイン(20～30代で第2位、40～50代で第3位)
⇒高齢者の健康づくり、予防が課題?!

第5位 買い物、通院、通学、通勤などの移動手段 27.8%

10代と60～80代まで上位にランクイン(80代は第2位)
⇒市街地への足が必要だけど公共交通も不便で家族に頼る。新たな交通手段の仕組みも必要か?!

※買い物の不便さには10・20・70・80代が上位にランクインし、30代で6位、60代で7位でした。

暮らしの中の困りごと(まとめ)

真人町

全体の順位は
高くはない
が、
若者
中堅世代
特有の困りご
と

第 8位 魅力的な職場・働く場がない 20.0%

10・30~40代で上位にランクインのほか20・50~60代でも高い

第10位 飲食店への不便さ(食堂・仕出し・宴会場・居酒屋等) 28.1%

20・40~50代で上位にランクインのほか30代でも7位

第11位 仲間と気軽に集まる場所がない 16.4%

10~20代で上位にランクイン 若年層特有の困りごと

第15位 子育て環境に関わること 12.7%

第20位 子供の教育環境に関わること 11.0%

子育て世代での悩み事 ⇒ 教育・子育て環境への不安?

全体の順位は
高くはないが、
中堅
高齢世代
特有の困りご
と

第 7位 医療体制の不便さ 20.9%

40~80代で高い割合 ⇒ 医療機関利用の不便さや医師の減少への不安?

第 9位 農地・農業用施設・山林維持管理 18.7%

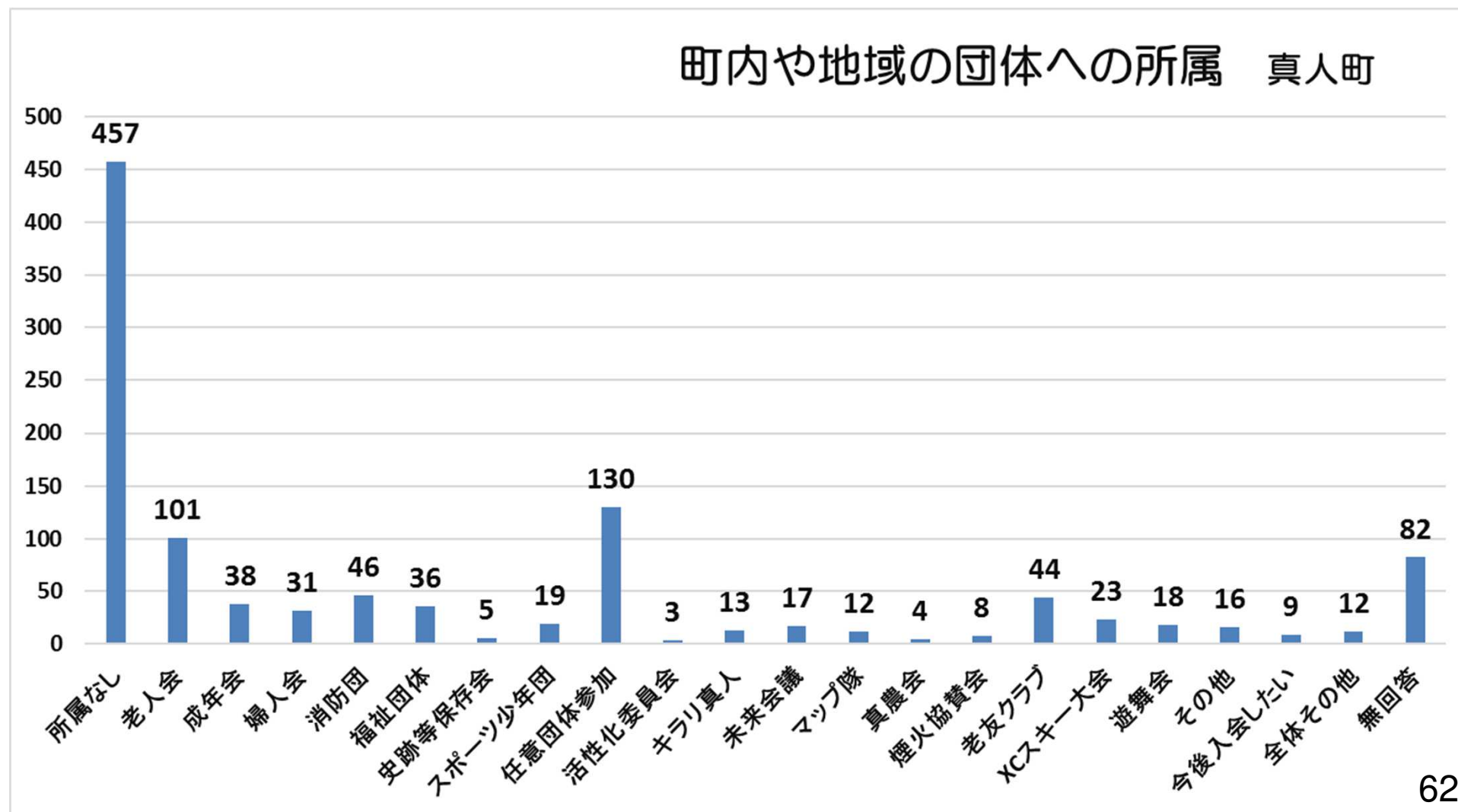
第12位 共同作業・共同施設の維持管理 16.0%

50~70代で高い割合 ⇒ 少子高齢化や後継者・担い手に対する不安と高
齢化による体力や負担増加に対する不安?

第13位 金融機関への不便さ 15.1%

70~80代で高い割合 ⇒ 農協出先機関の廃止によるATM化の影響か?

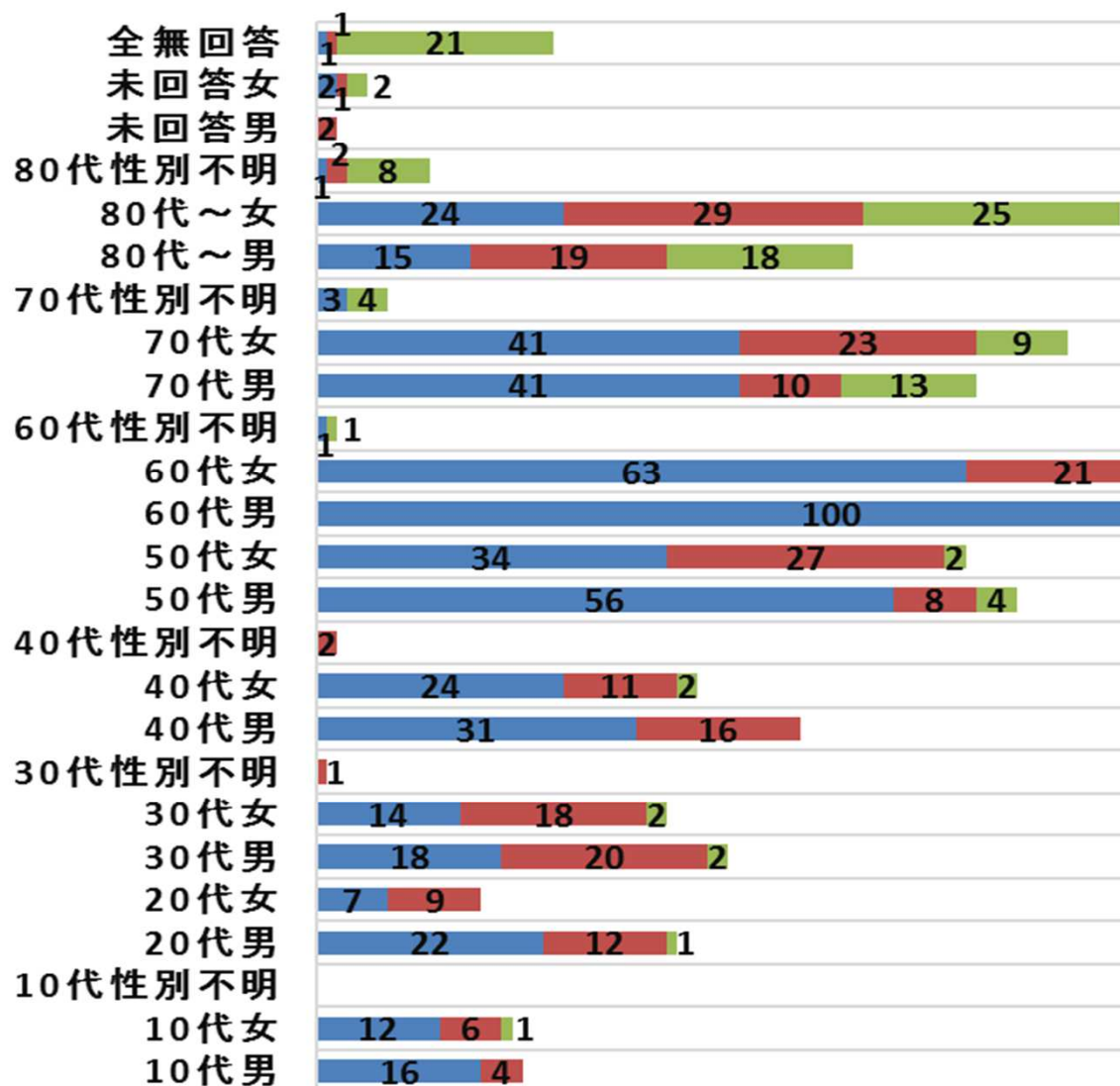
3-16 町内や地域の団体等に所属していますか 真人町



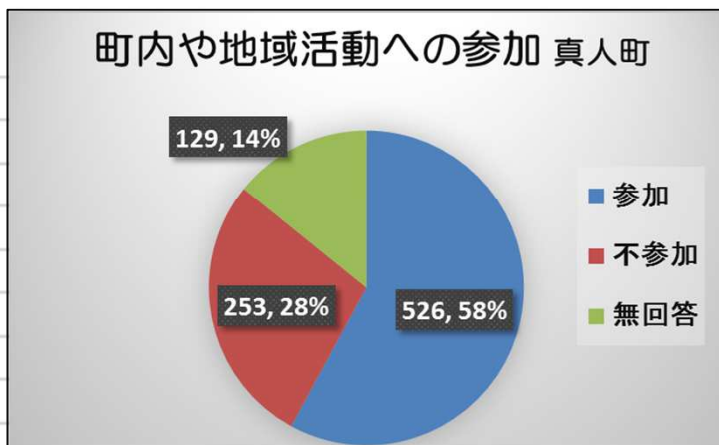
3-17 町内や地域の活動(共同作業・まつり等)について 真人町

町内や地域活動への参加 年代×性別×参加

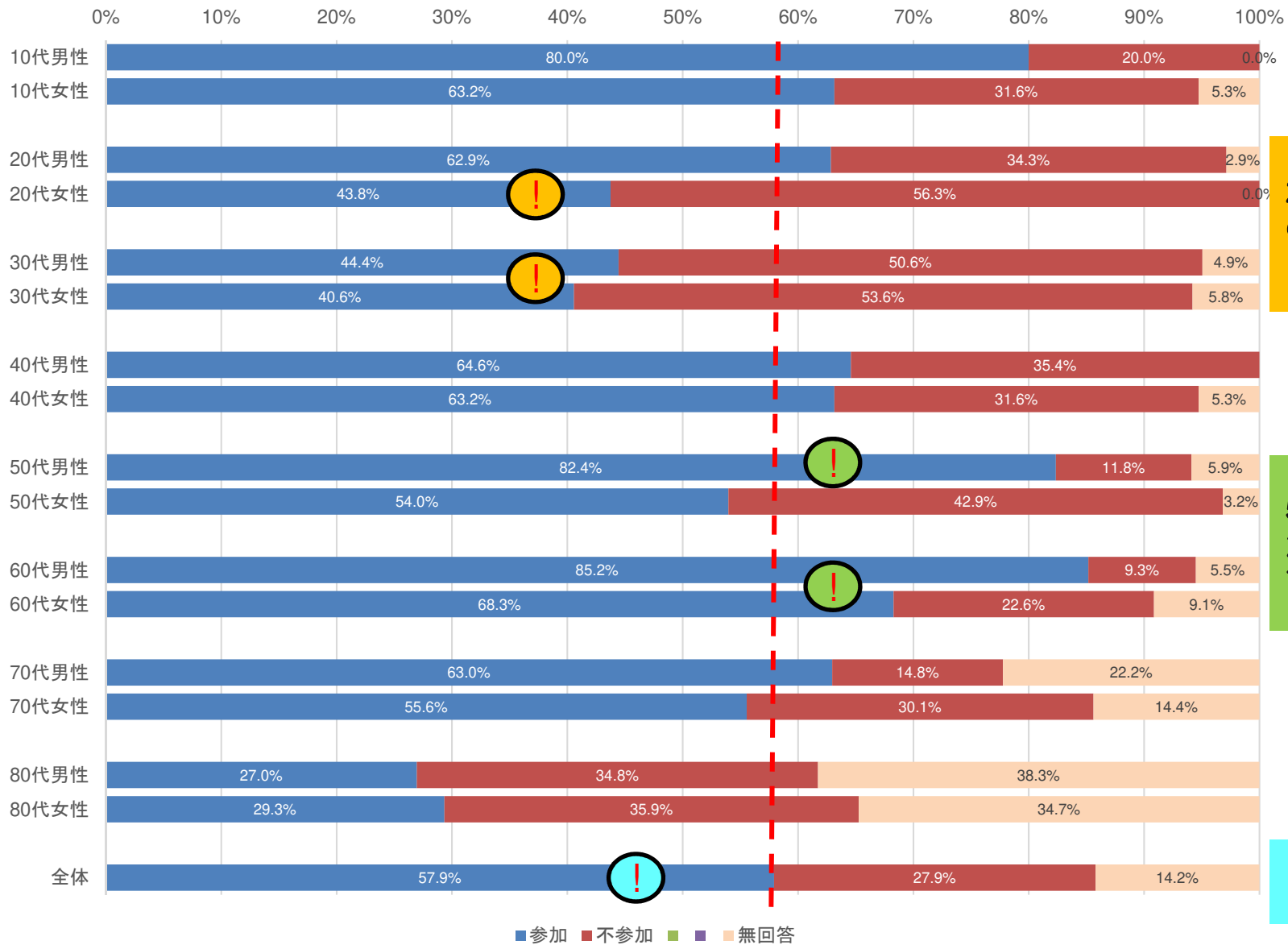
■ 参加 ■ 不参加 ■ 無回答



町内や地域活動への参加 真人町



3-17町内や地域活動への参加状況



20代女性と30代の参加の割合が低いのは忙しいのか

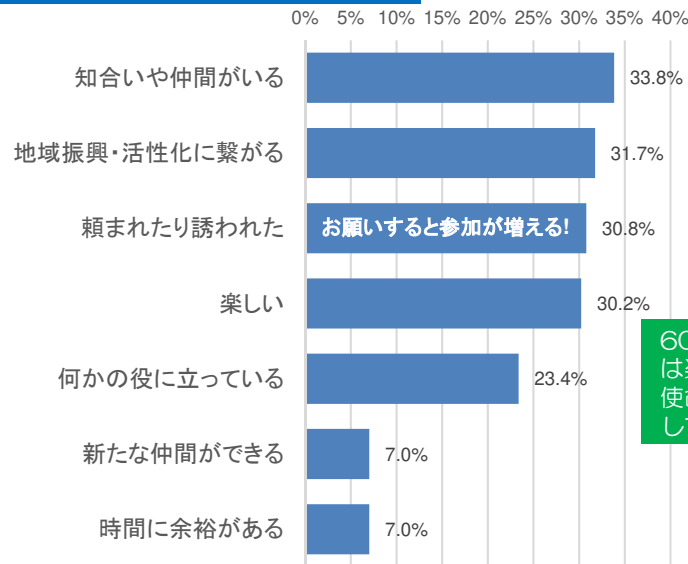
50代男性と60代が役員を中心として奮闘している

全体の約6割の人が参加している

参加・不参加の理由は次で見てみよう

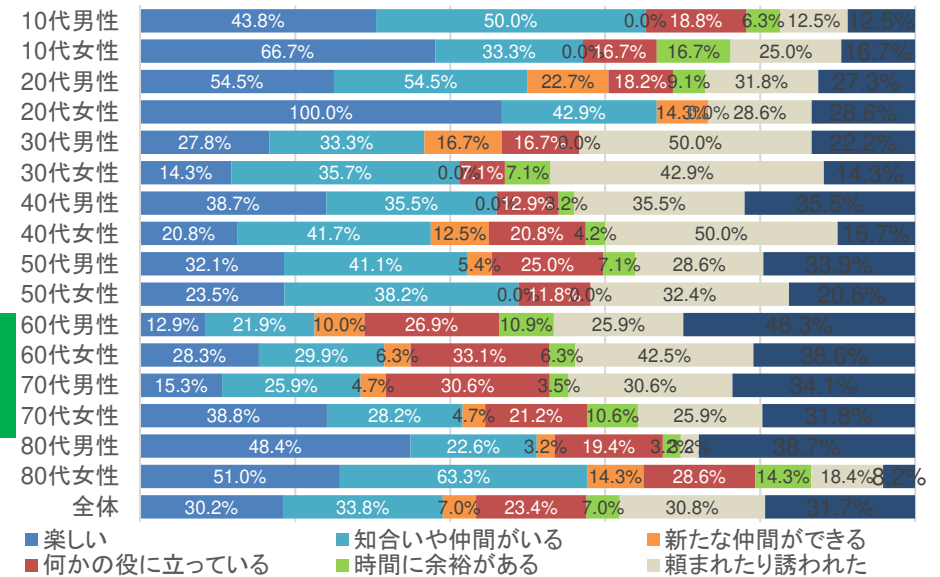
3-17町内や地域活動への参加状況(それぞれの理由)※複数回答

参加の理由 回答数526

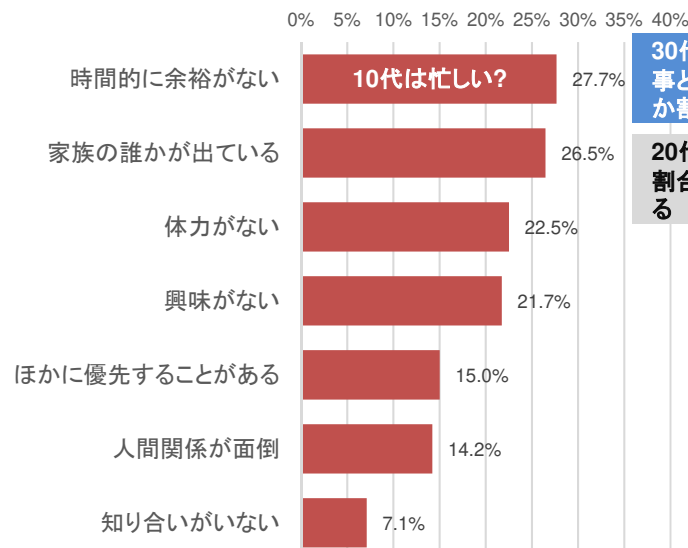


60代・70代では楽しむよりも使命感と役員としての参加か

0% 20% 40% 60% 80% 100%

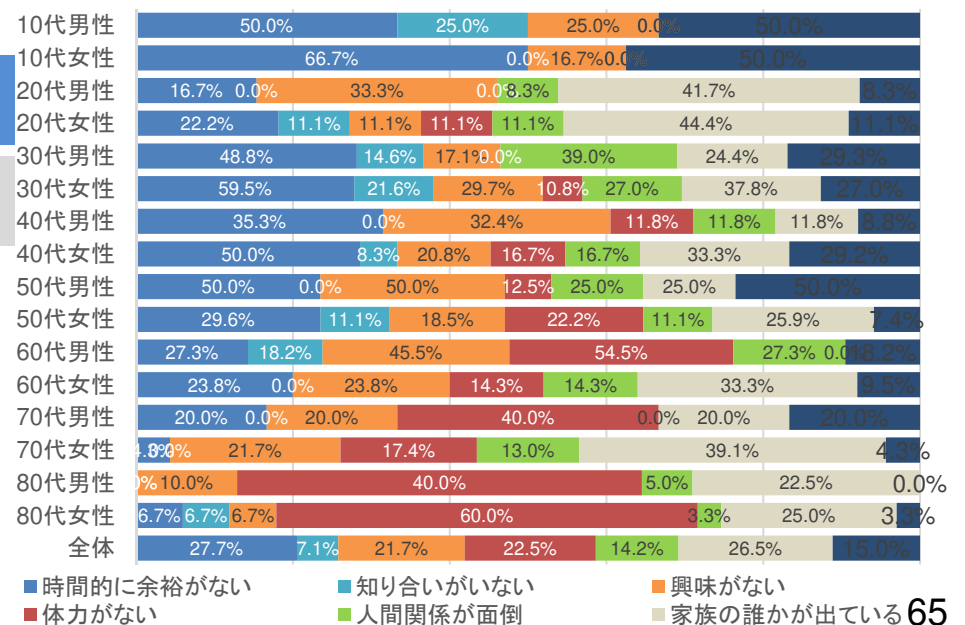


不参加の理由 回答数253



30代～50代も仕事との兼ね合いが割合は高い
20代から一定の割合を占めている

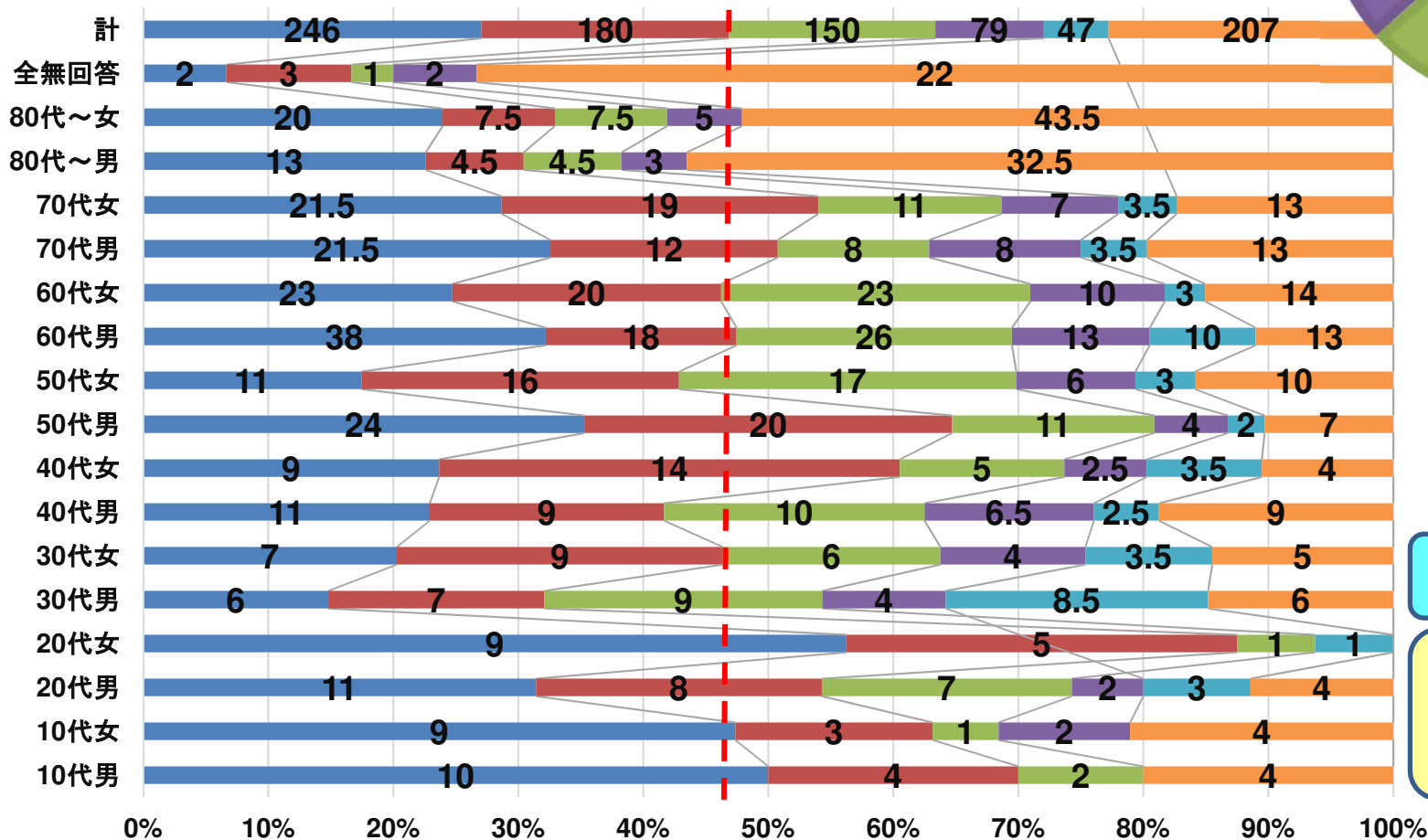
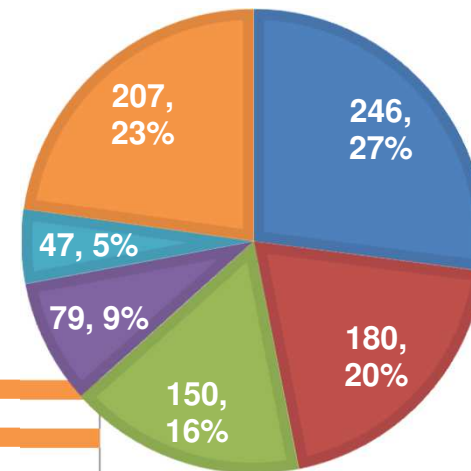
0% 20% 40% 60% 80% 100%



3-17 お祭りなどの行事は今後も続けていきたいですか 真人町

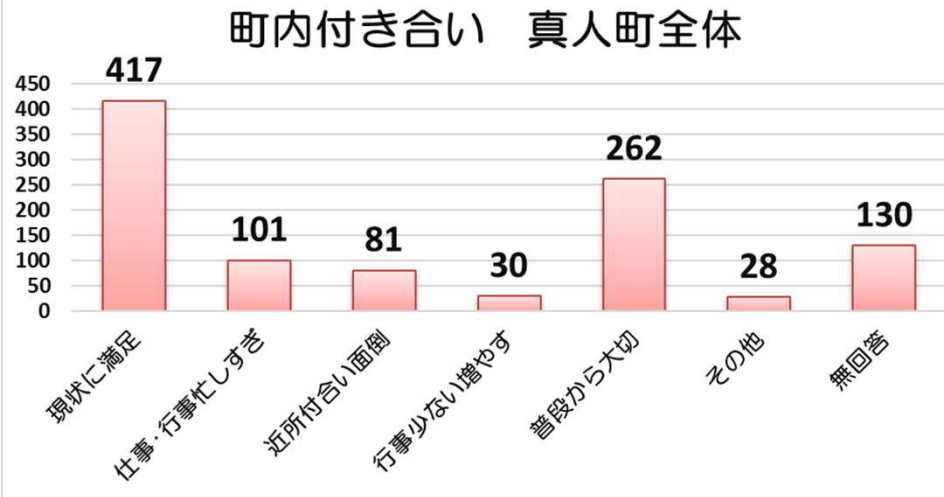
☆ 思う・まあ思う 47%
 ☆ 思わない・あまり思わない 14%
 ☆ どちらともいえない 16%
 ☆ 無回答 23%

■ 思う ■ まあ思う ■ どちらともいえない
 ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 無回答

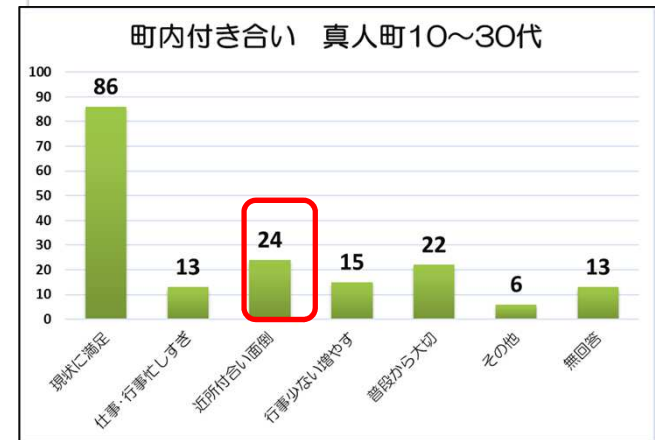
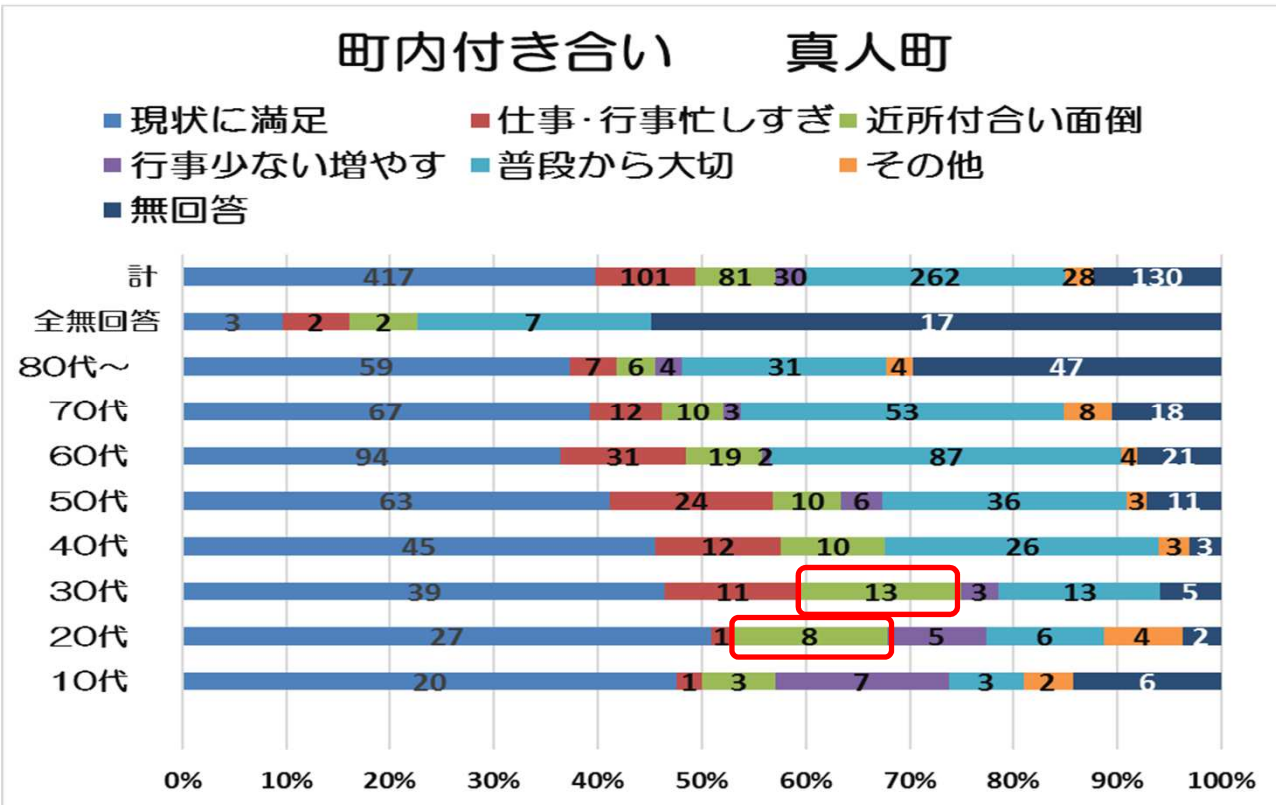


・ 30代男性は平均よりも特に低い
 ・ 10代、20代と40代女性と50代男性は平均よりも特に高い割合

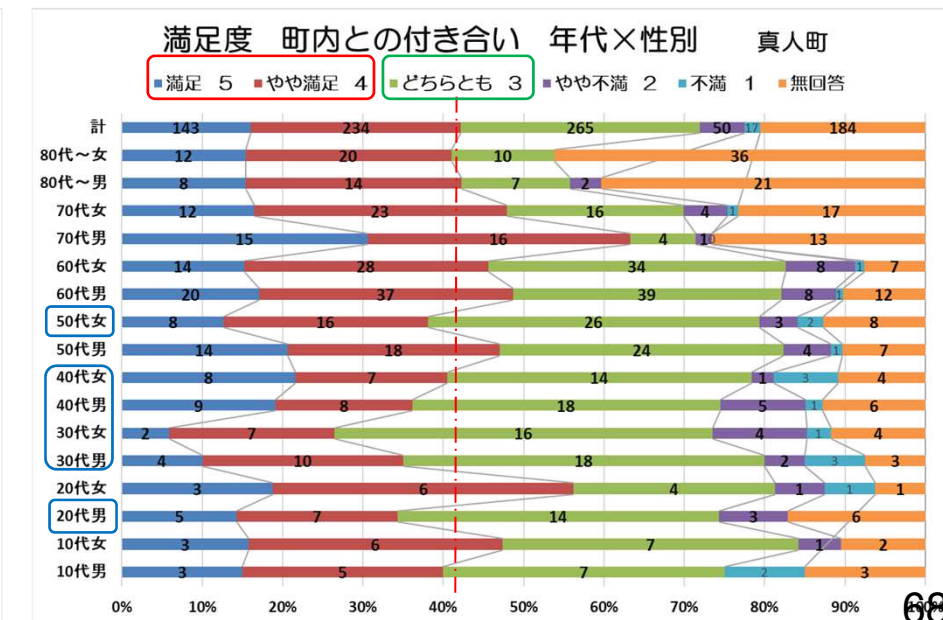
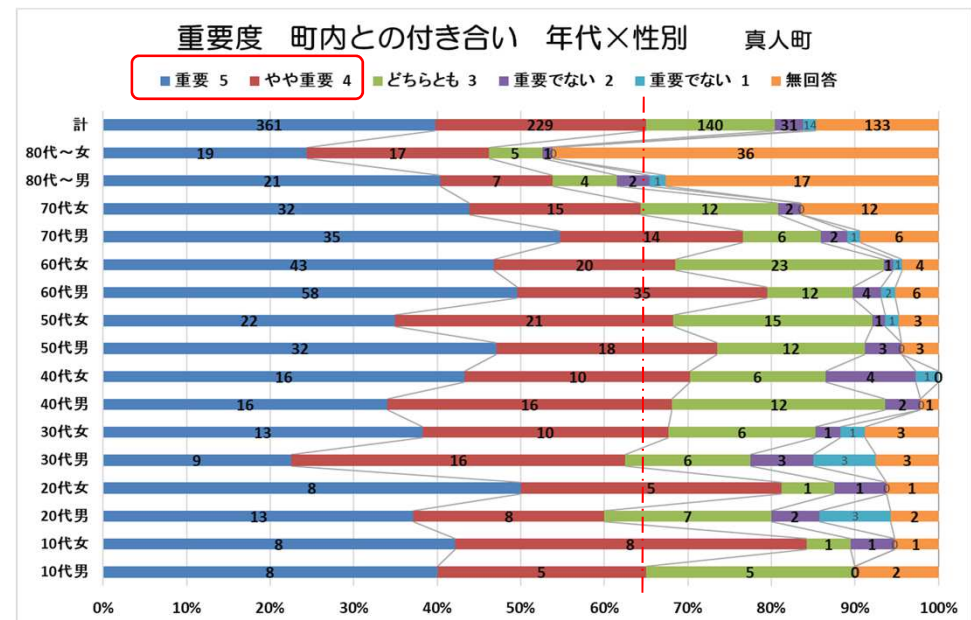
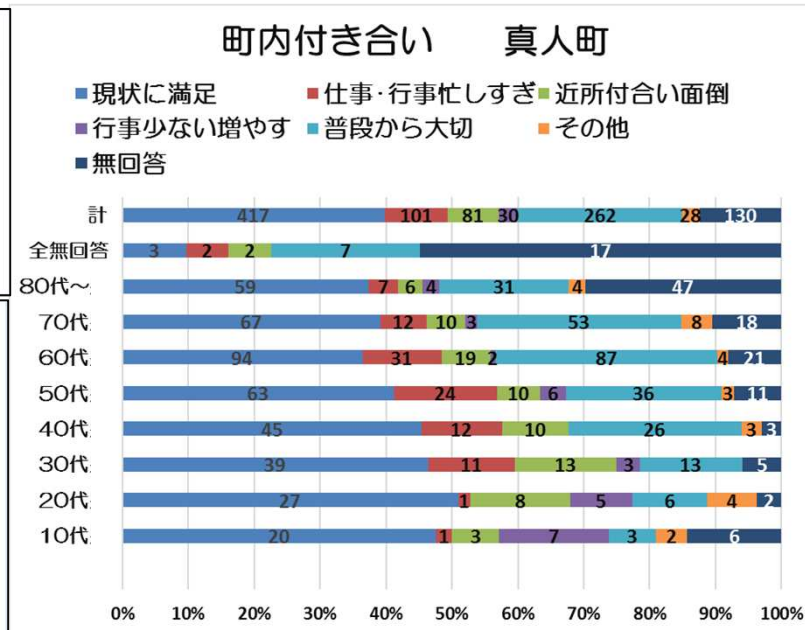
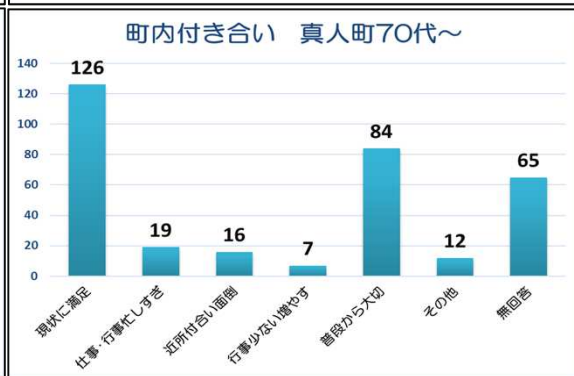
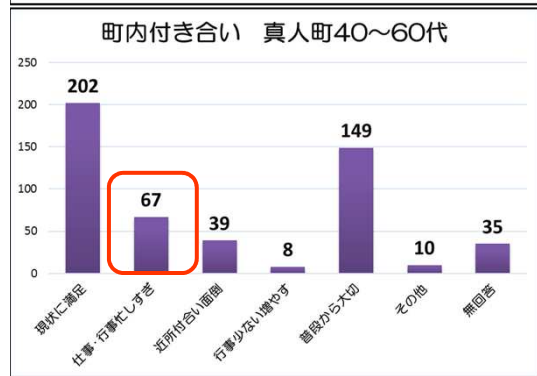
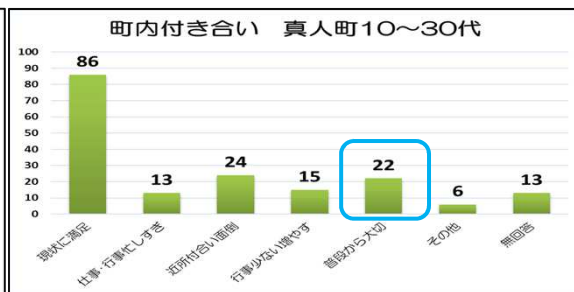
3-18 町内の付き合い方について(複数回答) 真人町



複数回答ではありますが、真人町全体では「現状に満足している」割合が約40%あり、「災害・防災時や高齢者の見守りなどに普段からの付き合いは大切」と思っている方が約25%おられます。また、若い方(20~30代)の中では「近所付き合いが面倒だ」と思っている割合が約15%ほど占めています。



3-18 町内の付き合い方について(複数回答) 真人町

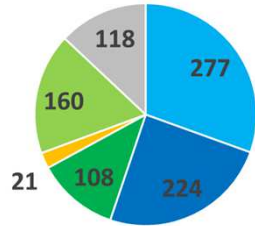


3-19 女性・若者の声を反映する必要性 (年代別×男女別) 真人町

活動や・運営に若者・女性の声をもっと反映

真人町

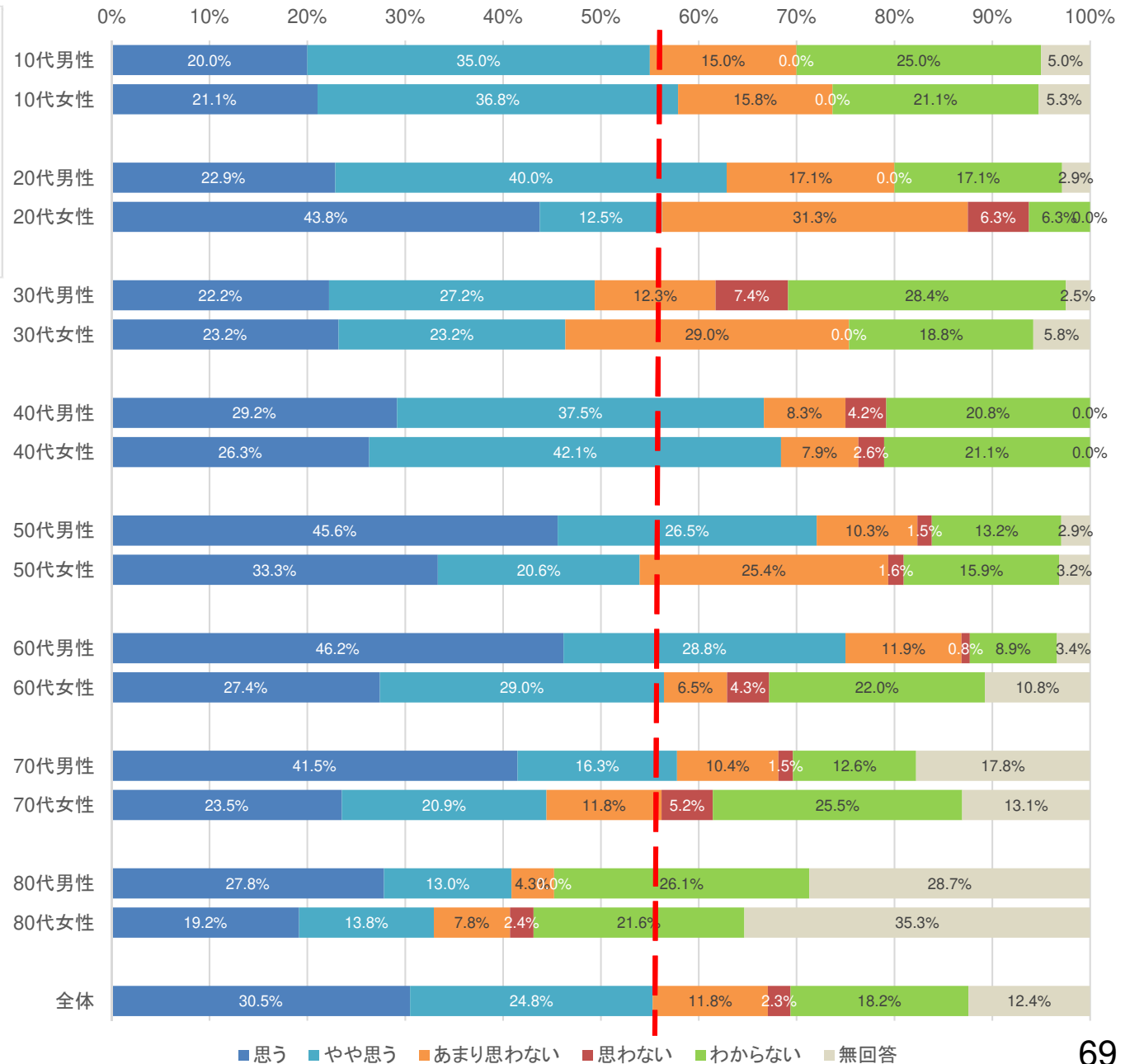
■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない ■ 無回答



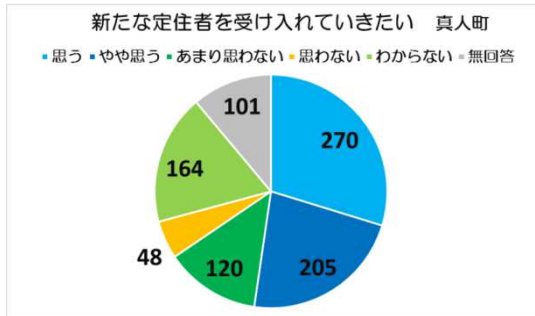
☆思う・やや思うと回答した方は55.3%、501人で、**地域全体では過半数以上が「必要」との意見**でした。

・男女の回答に大きな傾向の違いはありませんでしたが、50代後半からの男性のほうが必要と感じている割合が高くなっています。

・30代では全体の平均を男女とも下回った結果となっています。



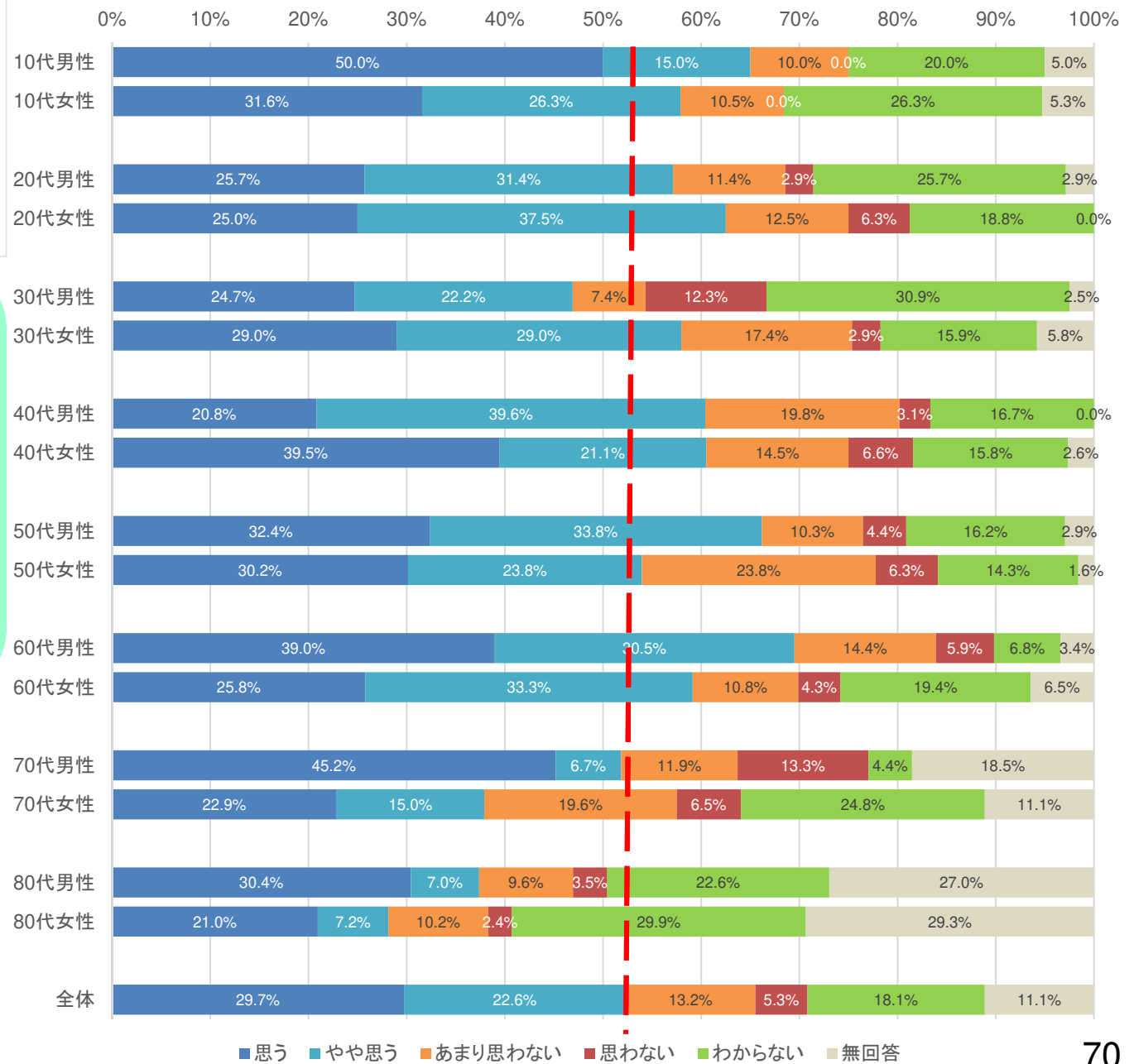
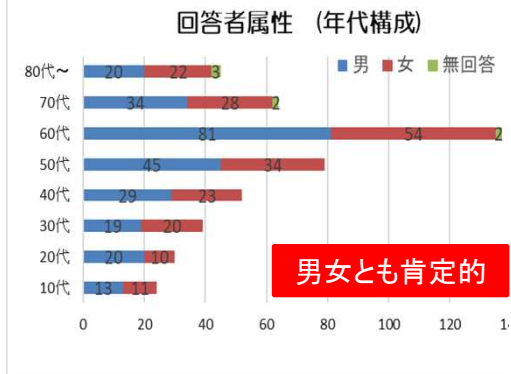
3-20 定住受け入れの必要性 (年代別×男女別) 真人町



☆思う・やや思うとの回答は全体集計で過半数を超えた475人で5割以上の方が「必要」だと思っている。

- ・60代から若年層では、30代の男性を除いて「必要」という割合が高い。
- ・50代より高齢者では、女性よりも男性のほうが必要性を感じている。

(思う+やや思う) × 男女別 [人]

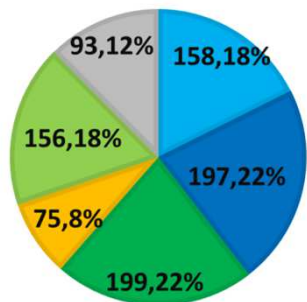


3-21 他地域との交流の必要性 (年代別×男女別)

真人町

他の地域と野交流を行っていききたい 真人町

■思う ■やや思う ■あまり思わない ■思わない ■わからない ■無回答

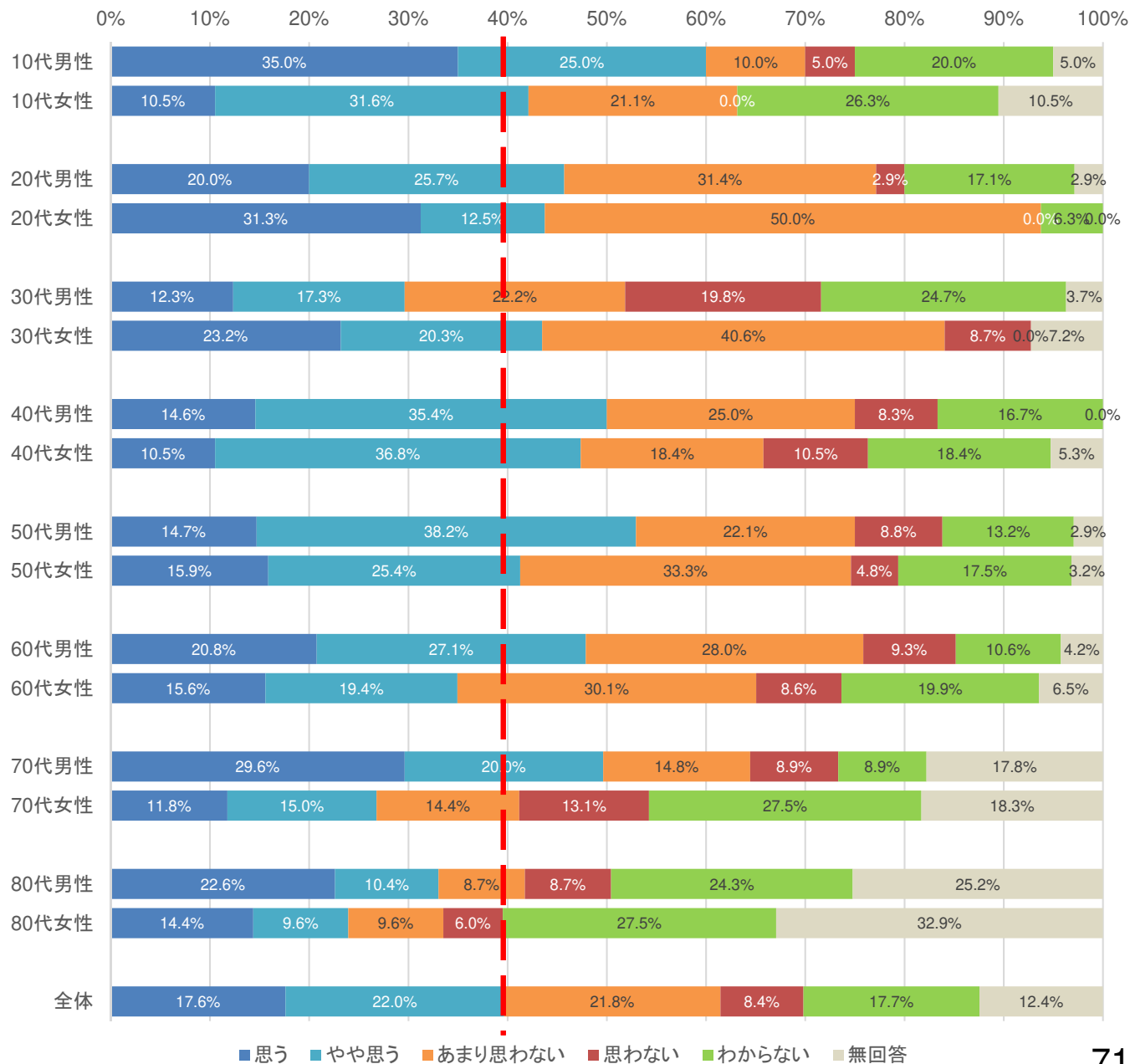


思う4割、思わない3割

☆「思う・やや思う」との回答は全体集計で過半数を超えた39.6%、355人でした。

また、「思わない・やや思わない」は30.2%でした。

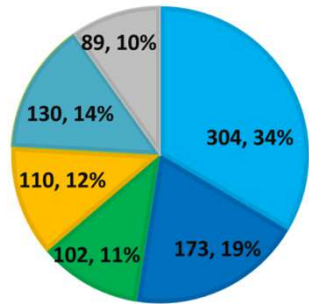
・男高女低傾向でしたが30代男性は低い。また、20~30代では思わない・やや思わないの割合も高く(34~50%)、年代性別の温度差もあります。



3-22 この地域に住み続けたいと思うか? (年代別×男女別) 真人町

今後もこの地域に住み続けたい 真人町

■思う ■やや思う ■あまり思わない ■思わない ■わからない ■無回答

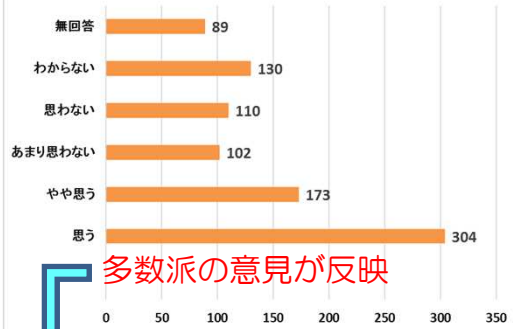


☆全体で見ると今後もこの地域に住み続けたいと「思う・やや思う」と回答とした方は52.8%、477人でした。

・各年代別に見ても5割前後となりますが、「思う」の回答を見ると年代が下がるほど低くなる傾向で、あまり思わないが増えていることがわかります。

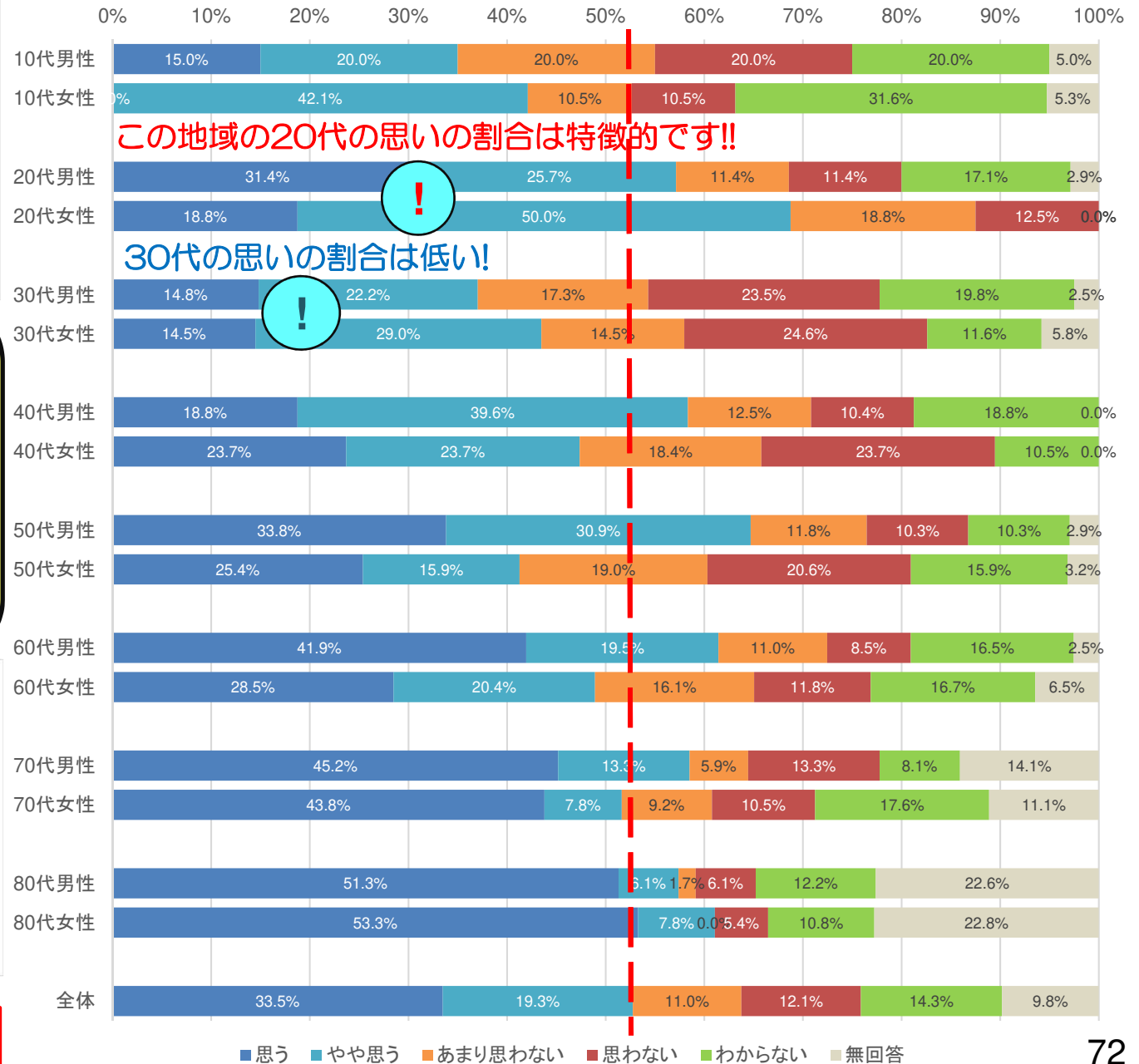
・また、子育て世代の女性も地区平均より低くなっています。子供への影響は…

今後もこの地域に住み続けたい 真人町



多数派の意見が反映

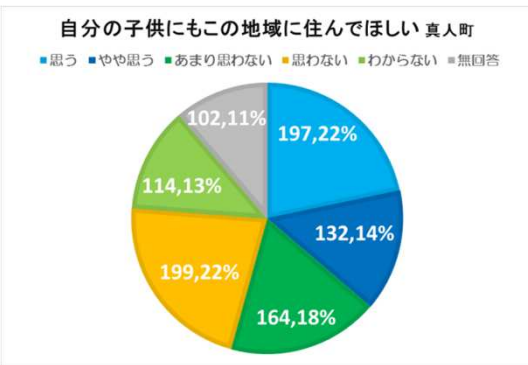
全体では5割



この地域の20代の思いの割合は特徴的です!!

30代の思いの割合は低い!

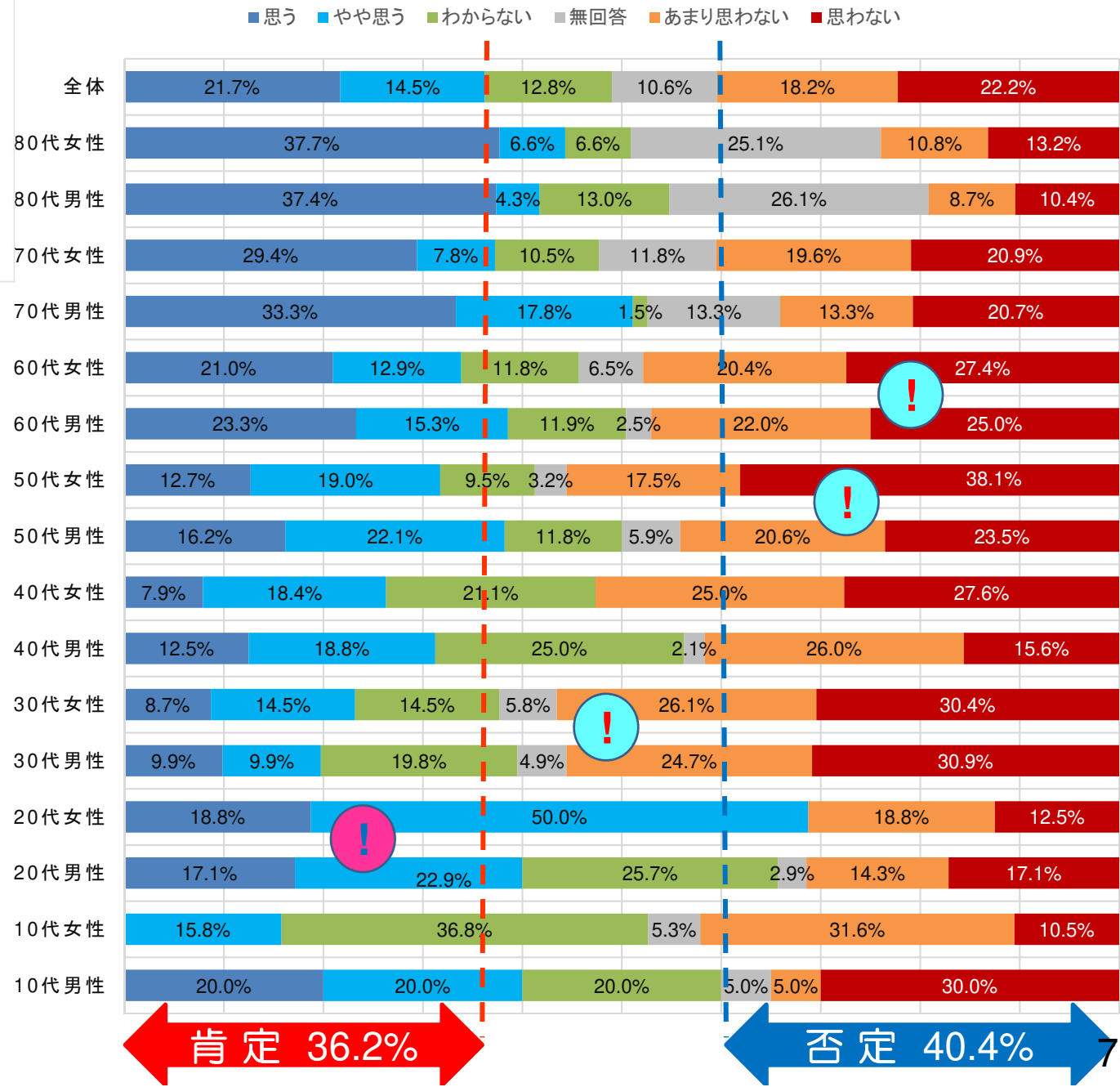
3-23 自分の子どもにも住み続けたいと思うか？ (年代別×男女) 真人町



30~50代の母親世代は
50・60代の親世代も
思う < 思わない

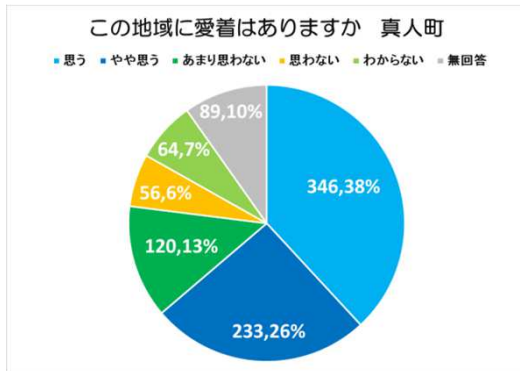
☆自分の子供にもこの地域に住んでほしいと「思う・やや思う」と回答した人は36.2%で、「思わない・あまり思わない」は40.4%となりました。

- ・30代以上では、若い人ほど子供にも住んでほしいと思う人は少なくなります。
- また、50~60代の後継者を考える年代の回答者は、住んでほしいと思うよりも思わないの回答が増えています。 30代の回答では50%以上を超えています。
- ・特にこの地域の20代の思いは特徴的です。



3-24 地域への愛着の有無 (年代別×男女別)

真人町



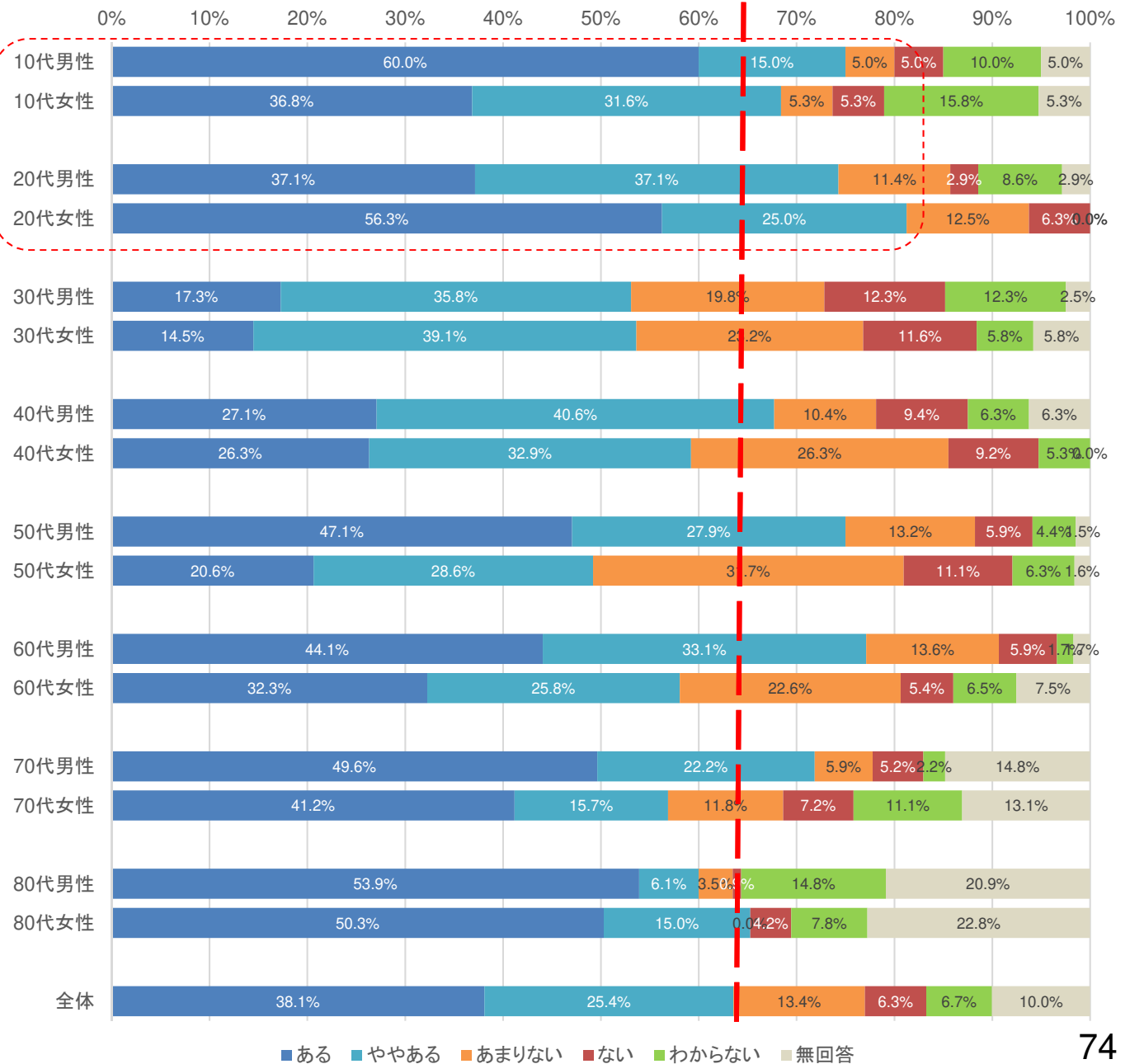
「愛着がある・ややある」は6割以上!!

若年層の地域に対する愛着は高い!!

子育て世代の女性の愛着は地区平均より低い!!

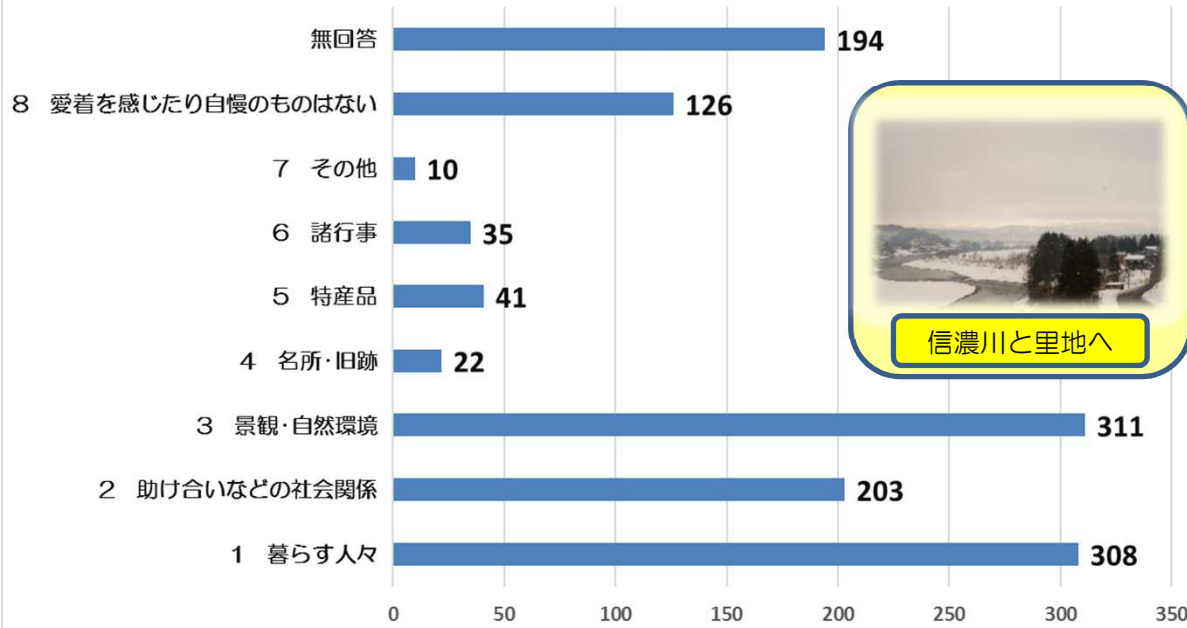
今後の子供たちに影響は大丈夫?!

地域への愛着度が子供たちへの定住意識に影響を与えることはないか



3-25 地域内で愛着を感じたり自慢はありますか 真人町

地域内で愛着を感じたり、自慢におもうもの 真人町



信濃川と里地へ



魚沼産 コシヒカリ



真人CX スキー大会



真人秋の陣



収穫祭 大田楽



山菜



デイホーム



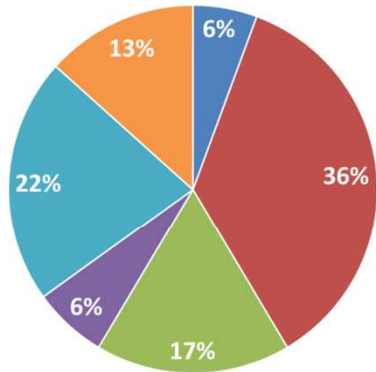
おぢや観光ガイドブック

・おぢやの観光ガイドブックを見たことがありますか？ 特産も景観・祭りも残念なことに真人地区は何も取り上げられてはいませんね…!! ひとつだけ載っている項目は宿泊一覧に「まるいち」・「おっこの木」の連絡先ですね。
 ・信濃川・コシヒカリ以外の山菜、野菜に秋祭り、CXスキーもメジャーではないですね。
 ・地域で開催して掲載されている「山谷・坪野ほんやら洞まつり」は参考となるかな・・・

3-26 以前とくらべて地域に対する思いに変化はありますか

地域に対する思いの変化 真人町

- 以前より好き
- 変わらず好き
- 好きでなくなった
- 好きでなかった
- わからない
- 無回答



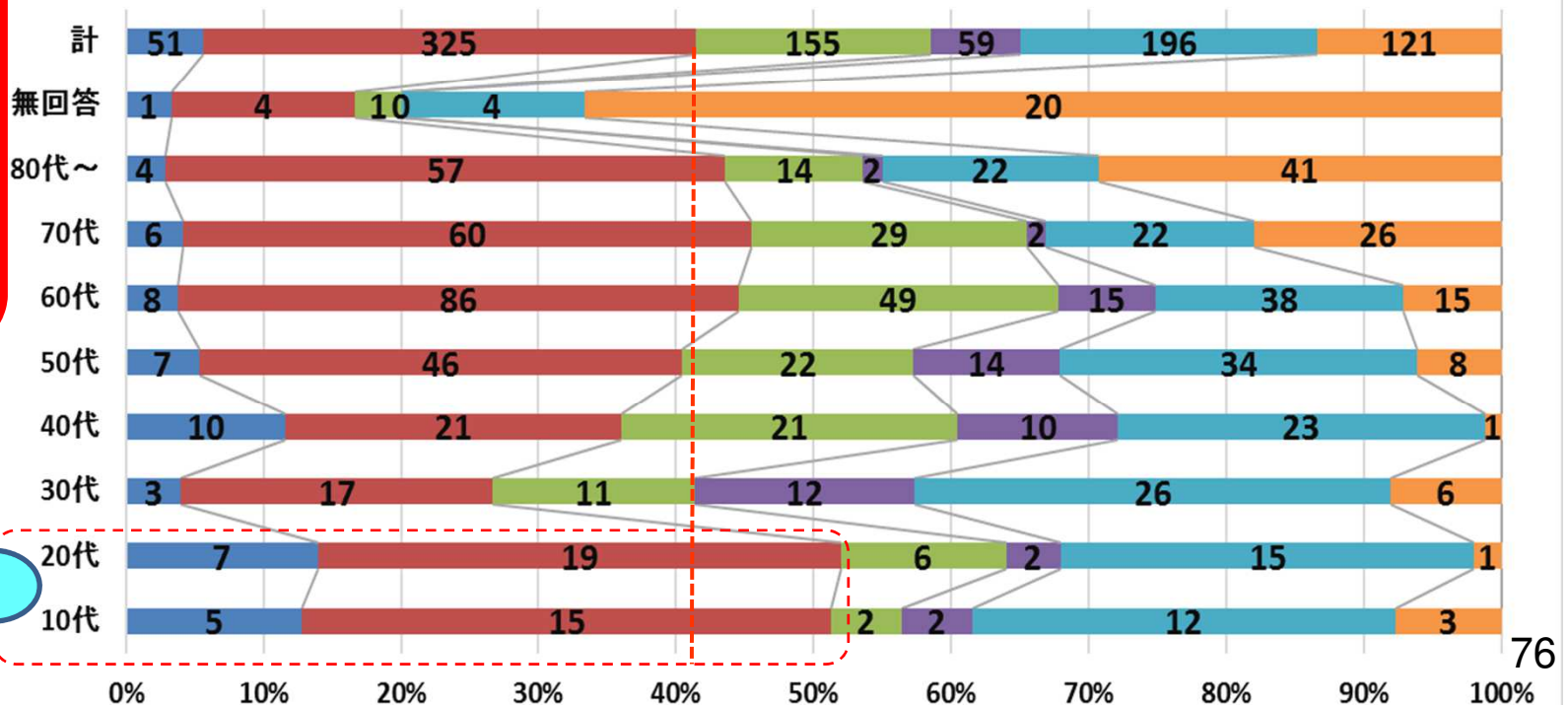
❗ 若年層の地域に対する愛着や思いは高い

・あなたの思いが若者に伝わっていないでしょうか…?



以前とくらべて地域に対する思いの変化 真人町

- 以前より好き
- 変わらず好き
- 好きでなくなった
- 好きでなかった
- わからない
- 無回答



若者の絆で、令和元年度から小千谷祭りに南部の万灯が出陣！今後の更なる活躍に期待

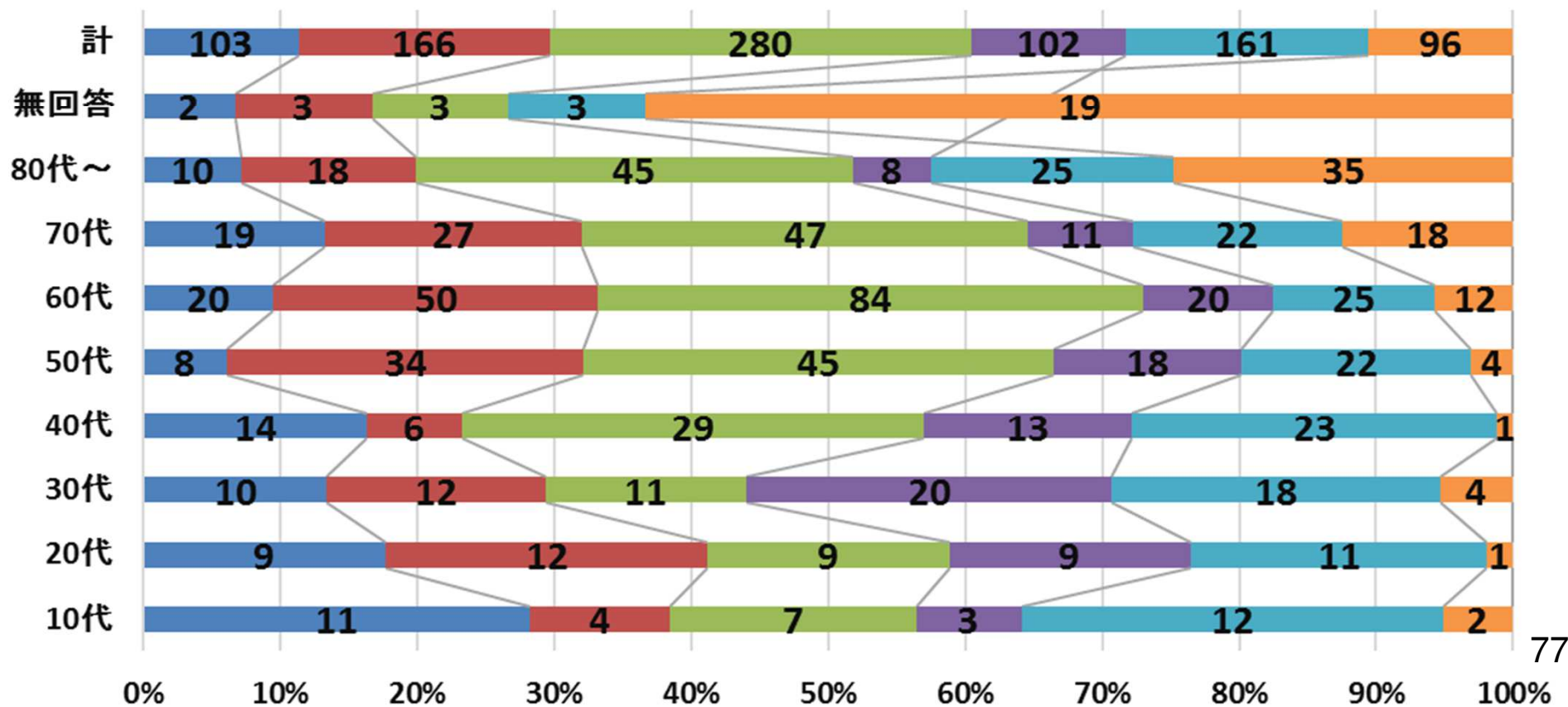
真人・岩沢…南部で出陣!!



3-27 今後の真人町全体の活動や行事について

☆真人町は社会情勢や地形などから、真人里地・芋時・北部地区の三つの地区で構成されていますが、真人町全体の活動や行事について今後どのように思うかについてお聞きしました。

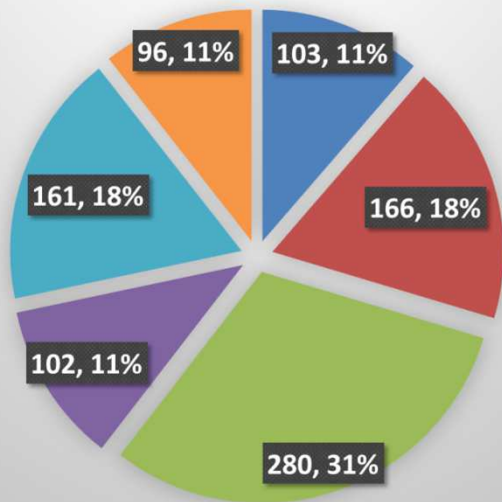
真人町全体の活動や行事について 真人町



3-27 今後の真人町全体の活動や行事について 三地区の状況

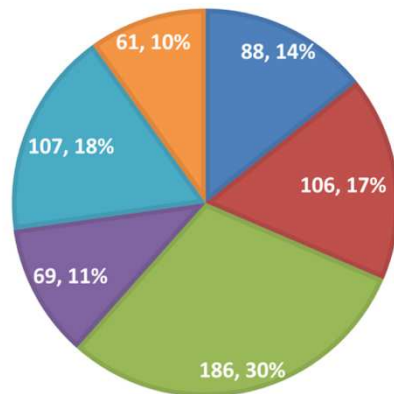
今後の地区行事・活動について 真人町

■全体で ■地区毎 ■今のまま ■関心無 ■わからない ■無回答



今後の地区行事・活動について 里地地区

■全体で ■地区毎 ■今のまま ■関心無 ■わからない ■無回答

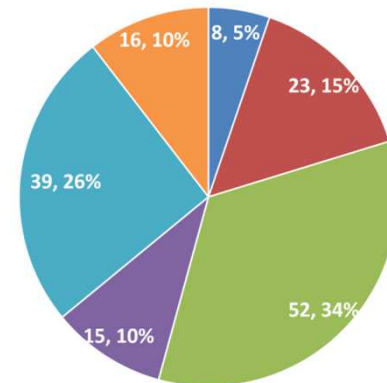


里地地区 大運動会



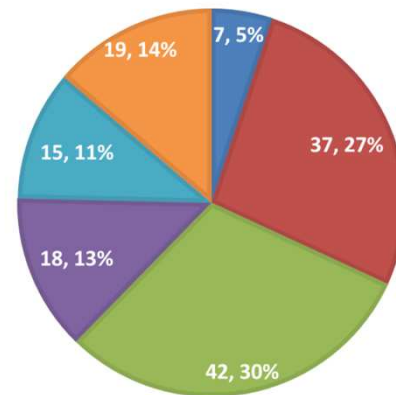
今後の地区行事・活動について 芋時地区

■全体で ■地区毎 ■今のまま ■関心無 ■わからない ■無回答



今後の地区行事・活動について北部地区

■全体で ■地区毎 ■今のまま ■関心無 ■わからない ■無回答



北部地区 敬老会



三地区で開催 デイホーム

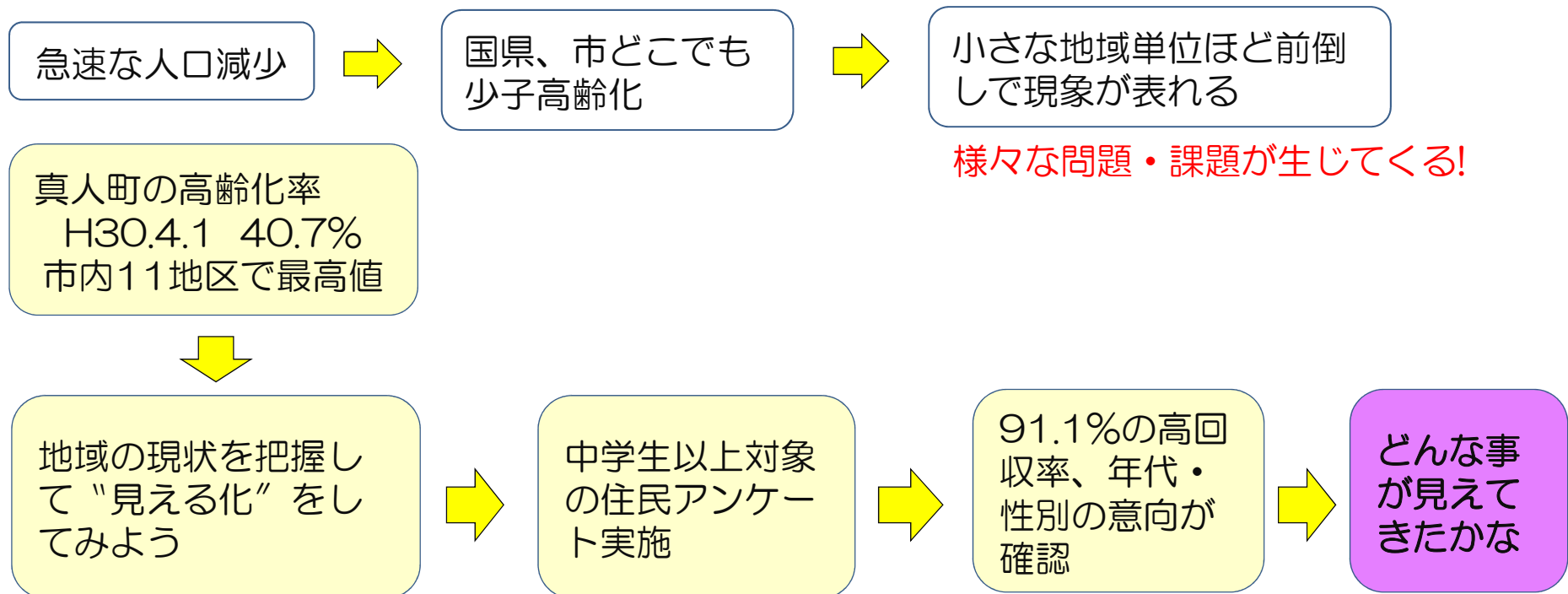


☆三地区とも現状の「今のままで」が多くのおいとなりました。

・「真人町全体での行事や活動」は少数の声となりましたが、デイホームや今年初参加となる小千谷祭りへの万灯参加などは拡充されても良いものかと思えます。

アンケート結果から見えるポイント

ご協力を頂いたアンケートを集計し、見て分かり易くするために項目ごとに再集計を行って分析を進め、「見える化」を図ってきました。そして、その現状を把握し、様々な問題や課題を自分のものとし、「我がごと」として“話のタネ”とした対話ができるように「アンケート結果から見えるポイント」としてまとめました。
それぞれがさらに自分なりに結果をかみ砕き、話し合いの場を広げて対話の場が広がれば幸いです。



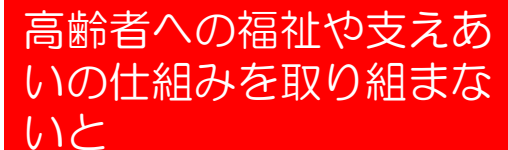
将来人口を推計すると「少子高齢化が加速」し、急速な人口減少がさらに進みます。そして、様々な問題や課題が生じてきます。今回の「住民アンケート結果」からも、それらが見えてきました。「今が良くて、10年後にはどんな困りごとが…」など、この住民アンケートを話のタネとして対話を進めることから始めましょう。そのため、ここではアンケート結果のポイントを記載しました。

☑ 70代女性や80代以上から高齢者のみの世帯が増加。

- ▷ 支える側から支えられる側へシフトされ、家族や地域から支えてもらう高齢者が増加する。
⇒高齢者のみの世帯割合も増加し、高齢者移動支援、福祉介護などの仕組みを考えないと。
- ▷ 高齢者の単身世帯も増加し、将来の対応が必要となる。
⇒所有地・建物の維持管理は… 空き家の増加による防犯などの対策も必要。
※80代以上の女性は半数近くの人が配偶者がいない。

☑ 若い世代に配偶者がいない人が多い。

- ▷ 30・40代の世代に独身者が多く、結婚を機に転出による人口減少もある。
⇒地域の子供の割合が少なく、多老化の進行が著しい。婚活などに対する認識も深めていかないと。
- ▷ 3世代家族が著しく減少している。
⇒後継者の対策は。



高齢者への福祉や支えあいの仕組みを取り組まない



嫁さんと後継者対策はどうする!?

☑ 農業従事者の90.7%が60代以上。

- ▶ 兼業農家が多いが、農業の主力は60・70世代。山間地では国の農業政策により、転出者も通い農業で現在は農地を保全。
- ▶ 各地で小規模圃場整備事業が進められている。これからの担い手は個人、集落営農!? 受託しても農地が点在では管理の労力も負担も大変!

将来的な農地の維持管理はどうする?

☑ 70代になると自分で車を運転する人の割合が減少。

- ▶ 送迎する側の負担は今後増加。送迎する側の人数減少により、日常生活での移動が困難になる人の数は、今後確実に増加していく。

☑ 高齢者の移動支援は、今後の重要なテーマだという認識。

- ▶ 大半が車の運転ができるため、「今は困っていない」状況。ただし、車の運転ができなくなると、日々の暮らしに困る人が急増することは確実。
- ▶ 30代から60代(現在、高齢者を送迎している側)で比較的強く求めている傾向がある。

地域の人口構成を勘案すると、移動支援は今から準備すべき課題

✓ 町内、地域活動への参加状況は全体で6割。

- ▶ 20代女性と30代の「参加していない」の回答割合は高い。
- ▶ 50・60代男性の参加割合は高く、役員として活動、行事の中心を担う。
- ▶ 30・40代の参加理由は「頼まれたり誘われた」がトップ。全体では「知り合いや仲間がいる」がトップ。
- ▶ 不参加の理由では「時間がない」が全体のトップで、特に10代の割合は高く「10代は忙しい」30～50代も仕事との兼ね合いから「時間がない」の回答は高い。現代の仕事や勤務体制は、24時間営業や夜間・休日勤務など、行事の日も仕事に就いている人がいる。

✓ 他地区のアンケート結果では、20～50代で土曜日が毎週休日なのは3割、日曜日が毎週休日なのは約6割。約3割が日勤と夜勤の交代勤務という状況がある。(金ヶ崎町北部地区参考)

- ▶ この世代は、必ずしも土日・夜間が休みではない。

✓ お祭りなどの行事は今後も続けていきたいか。

- ▶ 「47%の人が続けていく」、「14%の人が思わない」と回答。10・20代と40代女性、50代男性は平均よりも高い回答。30代男性は平均よりも特に低い。

多様な地域活動へのかかわり方を設けることで参加の可能性があるのでは？

直接対話を通じて、さらに理由を深堀していくことが必要。

この世代の参加を求めるのであれば、開催日設定の配慮が必要。

若い世代の高い意識を継続できるか。

アンケート結果から見えるポイント④

真人町

☑ 町内の付き合い方については4割の回答が現状に満足。

- ▷ 複数回答の4割が現状に満足し、災害・防災時や高齢者の見守りなどに普段からの付き合いは大切と25%の人が回答。
- ▷ 20・30代を中心に一定程度の人が近所づきあいが面倒だと15%の人が回答。

高齢者のみ世帯が増加するため普段からの付き合いはさらに重要。
プライバシーに配慮しながら地域のつながりを維持・継続。

☑ 女性・若者の声を反映する必要性。

- ▷ 「思う、やや思う」とした方は全体の過半数を超える55.3%が回答し、「思わない、あまり思わない」は14.1%で中堅世代の男性の割合が高い。
- ▷ 20・30代と50代の女性に「思わない、あまり思わない」の回答(27.0~39.6%)が全体平均よりも高い割合。
- ▷ 30代と70代の女性、80代以上で全体平均よりも低い割合。

まずは、開かれた対話の場・機会を設けていくことと意識の高揚が必要。(会議のやり方の工夫も)

☑ 定住受入れの必要性。

- ▷ 「思う、やや思う」とした方は全体の過半数を超える52.3%が回答し、「思わない、あまり思わない」18.5%。30代男性を除き60歳代以下の回答割合は全体平均以上。

大半が定住受け入れを認めている!

☑ 他地域との交流の必要性は全体で4割が肯定的で3割が否定的。

- ▷ 肯定的の70代以下の回答は、30代男性と60・70代の女性が全体平均より低い回答。否定的な回答では、20~60代で割合が高く、20・60代女性と30代では肯定的意見を否定的意見が上回った。

交流事業を行う場合は、機運醸成が必要。

アンケート結果から見えるポイント⑤

真人町

☑ この地域に「住み続けたい」と「思う、やや思う」と回答した方は全体平均で52.8%。20代・80代と40~70代男性の割合が高い。

▷ この地域の20代の思いの割合が高いのは特徴的ですが、30代の割合は低い! また、全般的に女性のほうが低い。

▷ 「思う・やや思う」を合計した回答の割合も、高齢者ほど「思う」の割合が高く、年代が下がるほど「やや思う」の割合が高くなる。

☑ 他地区全体では36%の人が「自分の子供にも住み続けてほしい」と回答したが、それを上回る4割の人が否定した。

▷ 10代男性と20代の回答割合は「住み続けてほしい」の割合が高い。50・60代男性と70・80代は平均よりも高い割合だが、60代から30代にかけてその割合は低くなる。

▷ 「住み続けてほしい」に否定的な回答は30~60代の割合が高く、30代では50%を超えています。後継者を考える50・60代も高い割合(44.1~55.6%)です。また、子育て世代の女性も高い割合(52.6~56.5%)です。

☑ 地域に対する愛着度は6割以上で高く、若年層(10・20代)の地域に対する愛着も高い!!

▷ 10・20代の愛着は地区平均を上回る割合。(68.4~81.3%)

▷ 子育て世代女性の愛着は平均を下回る割合。(49.2~59.2%)

この地域の若年世代の思いは高い、次世代が地域への誇り・愛着を持ち、将来への希望を見出せるような地域づくりは不可避。

子育て世代の意向が若年層の定住意向に今後影響する可能性あり。84

✓ 地域内で愛着を感じたり自慢はあるか。

▷ 景観・自然景観、暮らす人々、助け合いなどの社会関係の順で高い回答がありましたが、名所・旧跡、特産品、諸行事などへの回答割合は低く、愛着を感じたり自慢のものはないと回答された方もいました。

✓ 以前とくらべて地域に対する思いに変化はあるか。

▷ 「以前より好き、変わらず好き」を合わせた回答の全体割合は42%でほぼ以前から変わらず好きと回答し、「好きでなかった、好きでなくなった」の23%を大きく上回った。40～70代で以前より好きでなくなったとの回答割合が高かった。

▷ 50～30代で全体平均を下回り若年になるほど低い割合となるが、10・20代は52%が好きだと回答し、好きでないのは13%の少数派。

✓ 今後の真人町全体の活動や行事について

▷ 「地区ごと、今のままで」の回答が49.1で、真人町全体で11.3%、わからない18.1%を大きく超えた。

▷ 「地区ごと、今のままで」の回答割合を地区別にみても、里地47%、芋時55%、北部57%と高い割合。

▷ 真人町全体での活動は「真人地区町内会長協議会」、「デイホーム真人」とわずか!!

地域資源・伝統や根付いたものを大切にしながら、行事では人を呼べる北部地区の収穫祭に取り入れた大田楽、地域特性を生かした花火大会や里地地区のCX大会を手本に対話を深めてみましょう。

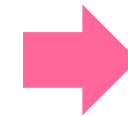
昔の行政単位が崩れ、学区も北部では別になって繋がりも薄くなるが、人口減少で維持することも大変になる。事案によっては組織単位を超えた枠組みも必要にならないか!?

☑ 暮らしの中の困りごとトップ5は、

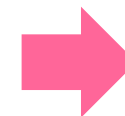
- ①屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなどの冬季の雪処理
- ②今後、自分が運転をできなくなった場合の移動手段
- ③自身の健康状態のこと
- ④家族の介護に関わること
- ⑤買い物、通院、通学、通勤などの移動手段

☑ 取組の満足度と重要度の評価トップ5は、
(これから大切だと思っているテーマ)

- ①買い物、通院、通学、習い事など、移動支援活動
- ②冬季の道路除雪・交通確保、雪対策
- ③婚活イベントや紹介などの対策 婚活支援
- ④子育てなどの相談ができる場や人、子育て支援
- ⑤農地・農業用施設・山林など、維持管理活動



困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。



ただし、世代によって上位ランキングされている内容は異なる。若年・中堅層は少数派であることを十分に認識し、丁寧に扱うことが求められる。

☑ 人口減少で少子高齢化は加速する

- ▶ 「国・県、市のどこでも人口減少は進むが、小さい単位の地域ほど前倒してその現象が進む。
(15年間で31.2%減少 ⇒ 今後15年間でさらに37.8%減少)
- ▶ 行政も税収が落ち、従来施設などの維持経費が嵩む事から自由に使える経費が縮小し、行政に依存することが難しくなる。

行政と地域のやるべき事の住み分けにより、地域でできる事は地域の特性を生かして行う必要がある!?

○高齢化による地域福祉は

- ▶ 高齢者数も減少するが、少子化の加速や生産人口の減少する人口構成では高齢化率は増加する。
(人口比 ⇒ 支える側の減少 支えられる側の増加)
- ▶ 三世帯同居が減少し、高齢者のみの世帯が増加し、家族や地域が支える事が必要となる。

地域の支え合い活動の構築(組織、仕組み)が必要!?

○役員の負担が増してくる

- ▶ 人口減少や多老化による役員の人選が困難となったり、負担が増してくる。

組織、役員体制の見直しが必要!?

後書き

真人地区町内会長協議会長 瀧澤 功

日頃より地域の活動にご理解・ご協力を賜りありがとうございます。

さて、昨年度実施をしました真人町の中学生以上を対象とした「住民アンケート」につきましては、皆様からご協力を頂き高回収率で受領をさせていただき、各年代層からの意向を把握させていただきました。その後、アンケートの結果を集計し、更に分析を行うための再集計を進め、見やすく伝えるためのグラフ化をしながらまとめてきたところです。

先般、7月30日にはこの結果の「住民アンケート結果報告会」を地域づくりの専門家を招いて開催させていただきました。今後も機会を得ながらアンケート結果から見える地域の現状や問題・課題の周知を行いたいと考えています。このため、今回アンケート結果の一部を抜粋した概要版を作成しましたので、これを全戸配布といたします。ご家族皆様でご覧いただき、先ずは「我がごと」とし、この結果を話しのタネにして話し合いが進めばと考えています。

急速に進行する人口減少からの多様な問題や課題が考えられます。少子・高齢化(多老化)や地域・組織の維持などについて、「今が良ければ…」から将来を見据えて出来ることを進めていきましょう。

(報告書を見るだけでは理解できないって場合は、説明に出向くことも可能ですので相談して下さい)

- アンケート結果・分析を話のタネとして
- 現状把握、問題・課題を我がごととして

先ずは話し合いを進め

行動に移してみよう!



7.30アンケート結果報告会